

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		酒井哲郎	所 属		医学研究科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.35	1) 神経生理学の講義・実習においては、神経科学の基礎の理解から始め、さらに最新の話題までの「広く深い」知識の習得を目指す。本年度も昨年度と同様に、power pointの内容に随時改良を加えていく。さらに、非常勤講師2人による特論の講義によって、カリキュラムを充実したものとす。また、小テストやレポートの課題を設定して学生の持続的学習を促していく。また、本年は、学生が不得意とする電子回路の基礎について、プリントを作成して配布する。2) 医学外国語では神経生理学の歴史を綴った“Galvani's spark”を教材として用い、輪読により医学英語になじむと共に生理学の知識の習得を目指す。さらにこれを通して英語を通して医学を学ぶ習慣を養う3) 医学概論Aの講義においては、基礎医学のearly exposureとしての位置づけを重視し、本年度もわれわれの研究室での最新の研究の進歩を紹介し、基礎医学への興味を掘り起こし、学生の研究へのmotivationを向上させていくことを目指す。4) 大学院生への講義においても、われわれの研究室での研究の紹介を軸に院生の医学への知的好奇心を刺激して各自の研究への情熱を喚起する。5) 第3年次の指導教官として年2回学生との懇談会を開催し、担当学生の相談に応じる。さらに、今年度は、臨床科目のスタートにとまどう学生に対して随時e-mailや面談により丁寧な相談をおこない、彼らの医学へのmotivationを高め、drop outを防ぐ。			0.35	1) 神経生理学の講義・実習において、神経科学の基礎の理解から始め、さらに最新の話題までの「広く深い」知識の習得を目指した。また、授業に用いるpower pointの内容に大幅な改良を加えた。さらに、非常勤講師2人による特論の講義をおこない、カリキュラムを充実したものとすることができた。さらに、本年は、学生が不得意とする電子回路の基礎について、プリントを作成して配布して電気生理学への理解を深めることができた。2) 医学外国語では本年度より神経生理学の歴史を綴った“Galvani's spark”を教材として新たに用い、輪読により医学英語になじむと共に生理学の知識の習得を目指した。さらにこれを通して英語を通して医学を学ぶ習慣を養うことをおこなった。3) 医学概論Aの講義においては、基礎医学のearly exposureとしての位置づけを重視し、本年度もわれわれの研究室での最新の研究の進歩を紹介し、基礎医学への興味を掘り起こし、学生の研究へのmotivationを向上させていくことをおこなった。4) 大学院生への講義においても、われわれの研究室での研究の紹介を軸に院生の医学への知的好奇心を刺激して各自の研究への情熱を喚起することができた。5) 第3年次の指導教官として年2回学生との懇談会を開催し、担当学生の相談に応じた。さらに、懇談会での話し合いや面接の中で、彼らの医学へのmotivationを高め、drop outを防ぐ活動をおこなうことができた。		
研究	0.40	自分のライフワークである膜電位の光学的イメージングの技法を軸に研究を展開し、これまでに継続してきた、実験的心房細動の光学的解析の研究を進める。なお、この実験系を用いた不整脈研究をおこなっているのは、世界的にもわれわれのみである。研究成果は論文にまとめて発表するほか、国内外の学会にて研究成果の発表をおこなう。特に本年度はアジア太平洋生理学会(FOAPS2015)において発表をおこない、アジア太平洋地区の研究者と討論を深めることを予定している。研究費については、本年度は昨年度より継続で科学研究費補助金の獲得に成功しており、これの有効な活用をおこなう。さらに民間外部資金への応募を積極的におこなう。			0.40	自分のライフワークである膜電位の光学的イメージングの技法を軸に研究を展開し、実験的心房細動の光学的解析の研究を進め、scMOSカメラを用いて活動電位の伝播パターンを動画化する技術を確立した(2016年3月日本生理学会大会において発表予定)。なお、この実験系を用いた不整脈研究は、世界的にもユニークなものである。また、これまでの研究成果を総括してJournal of Physiological Sciences誌にmini-reviewとして上梓した(On line版はすでに公開)。その他、国内外の学会にて研究成果の発表をおこなった。特にアジア太平洋生理学会(FOAPS2015, Bangkok)において発表をおこない、アジア太平洋地区の研究者と討論を深めた。研究費については、本年度は昨年度より継続で科学研究費補助金を得ており、これの有効な活用をおこなった。		
社会貢献	0.05	日本生理学会評議員を務めるとともに、日本生物物理学会・日本神経科学学会・米国Society for Neuroscience・米国生理学会会員として学会の発展に貢献していく。			0.05	日本生理学会評議員を務め、日本生物物理学会・日本神経科学学会・日本循環器学会・米国心臓学会・米国Society for Neuroscience・米国生理学会会員として学会の発展に貢献することができた。		
管理運営	0.20	システム生理学講座の管理者として、教室員のチームワークや教室費の無駄の無い有効活用などを重視して教室の管理・運営をおこなう。廃棄物委員会委員として委員会活動に参加する。			0.20	システム生理学講座の管理者として、教室員のチームワークや教室費の無駄の無い有効活用などを重視した教室の管理・運営をおこなうことができた。廃棄物委員会委員、図書館分館運営委員として委員会活動に参加した。		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		細川 浩	所 属		医学部 システム生理	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生支援	0.35	Neuroscienceの最近の研究成果を授業に反映し講義ノートを改編する。 学生評価アンケートに基づき情報演習をより理解しやすい内容に変更する。		0.35	Neuroscienceの最近の研究成果を反映した体温調節の講義ノートを改編した。 情報科学演習に実験データ処理や考察の要素を追加した。			
研究	0.45	研究成果をまとめ、学会誌への投稿準備および学会発表を行う。 豊橋技術科学大学知識情報工学科との共同研究を進める。 東京医科歯科大学難地疾患研究所との共同研究を進める。		0.45	研究成果をまとめて第92回日本生理学会および聴覚研究会で発表した。 豊橋技術科学大学知識情報工学科と共同実験を9、12月に行った。 東京医科歯科大学情報部と実験解析プログラムの改良について議論した。			
社会 貢献	0.05	学会誌の査読委員として学会活動に貢献する。 沖縄県体育協会行事の運営に競技審判員として貢献する。		0.05	沖縄県山岳競技予選会において競技審判長として貢献した。 沖縄県体育大会山岳競技及び名護岳登山実習に参加し、指導員として貢献した。			
進路 指導	0.15	指導教員として学生の勉学、生活面の相談に応じアドバイスする。 委員会委員として運営に貢献する。		0.10	M3の指導員として4月、10月に班会を開いて学生の近況を把握し、勉学、生活面の指導を行った。 教務委員として委員会の運営に貢献した。 聴覚研究会の開催に役員として貢献した。			
管理 運営	0.00			0.05	大学入試センター試験運営に主任監督者として貢献した。			
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠を広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。				

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		梁 運飛	所 属	医学部 医学科	職 名	助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.40	学部担当科目(生理学の実習)を担当し、学生の実習を丁寧に指導する。去年の実習に現れた問題により、実習書を直し、実習講義及び実習の指導方法を改善して、学生の実習の質を一層高めることを目指す。		0.40	去年の実習に現れた問題により、実習用テキストを改定し、今年度の学部学生の電気生理学実習は去年度よりかなり順調になった。実習に関する教育目標を達成した。	
研究	0.50	1、動物実験モデルにおける高血糖症に対するEM-Xの効果に関する英語研究論文を直して国際雑誌に再投稿する。2、沖縄にある亜健康(未病)研究所と連携し糖尿病などの生活習慣病に関するの共同研究を行う。3、鹿児島大理学部との痛覚に関する共同研究を続けて行う。		0.50	①研究成果「Molecular Hydrogen Medical Researches and Health Effects of Hydrogen Water」を[World Natural Medicine Forum 2015]にて発表した。 ②研究成果「Effects of dao-yin qigong in the management of type-II diabetes」を[Complementary Therapies In Medicine]に投稿した。	
社会 貢献	0.05	続けてボランティアで日曜日の沖縄県民のための「中国語会話」の活動を取り組んで地域社会に貢献をする。		0.05	ボランティアで世話人として毎月の第一の日曜日の午後に那覇市新都心で「中国語会話」の活動を行った。県民の参加者からの好評を得た。	
管理 運営	0.05	大学センター試験及び二次試験の監督関連業務等に積極的に参加する。		0.05	大学センター試験と本学の二次試験の監督業務に参加し、任務を成し遂げた。	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		村山 貞之	所 属		医学研究科・放射線診断治療学講座	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.10	卒前教育:毎週のポリクリ、クリクラ時の教育、M4に対する放射線医学の講義 卒後教育:毎週の放射線科の症例検討会 逐次の専門修練医の教育。M4-M6学生に対してポリクリ時、クリクラ時に進路指導を行う。担当指導教官として指導を行う。			0.10	ポリクリ学生に対して昼食会を行い、進路指導を行っている。充分、目標を達成した。		
研究	0.20	肺癌、感染症、呼吸機能に関する画像診断の研究を進める。特に、320列CTを用いた多施設研究(共同研究で資金獲得済み)、肺結節の良悪性の鑑別、cine MRによる肺高血圧症の診断(今年度採択ならなかった文科省科研費獲得に向けて取り組む)に力を入れる。PETの新しい核種を用いた臨床研究を進める(沖縄県クラスター事業補助金の一部を用いて進める)。			0.20	十分に目標を達成した。加えて、320列CTを用いた低線量胸部CT画像の多施設研究において、リーダーシップを発揮した。		
社会 貢献	0.10	重粒子線治療施設導入の検討委員としての活動を行う。県内、県外施設に必要な放射線科医の派遣を行う。日本医学放射線学会理事、呼吸機能イメージング研究会代表、NPO胸部放射線研究機構理事として職務を全うする。			0.10	十分に目標を達成した。		
管理 運営	0.50	講座長、放射線科長、放射線部長としての管理業務を指揮する。			0.50	十分に目標を達成した。		
診療	0.10	PET/CTの読影を行う。PET症例数の増加のため、渉外活動を行う。読影済みの画像診断レポートのチェックを行う。			0.10	十分に目標を達成した。		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名前		戸板孝文	所属	医学研究科 放射線診断治療学講座	職名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.20	<p>系統講義等で悪性腫瘍の集学的治療における放射線治療の役割と重要性を系統的に理解させる。臨床実習で、IMRT、IGBT、SRT等高精度放射線治療の治療計画立案に参加させ、放射線治療の魅力を実感させる。以上により放射線腫瘍医を志す学生、研修医を育成する。倫理討論会チューター(テーマ:がん臨床試験)九州がんプロフェッショナル養成基盤推進プランのコーディネータとして県内のがん教育特に放射線腫瘍学の活性化を進めるとともに、特に九州大学との教育連携を進める。大学院生(2名)の教育指導を行い研究論文作成を指導する。4年次学生指導教官。</p>		0.20	<p>系統講義を3コマ(放射線医学、総合講義)を行った。臨床実習(ポリクリ、クリクラ)にて、がん集学的治療におけるエビデンスに基づく治療方針立案のプロセスを学習させ、討論に参加させた。医の倫理討論講師を担当し、がん臨床研究をテーマに討論を行わせた。ドイツ人学生1名の実習を受け入れ放射線治療の指導を行った。九州がんプロフェッショナル養成基盤推進プランの工学担当のコーディネータとして、セミナー/講習会開催し(7件、e-learningクラウドへの参加推進を進めた。九州大学との連携プログラムを実施し、大学院生1名を受け入れた。九州がんプロ全体研修会(福岡)に本学大学院生とともに参加した。学会等で教育講演を実施した(4件)。大学院生(2名)の教育指導を行い、1名の研究論文作成の指導を行った。医学部4年生指導教官として学習生活指導を実施した。</p>	
研究	0.30	<p>国際英文誌への論文投稿(1編以上)、文部科学省科学研究費の獲得、厚生労働省研究班への班員としての継続参加による配分研究費獲得。沖縄県「医療基盤活用型クラスター形成支援事業」研究費の獲得。多施設共同試験への研究事務局としての継続参加(JCOG、JGOG)、子宮頸癌に対する強度変調放射線療法のJCOG多施設臨床試験の立ち上げ(研究代表者)。子宮頸癌に対するIGBTの臨床試験(院内)への臨床例の集積。AMED研究費申請準備開始。</p>		0.30	<p>国際英文雑誌へ原著論文掲載(5件、うち2件はCorresponding Author)文部科学省科学研究費(基盤研究C)獲得、厚生労働省研究班への班員として配分研究費獲得(3件)。沖縄県「医療基盤活用型クラスター形成支援事業」研究費獲得し、県内の高精度放射線治療開発と推進を進めた。全国多施設共同試験への研究事務局としての継続参加(JCOG1101、JGOG1074)、子宮頸癌に対する強度変調放射線療法のJCOG多施設臨床試験の立ち上げ準備継続(JCOG1402研究代表者)。子宮頸癌に対するIGBTの臨床試験(院内)への臨床例の集積。Journal of Gynecologic Oncology誌のBest Reviewer Award 2015受賞。</p>	
社会 貢献	0.20	<p>専門学会(日本放射線腫瘍学会)ガイドライン作成作業(小委員長)。沖縄県クラスタ事業と文科省がんプロ事業の支援を得て、放射線治療の講習会開催(医師、技師、看護師対象)。沖縄県重粒子線協議会委員として作業をすすめる。学会の健保委員としてIGBTの保険収載に向けた作業を実施。他施設からの放射線治療部門見学の積極的受け入れ。企業治験コンサルタント(ゼリア製薬)。</p>		0.20	<p>専門学会(日本放射線腫瘍学会、日本婦人科腫瘍学会)ガイドライン作成作業(放射線治療計画ガイドライン小委員長、子宮頸癌治療ガイドライン作成委員)。沖縄県クラスタ事業と文科省がんプロ事業の支援を得て、放射線治療の講習会及びセミナー開催(医師、技師、看護師対象:計7件)、市民向け講演会(乳がんの放射線治療)開催。重粒子線治療多施設共同臨床研究(J-CROS)班の活動に参画。日本放射線腫瘍学会の健保委員としてIGBTの保険収載実現。企業治験コンサルタント/アドバイザー(ゼリア製薬、中外製薬、エレクタ株式会社)。</p>	
管理 運営	0.20	<p>放射線部放射線治療部門チーフとして現場の安全管理とマネージメント、院内癌登録室長、院内がんセンター各種委員会委員、九州がんプロフェッショナルプログラムのコーディネータ、臨床研究支援センター副センター長、沖縄県クラスタ事業</p>		0.20	<p>放射線部放射線治療部門チーフとして現場の安全管理とマネージメントを実施した。院内癌登録室長、院内がんセンター各種委員会委員を務めた。九州がんプロフェッショナルプログラムの工学コーディネータを務めた。臨床研究支援センター副センター長として、院内の治験・臨床試験の研究支援のマネージメントを実施した。沖縄県クラスタ事業のプロジェクトリーダーとして、事業のマネージメントを行った。</p>	
診療	0.10	<p>放射線治療外来(週1日)を引き続き担当。放射線治療計画の最終チェック、腔内照射、治療現場の安全管理とマネージメントを主に行う。</p>		0.10	<p>放射線治療外来(週1日)を引き続き担当。放射線治療計画の最終チェック(承認)、腔内照射、治療現場の安全管理とマネージメントを実施した。</p>	
計	1.00	<p>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</p>		1.00	<p>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</p>	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名 前		垣花 泰政	所 属	医学研究科・放射線診断治療学講座	職 名	助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.25	大学院生の研究指導		0.25	修士大学院生の指導、3月卒業予定	
研究	0.25	関連学会発表、論文発表		0.25	国内および国際学会で発表、論文投稿(印刷中)、研究助成金獲得	
社会貢献	0.10	関連学会委員会委員、がんセンターアドバイザー		0.10	日本医学物理学会秋季大会の大会長就任、医学物理士認定機構委員	
管理運営	0.10	放射線安全委員会委員		0.10	放射線安全委員会委員	
診療	0.30	放射線治療治療関連業務		0.30	放射線治療治療関連業務	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		西村 正彦	所 属	医学部脳神経外科	職 名	助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.25	「神経科学トピックス」、ポリクリ実習での「ニューロリハビリテーションの演習・講義を行う。機能的磁気共鳴画像に関する基礎知識・臨床診断、治療への応用について講義・演習を行う。		0.25	座学では「神経科学トピックス」を担当し、ポリクリ実習生に対しては「ニューロリハビリテーション演習・講義」を担当した。CBT試験監督、OSCE模擬患者として医学教育に参加した。	
研究	0.35	平成27年度科研費基盤(C)「ロボットスーツHALを用いた転倒予防トレーニングの開発と有効性に関する研究」を推進する。 経頭蓋直接電流刺激に関する研究及び機能的MRI、高密度(256ch)脳波計を用いた高次脳機能障害の治療的有効性についてデータ収集、データ解析を行う。		0.35	平成27年度科研費基盤(C)「ロボットスーツHALを用いた転倒予防トレーニングの開発と有効性に関する研究」を推進した。経頭蓋直接電流刺激に関する研究及び機能的MRI、高密度(256ch)脳波計を用いた高次脳機能障害の治療的有効性についてデータ収集、データ解析を担当した。共著「Cerebellar Contribution to Pattern Separation of Human Hippocampal Memory Circuits」がcerebellumに掲載された。「慢性期中枢神経障害患者への経頭蓋直流電気刺激による治療介入が筋力と脳活動に及ぼす効果—シングルケースによる検討—」が沖縄県作業療法研究に掲載された。第49回日本作業療法学会にて「ロボットスーツHAL単関節上肢タイプによる上肢機能訓練の有効性について」を口述発表した。	
社会貢献	0.10	浦添市障害者介護給付費等審査委員として、審査会に参画する。 沖縄リハビリテーション福祉学院の非常勤講師として授業を実施予定。		0.10	平成27年度は浦添市障害者介護給付費等審査委員として、月1回の頻度で浦添市障害者介護給付費等審査会に出席した。また、沖縄リハビリテーション福祉学院の非常勤講師として、理学療法学科・作業療法学科2年生を対象に脳神経外科学分野の授業(90分×10回)、作業療法学科1年生を対象に運動学の授業(90分×30回)を実施した。沖縄県医師会脳神経分科会の事務局担当として脳神経分科会の運営補助を行った。第120回日本脳神経外科学会九州支部会の事務局担当として学会の運営を担当した。沖縄県作業療法士会の新人作業療法士を対象にした研修会の講師を担当した。	
管理運営	0.10	リハビリテーション連絡委員を担当し、附属病院の診療環境の向上に貢献する。		0.10	リハビリテーション連絡委員を担当した。	
診療	0.20	作業療法士として脳疾患患者の運動機能回復訓練を担当する。 機能的MRIでの脳活動計測、電気生理学的神経機能モニタリングを担当する。		0.20	脳疾患患者に対してロボットスーツHALでの運動機能回復訓練を実施した。慢性疼痛患者、高次脳機能障害患者に対し、経頭蓋直接電気刺激(tDCS)を用いた治療を介助した。術前検査としての運動機能、言語機能、記憶機能に関わる脳機能計測として機能的MRIを駆使し、患者の脳機能マッピングを実施した。結果、安全な手術療法の実施に貢献できた。また、術中神経機能モニタリングを担当し、手術の安全性に貢献した。	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		片桐 千秋	所 属		医学研究科 脳神経外科学講座	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.15	大学院生の研究計画及び遂行、実験技術、学会発表等の指導。基礎研究への興味ある学部学生に対しよりよい提案を行う。			0.15	基礎実験の技術指導および研究の方向性について助言を随時行った。大学院生及び学部学生の学会発表に向けて指導し、付き添った。留学を希望する学生に海外のラボの紹介や助言を行った。		
研究	0.70	高圧酸素療法併用放射線治療によるマウス腫瘍への効果を分子細胞生物学的に解析。NMDA拮抗薬メマンチンの代謝への影響を解析。脳腫瘍cDNAライブラリーの作製と解析。TRPM7変異マウスの脂質代謝異常の詳細を生化学的に検討。Fray遺伝子のヒトホモログOSR1とSPAKの低酸素応答への関与を検討。			0.70	NMDA拮抗薬メマンチン投与マウスの行動解析を行い、放射線照射による脳機能低下への保護効果を動物モデルで証明した。脳腫瘍cDNAライブラリーを用いて腫瘍マーカー頭の発現量解析を行った。TRPM7変異マウスを用いた解析では炎症応答に関与するパスウェイに表現型がでることが明らかになった。		
社会貢献	0.10	自身の研究で得られた成果を学会等で報告する。			0.10	研究の成果を日本神経化学会、日本癌学会、国際放射線神経生物学会にて発表し、さらに新たな知見を得て自身の研究や学生等への教育に貢献した。		
管理運営	0.05	臨床研究棟実験室の整備計画を遂行し、完成させる。			0.05	臨床研究棟実験室の整備を完了した。動物実験施設内に当講座が管理する行動解析室を整備した。		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>			1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			



(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		知念安紹	所 属	育成医学講座	職 名	准教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.17	M3学生の講義(遺伝先天代謝異常)、テスト問題作成、OSCE医療面接講義および試験監督、病棟におけるポリクリ学生の指導、研修医の指導、医員の発表・論文の指導、遺伝カウンセリング研修生の医師指導 ポリクリ学生・研修医の進路相談、大学4年生の指導教官としての役割		0.25	M3・M4学生の講義(遺伝先天代謝異常・小児症候学)、テスト問題作成、OSCE医療面接試験監督、倫理討論会での学生指導、病棟におけるポリクリ学生、研修医の指導を実施した。ポリクリ学生には症例呈示で鑑別疾患など列挙させて討論を行っている。遺伝カウンセリング研修の医師(産婦人科1名、小児科1名、耳鼻科1名)の指導を実施している。	
研究	0.25	ムコ多糖症におけるイソフラボン治療の効果、有機酸代謝異常・脂肪酸代謝異常症の疾患予防について、沖縄県の新生児タンデムマススクリーニング、環境省の子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)の詳細調査		0.30	Morquio病の骨髄移植の本邦の成果について論文報告した。世界で3番目となるSaul-Wilson症候群について論文報告した。環境省の子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)で詳細調査を宮古島で開始し、市民公開講座を行った。また中心仮説のプロジェクトに参加し、報告書を提出した。プロピオン酸血症やムコ多糖症Ⅲ型の線維芽細胞を継代培養で問題なく成功し、プロピオン酸血症の実験の調整中である。新生児タンデムマススクリーニングを沖縄県で開始して1年間経過し、平成27年労働科研: マスクリーニングのコホート・コンサルテーション体制に関する研究(山口班)にて発表報告書作成した。	
社会 貢献	0.03	新生児マススクリーニングにてタンデムマス・スクリーニングを沖縄県にて導入し支援体制を構築すること、Down症候群の親の会に対するサポート活動、骨形成不全症の親の会に対するサポート活動、ムコ多糖症の親の会に対するサポート活動、		0.03	沖縄県の新生児マススクリーニング連絡協議会の設立とタンデムマス・スクリーニングのカットオフ値と陽性者の支援体制を構築している。ダウン症の親の会の相談などサポート活動、ムコ多糖症の親の会(県内および全国)に対するサポート活動	
管理 運営	0.05	医療機器安全専門委員会、NSTのサポートおよび6西病棟会議		0.02	医療機器安全専門委員会の参加、NSTの6階西病棟(小児科)の週1回会議の運営	
診療	0.50	先天異常・先天代謝異常の外来および入院患者の診療、遺伝カウンセリングを実施している。		0.40	先天異常・先天代謝異常の外来および入院患者の診療、遺伝カウンセリングを実施している。	
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		兼次 拓也	所 属		小児科	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.20	クリニカルクラークシップによるポリクリ学生へのベッドサイドでの指導、カルテ記載指導、疾患に関する情報提供、ディスカッション、系統講義における疾患講義、研修医への実技指導、疾患指導			0.20	ポリクリ、クリニカルクラークシップ学生へのベッドサイドでの指導、疾患に対する情報提供、ディスカッションは、昨年度よりは積極的に取り組んだ。しかし、まだ十分とは言えない。講義は十分行った。		
研究	0.20	CCS患者における内分泌学的検討、データまとめ			0.10	十分に行うことはできなかった。		
社会 貢献	0.20	糖尿病教室等の実施、患者会活動方針決定、支持			0.20	サマーキャンプへの参加、患者会の参加など、十分に行うことができた。		
管理 運営	0.20	各種委員会における貢献(リスクマネージャ、クリニカルパス)、病棟医長としての病棟管理			0.30	病棟医長としての病棟管理に関しては、インフルエンザアウトブレイクを起こす等問題もあったが、適切な対応により収束する事が出来、また、病床の有効活用を行う事が出来た。		
診療	0.20	小児内分泌疾患患者の管理、指導			0.20	まだ十分とは言えないが、小児内分泌患者の管理、指導を行う事が出来た。		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>			1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		浜田 和弥	所 属		医学部育成医学講座	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生 支援	0.15	研修医・学生の指導, レクチャーなど		0.20	臨床研修医診療指導・講義, 医学部学生指導, レクチャー			
研究	0.10	各種学会発表, 症例・研究報告		0.20	学会発表: リウマチ学会, 小児リウマチ学会, 沖縄こどもCME, 小児皮膚科学会など, 症例報告: 小児皮膚科学会雑誌			
社会 貢献	0.10	医療関係の講演など		0.00				
管理 運営	0.10	救急部運営協議会・医療機器安全管理専門委員会委員としての業務		0.10	救急部運営協議会委員, 医療器安全管理専門医委員会委員, 虐待防止委員会委員			
診療	0.55	附属病院入院および外来患者様の診療		0.50	附属病院入院患者様, 外来患者様の診療			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。				

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		鈴木幹男	所 属	医学部 医学科	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.25	臨床講義(医学生)、大学院講義(大学院生)、耳鼻咽喉科外来・病棟・手術室にて臨床に関連する教育を行う。		0.25	臨床講義(医学生)、大学院講義(大学院生)、耳鼻咽喉科外来・病棟・手術室にて臨床に関連する教育を行った	
研究	0.30	基盤研究費を用いた研究を行う。国際誌への投稿、大学院生との共同研究、論文指導などを行う。中国にいる客員研究員との共同研究を進める。		0.30	基盤研究費を用いて研究を行った。国際誌への投稿、大学院生との共同研究、論文指導などを行った。中国へも研究打ち合わせに行き、共同研究を進めた。	
社会 貢献	0.10	日本耳鼻咽喉科学会評議員、その他各種学会評議員として学会運営に関与する。また耳鼻咽喉科沖縄県地方部会長として沖縄県の耳鼻咽喉科に関連する医療を推進する。九州大学・鳥取大学の学部生に講義を行う。		0.10	日本耳鼻咽喉科学会評議員、その他各種学会評議員として学会運営に関与する。また耳鼻咽喉科沖縄県地方部会長として沖縄県の耳鼻咽喉科に関連する医療を推進する。また頭頸部外科学会の理事を務めた。九州大学・鳥取大学の学部生に講義を行う。	
管理 運営	0.30	副病院長として病院経営を担当する。入試、教務等の学部の委員を務める。		0.30	副病院長として病院経営を担当した。入試、教務等の学部の委員を務めた。	
その他	0.05	6年次の指導教官として学生との連絡を密にして勉学へ打ち込めるように案内する。		0.05	6年次の指導教官として学生との連絡を密にして勉学へ打ち込めるようにした。	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠を広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		真栄田裕行	所 属	琉球大学医学部附属病院 耳鼻咽喉・頭頸部外科	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.20	学部生に対する耳鼻咽喉科一般の系統講義 臨床実習生に対する診察、検査、手術手技等の実技指導 当科所属の専修医、専門医に対する臨床実技指導、あるいは大学院生に対する実験、研究指導、または医局員に対する総合的指導		0.15	学部生に対する耳鼻咽喉科一般の系統講義を行った。 臨床実習生に対する診察、検査、手術手技等の実技指導を行った。 当科所属の専修医、専門医に対する臨床実技指導を行った。 大学院生に対する研究指導は遂行できていない。	
研究	0.20	低酸素環境下における癌生物学的特質の変化に関する研究(病理共同)頭蓋底疾患に対する手術手技の修練 外部資金の獲得 学会発表および学術誌への投稿		0.15	低酸素環境下の癌生物学的特質の変化に関する研究はあまり進行せず。 頭蓋底疾患に対する手術手技の修練→解剖セミナーに参加。 外部資金を獲得した。 学会発表および学術誌への投稿を行った。	
社会 貢献	0.05	看護学校等における講義 耳の日、鼻の日のイベント、あるいは市民講座等一般を対象とした講演や相談会		0.05	頭頸部癌に関して新聞等の紙上で一般に啓蒙した。	
管理 運営	0.35	医局長としての医局運営、管理 電子カルテ委員としての活動		0.45	医局長としての医局運営、管理を行った。 電子カルテ委員としての活動をした。 病院管理システム委員として活動した。	
診療	0.20	頭頸部癌患者に対する集学的治療 離島医療推進に関するプロジェクト		0.20	頭頸部癌患者に対する集学的治療を施行した。 離島医療推進に関するプロジェクトを施行した。	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		喜友名 朝則	所 属		医学部耳鼻咽喉・頭頸部外科	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.09	学生講義に過去の国家試験問題を取り入れながら学生の学習意欲をかきたて、さらに実習では問診や問題解決の方法などより実践的な教育を行う。学生の進路に対して積極的に相談に応じる。			0.05	学生の講義に関しては臨床の事例を交えながら動画を併用し行い、臨床実習生に関しては問診の取り方、診断のアプローチの仕方を中心に臨床に即した講義を行い、なるべく興味を持てるよう努力した。		
研究	0.35	科研費助成を受けている音声と脳機能に関する研究を引き続き行う。また、音声の分析に関する機器を用いて、音声に関する研究を進めていく。他学部、他科と連携し音声に関する新しい分野の研究を行う。これらのデータをもとに学会発表、論文投稿を行う。			0.35	音声と脳機能に関する研究が計画通り行えた。音声に関するその他の研究も勧めた。国内学会へ報告した。論文も作成中である。		
社会貢献	0.03	耳の日、鼻の日講演会などの地域貢献事業に積極的に助力を行う。			0.02	声楽発声学会などで一般の音楽家へ発声に関する講演を行い、地域貢献事業に助力した。		
管理運営	0.13	外来医長として外来におけるトラブルがないよう対策を考える。手術の日程を無駄なく効率よく行うことができるよう努める。			0.08	外来医長として外来における体制などトラブルがないように努めた。手術の日程を無駄なく効率よく行うことができるよう努めた。		
診療	0.40	音声障害、嚥下障害を中心に保存的治療、手術治療にとりくむ。			0.50	計画通り音声障害、嚥下障害を中心に保存的治療、手術治療にとりくんだ。		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>			1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。</li> </ul>		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		山下 懐	所 属		医学部 耳鼻咽喉・頭頸部外科	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生 支援	0.10	臨床実習生の要望などを積極的に聴取し、指導にあたる。		0.10	・・・指導はできた			
研究	0.30	症例報告や統計、基礎研究など学会での報告、論文発表を行う。		0.30	・・・日耳鼻総会、頭頸部癌学会および鼻科学会にて発表を行った。			
社会 貢献	0.05	耳の日、鼻の日講演会などへの参加につとめ、沖縄県民の耳鼻咽喉科領域疾患への関心を高める。		0.05	・・・鼻の日講演会にて講演。			
管理 運営	0.05	入試関連業務などへの参加。		0.05	・・・学生講義。センター試験監督。			
診療	0.50	外来、手術など診療活動。		0.50	・・・外来、手術など診療活動を行った			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。				

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)							
名 前		池上 太郎		所 属	大学院医学研究科	職 名	助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.20	大学院生への研究指導およびサポートを積極的に行う。		0.20	大学院生への研究指導およびサポートを積極的に行った。具体的には、細胞を使った研究をしている学生にはDNA、RNA、タンパク質の抽出法からPCR、リアルタイムPCR、ウエスタンブロットング法などを指導した。組織的な研究をしている学生には、切片作製法からHE染色、in situ ハイブリダイゼーション、免疫染色まで指導した。また論文の読み方、書き方も指導した。		
研究	0.70	耳鼻科領域における基礎研究を推進し、論文および学会発表を行う。競争的資金(科学研究費補助金)へも応募する。		0.70	耳鼻科領域における基礎研究を推進し、国際誌に論文を3本投稿し、そのうち2本が採択された。科学研究費補助金2本(若手A、挑戦萌芽)に応募した。またメルクセローノ株式会社の研究寄付金に応募し、寄付金をいただいた。		
社会貢献	0.05	研究で発見したことは速やかに公表し、また講演会などを通して社会に還元する。		0.05	本年は、国際誌に2本論文を公表し、また頭頸部領域におけるHPVの発癌に関する発見をし、現在、論文を国際誌に投稿中である。鼻の日に鼻に関わる病気の市民講演会のお手伝いをした。		
管理運営	0.05	入試関連業務への参加。		0.05	本年は入試業務の仕事はなかったが、教室の研究部門の管理を行った。		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			



(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)											
名 前		平川仁		所 属		医学部 耳鼻咽喉科・頭頸部外科		職 名		助教	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定				業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果				
教育・ 学生支援	0.20	医学生の臨床実習、講義につき、耳鼻咽喉科、頭頸部外科の臨床的な面から積極的にかかわっていく。				0.20	医学科生の臨床実習、講義など積極的にかかわることができた。				
研究	0.20	主に頭頸部外科の臨床的研究を行っていく。				0.20	科研費申請を行うことができた。さらには3つの案件で倫理委員会申請を行い、臨床試験の計画を立てた。				
社会貢献	0.20	頭頸部悪性腫瘍の治療を行うことにより社会的貢献できるものと考えている。				0.20	頭頸部癌臨床を中心に耳鼻咽喉科治療を通し、社会貢献ができた。				
管理運営	0.10	病院管理、運営に積極的にかかわっていく。				0.10	病院管理、運営に積極的にかかわることができた。				
診療	0.30	頭頸部悪性腫瘍の診療を安全かつ積極的に行っていく。				0.30	頭頸部悪性腫瘍の診療を安全かつ積極的に行うことができた。				
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>				1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名 前		近藤 毅	所 属	医学研究科	職 名	教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.25	1. 医学部学生に対し、精神医学系および救急医療の系統講義を行うとともに、臨床実習における総括を行う。 2. 医学研究科学生に対し、精神病態医学、心身医学、社会医学に関連する講義・演習・実習を行うとともに、指導教員として研究指導にあたる。		0.25	1. 医学部学生に対し、精神医学系2コマ・救急医療1コマの系統講義、倫理総合討論・医学概論・TBL各1コマを担当し、臨床実習では総括を行った。 2. 医学研究科大学院生に対し、講義・演習・実習を行い、指導教員として6名の研究指導を行っている。また、社会医学概論、情報医科学概論のコーディネーターを担当した。	
研究	0.25	1. 専門領域である精神薬理学的の研究に関連した講演・学会発表を行うとともに、原著・総説等で論文発表する。 2. 臨床精神医学の一般領域における研究に関連した講演・学会発表を行うとともに、原著・総説等で論文発表する。		0.25	1. 精神薬理領域の英文原著2編の作成に関与し、同領域の邦文総説を1編公表した。また、成果を日本臨床精神神経学会にて発表した。 2. 臨床精神医学の一般領域の英文総説1編を作成し、成果を国内学会に発表した。 3. 研究費を獲得した基盤研究Cを年度計画に基づき実行し、一部の成果を公表した。	
社会 貢献	0.10	1. 精神疾患に対する偏見の改善や認識の向上に向けて、地域住民や一般医を含めたゲートキーパー層への教育・啓発的介入を継続的に実践する。 2. 専門家として、学外の委員会への参加を要請された場合に、委員として要請に応える		0.10	1. 自殺予防活動として、一般医(北部・中部・浦添市医師会)への教育・啓発活動の支援を行い、沖縄県自殺対策連絡協議会および沖縄県いじめ防止対策審議会の委員を務めた。 2. 沖縄科学技術大学院大学人対象研究審査委員会委員長を務めた 3. 日本臨床精神神経薬理学会副理事長および第25回年会副会長として学会運営に携わった。	
管理 運営	0.15	1. 医学研究科精神病態医学講座教授および附属病院精神科神経科科長として教室および外来・病棟の管理運営を行う。		0.15	1. 医学研究科精神病態医学講座教授および附属病院精神科神経科科長として教室および外来・病棟の管理運営を行った。	
診療	0.25	1. 琉球大学医学部附属病院の精神科神経科にて新患外来と専門外来(児童思春期外来)を担当し、総合診療科において心身症を中心とした患者の診療を行う。 2. 琉球大学医学部附属病院の精神科神経科の入院患者を対象とした総回診およびケース・カンファランスを行い、初期・後期臨床研修医の診療力の向上を図る。		0.25	1. 琉球大学医学部附属病院の精神科神経科にて新患外来と専門外来(児童思春期外来)を担当し、総合診療科では心身症を中心とした患者の診療を行った。 2. 琉球大学医学部附属病院の精神科神経科の入院患者を対象とした総回診およびケース・カンファランスを行い、臨床研修指導を行った。	
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		島袋盛洋	所 属	医学部 医学科	職 名	助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.20	臨床研修医および医学部学生への精神医学の講義および臨床現場における研修・実習の場面で実地指導を行う		0.20	臨床研修医および医学部学生への精神医学の講義および臨床現場における研修・実習の場面で実地指導を行った。	
研究	0.10	児童精神医学領域において、症例報告および観察研究を行い、成果を学会等にて発表する		0.00	実績なし	
社会 貢献	0.10	地域住民および地域の精神科関連の専門職に対して 精神疾患患者に対する知識について啓発的介入を行う		0.10	那覇市主催の自殺予防ゲートキーパー講習会で合計3回講義を行った。また子供シェルターボランティア養成講義でも講義を行った。	
管理 運営	0.10	所属診療科において医局長として診療科長の指導監督の元で診療科の管理運営を行う		0.20	医局長業務を1年間行った。	
診療 業務	0.50	琉球大学医学部附属病院における精神科外来および病棟において、一般患者における診療に従事するとともに、児童思春期専門外来を担当し、県内における児童思春期の専門的治療を行う。		0.50	琉球大学医学部附属病院における精神科外来および病棟において、一般患者における診療に従事するとともに、児童思春期専門外来を担当し、県内における児童思春期の専門的治療を行った。	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		甲田 宗良	所 属		医学研究科 精神病態医学講座
			職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生 支援	0.20	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修医, 医学部学生に対する心理カウンセリング, 心理検査等の講義, 教育を担当する。</li> <li>・教育学研究科臨床心理学専攻の実習生に対する心理カウンセリング等の指導を行う。</li> <li>・適宜, 研修医, 医学部学生および心理実習生に対する進路指導・助言を行う。</li> </ul>		0.20	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修医, 医学部学生に対する心理カウンセリング, 心理検査等の講義, 教育を担当した。</li> <li>・H27年度より, 講座内の勉強会・事例検討会を企画・運営した。</li> <li>・総合講義にて, 「自殺予防」の講義(1コマ)を担当した。</li> <li>・教育学研究科臨床心理学専攻の実習生に対する心理カウンセリング等の指導を行った。</li> </ul>
研究	0.40	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成28年度科学研究費助成事業(科学研究費補助金)に応募を計画している。</li> <li>・平成27年度中に英文誌に筆頭1本投稿・受理, 共著1本投稿・受理, 国内誌に筆頭1本投稿・受理, 共著1本投稿・受理を目指す。</li> <li>・平成27年度中に学会発表を4回行う。</li> </ul>		0.40	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成28年度科学研究費助成事業(科学研究費補助金)(若手B)に応募した。</li> <li>・平成27年度琉球大学若手研究者支援研究費の交付が決定した。</li> <li>・平成27年度中に, 第1著者の論文(英文)を執筆し, まもなく投稿予定である。第2著者の論文(英文)の執筆・解析を担当し, 英文誌へ投稿中である。第2著者の論文(和文2本)の執筆を担当し, 国内誌に受理・掲載された。</li> <li>・平成27年度中に学会発表を2回行った(九州臨床心理学会にてシンポジウム企画・司会・話題提供, 沖縄精神神経学会にて口頭発表)。</li> <li>・講座内の2件の臨床研究において, 心理検査の施行, データ入力, 解析を担当した。</li> <li>・その他, 講座内の大学院生の学位論文の統計解析の指導・補助を担当した。</li> </ul>
社会 貢献	0.10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般市民および医療・心理専門職に対する心理カウンセリングおよび精神疾患に関する啓発活動を行う。</li> <li>・企業, 行政機関を対象にメンタルヘルス相談活動・研修を延べ20件行う。</li> </ul>		0.10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成27年度は, 平成28年2月25日(木)時点において, 8件の講演・研修(メンタルヘルス, 自殺予防対策)を行った(行政機関, 保健所, 警察, 学校)。今後, 平成27年3月31日(火)までにさらに2件を担当する予定である。</li> </ul>
管理 運営	0.10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所属診療科において, 外来および病棟の管理運営の補助を行う。</li> <li>・所属診療科における研究活動支援の管理運営を行う。</li> </ul>		0.05	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所属診療科において, 外来および病棟の管理運営の補助を行った。</li> <li>・感染対策実務者会議に出席した。</li> <li>・所属診療科内の定例の勉強会において, 管理運営を行った。</li> </ul>
診療	0.20	<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神科外来および病棟において, 診療補助(心理カウンセリング, 心理検査, 心理教育や家族教室, 集団精神療法の運営)を行う。</li> <li>・平成27年度は延べ300名に対して支援を行うことを目指す。</li> </ul>		0.25	<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神科外来および病棟において, 診療補助(心理カウンセリング, 心理検査, 心理教育, 集団精神療法の運営)を行った。</li> <li>・平成27年度は, 平成28年2月25日(木)時点において, 延べ811名に対して支援を行った(昨年度と比較して, 人数が大幅に増加している理由として, 週に2回, 各1時間の非構造的な集団精神療法を開始したことが考えられる)。</li> </ul>
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう, 記入してください。</li> <li>・記入量に応じて, 枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は, 「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう, 記入してください。</li> </ul>
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には, 右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		前田 士郎	所 属		大学院医学研究科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.25	学部学生のゲノム医学教育を通じてヒトゲノム研究の臨床的意義について理解させる。1年生の教育担当学生について全員の全単位取得を目指す			0.25	学部学生のゲノム医学教育を通じてヒトゲノム研究の臨床的意義を伝えた。1年生の教育担当学生について2回懇談会を行った		
研究	0.30	沖縄県におけるゲノム研究の基盤となる資源構築に向けて資金獲得を謀る。ヒトゲノム関連の研究成果を論文化する			0.30	沖縄県におけるゲノム研究の基盤となる資源構築に向けて資金獲得を謀った。ヒトゲノム関連の研究成果をNat Communi誌に発表した		
社会貢献	0.15	沖縄県におけるゲノム事業の必要性、有用性の啓蒙を謀り、将来の健康長寿社会構築の基盤を形成する。同時に円滑な検査輸血業務の遂行により地域医療への貢献に努める			0.15	沖縄県におけるゲノム事業の必要性、有用性の啓蒙のためシンポジウムや各種講演会での講演を行った		
管理運営	0.30	先進ゲノム検査医学講座教授としてまず人材獲得と研究環境整備に努める。また琉球大学附属病院検査・輸血部部長として迅速正確な検査輸血業務が遂行されるよう管理運営を行う			0.30	先進ゲノム検査医学講座教授として准教授を採用し研究基盤整備をすすめた。また琉球大学附属病院検査・輸血部部長として迅速正確な検査輸血業務が遂行されるよう管理運営を行った		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>			1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		野口洋文	所 属	医学部 医学科	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.20	シラバスに従って授業を行う。受け持ち学生と定期的に面会を行い、学生の支援を行う。		0.20	シラバスに従って授業を行った。受け持ち学生と定期的に面会を行い、学生の支援を行った。	
研究	0.30	幹細胞を用いた研究、膵島移植に関する研究を行い、論文発表を行う。研究費獲得に向け、日本学術振興会研究費、厚生労働省研究費および民間の研究費募集に申請を行う。		0.30	幹細胞を用いた研究、膵島移植に関する研究を行い、計7論文を発表した。研究費獲得に向け、各研究費募集に申請を行い、合計700万円以上の研究費を獲得した。	
社会 貢献	0.20	細胞処理センター(CPC)を使用した治療が行えるよう、臨床の先生の支援を行う。学会発表を積極的に行い、研究内容を公開していく。		0.20	細胞処理センター(CPC)が使用可能な状態となり、現在、臨床実施を行うための細胞培養を行っている状況である。また、学会発表を行い、研究内容の公開も積極的に行った。	
管理 運営	0.30	臨床研究倫理委員会、臨床倫理委員会、疫学研究倫理委員会の委員として定期的に行われる委員会に出席する。講座の管理運営を行う。再生医療研究センターのセンター長として、細胞処理センターの管理運営を行う。		0.30	臨床研究倫理委員会、臨床倫理委員会、疫学研究倫理委員会の委員として定期的に行われる委員会に出席した。講座の管理運営および再生医療研究センターの管理運営を行った。	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		来間 清人	所 属		医学部 医学研究学科 再生医学講座	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生 支援	0.05	再生医学講座において主催される抄読会を通じて、学生教育、支援に参加していく。		0.05	当講座において主催される抄読会を通じて、学生教育、支援に参加した。保健学科病理学の一講義を受け持った。			
研究	0.95	科学研究費助成事業の公募の中から、研究活動スタート支援、基盤研究B あるいはCに応募していく。英文論文を積極的に発表していく。研究ネットワークを広げて、共同研究を模索する。		0.95	研究活動スタート支援、基盤研究Cに応募したが、スタート支援はえられなかった。基盤研究Cは結果まち。当講座の研究の為に、遺伝子改変マウスを作成し、マウスを用いての実験体制を整備した。			
社会 貢献	0.00			0.00				
管理 運営	0.00			0.00				
計	1.00			1.00				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		潮平 知佳	所 属		大学院医学研究科再生医学講座	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生支援	0.20	当講座に配属された医学科学生の基礎講座教育実習を行う。大学院および医学科の授業の補佐をする。産官学関連事業において、その職員に対する技術指導および補佐をする。		0.20	当講座に配属された医学科学生の基礎講座教育実習指導を行った。大学院および医学科の授業を担当した。産官学関連事業において、その職員に対する技術指導および補佐をした。			
研究	0.50	再生医療および講座が関わっている産官学事業に関する研究活動において英語論文の作成および発表を行う。学内外の研究機関との共同研究を行う。学内外の学会および研究会または、講演、講習会などに積極的に参加する。		0.50	再生医療および講座が関わっている産官学事業に関する研究活動において英語論文の作成および発表を、学内外の研究機関との共同研究を行った。学内外の学会および研究会または、講演、講習会などに積極的に参加した。			
社会貢献	0.10	産官学関連事業の推進への貢献。講座の学内外の研究会および講演会活動に貢献する。学会発表および学会誌への論文投稿を行う。		0.10	産官学関連事業の推進への貢献、講座の学内外の研究会および講演会活動に貢献を行い、学会発表および学会誌へ論文発表を行った。			
管理運営	0.20	産官学関連事業の管理運営業務を行う。部局内の劇物毒物化学薬品管理業務。入試関連業務。		0.20	産官学関連事業の管理運営業務、部局内の劇物毒物化学薬品管理業務および入試関連業務を行った。委員会活動を手伝った。			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。				



(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名前	高山千利		所属	医学研究科	
職名	教授				
領域	業務ウエイト比(予定)	平成27年度 年度目標設定		業務ウエイト比(実績)	平成27年度 年度末自己点検結果
教育・学生支援	0.25	<ul style="list-style-type: none"> <li>医学研究科博士課程・修士課程の講義・演習を行い、医学研究科大学院生の教育を行い、研究をサポートする。</li> <li>医学部医学科1年次、2年次の学生に対して、組織学、神経解剖学、発生学の講義・実習を行い、基礎医学力の向上に努める。</li> <li>医学部4年次学生に基礎研究を指導し、研究者マインドの涵養に努める。</li> <li>離島地域実習、学生による地域医療セミナー、学生PBL、県外地域医療実習、患者付き添い実習、体験学習を企画し、一部の企画では学生を引率する。そして、医学部学生、地域枠学生に沖縄県における地域医療の実体を体得させ、また、県外における取り組みを知り、将来の地域医療の担い手として必要な能力を涵養する。</li> <li>総合試験、CBT、OSCEなどの実施を統括する。</li> </ul>		0.20	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学院、学部の全ての講義・実習を予定通り終了した。</li> <li>CBTの不合格者は1名であり、目に見えて教育成果が向上している。</li> <li>2名の学生に基礎配属実習、2名の学生に選択実習(6年次)を行い、研究者マインドの涵養に努めた。</li> <li>医学教育企画室長として、地域枠学生、一般枠学生の課外実習、学内実習を行い、地域医療、先端医療の体験を進めた。</li> </ul>
研究	0.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>博士課程を単位取得退学した非常勤講師(2名)の学位論文(2報)を完成・投稿し、受理させる。</li> <li>博士課程の学生(1名)の研究を指導し、今年度中に学会発表を行わせる。</li> <li>修士課程の学生(1名)の研究を指導し、学会発表を行い、修士論文を完成する。</li> <li>ポストドク研究員、特命助教(非常勤、常勤)とともに研究を行い、その成果を全国集会で5回以上発表し、学術論文を3報以上を受理させる。</li> <li>准教授、助教の研究に助言を与え、論文の発表に協力する。</li> <li>学内・学外の研究者と共同研究を進め、期間内に共著論文の作成に協力する。</li> <li>基盤研究(C)以外の科研費医学の研究費(財団を含む)の獲得を1件以上行う。</li> </ul>		0.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>修士課程学生に研究指導を行い、修士論文の作成、発表に関する指導を行った。(修士号取得予定)</li> <li>博士課程学生に研究指導を行い3月の2つの全国集會にて発表予定である。</li> <li>全国集會でシンポジストとして1題発表し、座長を1席行った。</li> <li>全国集會で演題発表を5題以上行い、全てで最終著者であった。</li> <li>学術論文を9報、うち責任著者が1報であった。</li> <li>沖縄県知的産業クラスター事業において行った難消化米プロジェクトがフードアワード・日本の優秀賞を受賞した。</li> </ul>
社会貢献	0.05	<ul style="list-style-type: none"> <li>公益財団法人 沖縄県医科学財団の専務理事として、理事会、評議会、専門部会に参加し、財団の管理運営を行うとともに、沖縄県の医学水準の向上に寄与する。</li> <li>沖縄県地域医療協議会委員として沖縄県の地域医療に貢献する。</li> </ul>		0.10	<ul style="list-style-type: none"> <li>沖縄県医科学研究財団の専務理事として、理事会、評議会、専門部会、公開シンポジウムにおいて、管理運営を行った。</li> <li>沖縄県地域医療協議会医員として協議会に出席・意見交換を行った。</li> <li>関東地区の大学に、医学教育分野別認証評価の評価委員として現地視察し、評価を行った。</li> </ul>
管理運営	0.40	<ul style="list-style-type: none"> <li>医学科長として、厚生補導、教育に関する問題点を明らかにし、その改善に向けた新たな試みを企画する。</li> <li>医学教育企画室長、カリキュラム委員長として、琉球大学の新しい医学教育を構築し、分野別認証評価(通称:国際認証)に向けた取り組みを本格化する。そして、積極的に問題を抱える学生への介入を行い、学力の向上、医師となるための技術の向上、国家試験合格者の維持、大学院充足率の向上に努める。</li> <li>全学的な教育改革の取り組みに参画する。</li> <li>医学部附属動物実験施設長(兼全学動物実験委員長)として組織の管理・運営・改組、予算要求を行い、琉球大学における動物実験を用いた研究が発展し、多くの業績が出せるよう努める。</li> <li>1年次学生の指導教員として、学生の様々な面での指導を行う。</li> <li>医学部・医学研究科教授会メンバー、医学部・医学研究科の管理運営に参加する。</li> <li>学務委員会委員として、大学院修士課程、博士課程の入試に関与する。</li> </ul>		0.40	<ul style="list-style-type: none"> <li>医学科長・医学教育企画室長・カリキュラム委員長として、教育を含めた学生生活全般に関する企画・立案から実施までを行った。中でも、新々カリキュラムの実行に向けて中心的な役割を行った。</li> <li>分野別認証評価の準備を進行させた。</li> <li>動物実験施設長、全学動物実験委員会委員長として、施設の運営、CTの稼働、予算要求、改築、動物実験審査を行い、次年度からのWeb入力システム稼働に向けての準備を行った。</li> <li>医学科長、教授として医学部・医学科全体の運営に参画した。</li> <li>学務委員会委員として医学研究科の研究活動の活性化に寄与した。</li> </ul>
計	1.00			1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1)本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)											
名 前		岡部 明仁		所 属		医学研究科・分子解剖学講座		職 名		准教授	
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定				業務 ウエイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果				
教育・ 学生支援	0.47	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医学部第1学年次生に対して組織学の講義及び実習を行う(合計8コマ)。また、他の教員の講義・実習にも補助教員として参加し、学生への指導を行う(合計18コマ)。</li> <li>・医学部第2学年次生に対して神経解剖学の講義・実習を行う(合計13コマ)。</li> <li>・医学部第2学年次生に対して医学外国語の講義を行う(計15コマ)。</li> <li>・医学部第2学年次生に対して発生学の講義をう(1コマ)。</li> <li>・上記の担当した講義・実習について、定期試験及び再試験問題を作製し、試験監督を分担で行う。</li> <li>・医学部第4学年次生に対し、基礎研究の指導を行う。</li> <li>・医学研究科博士課程大学院生に対して再生・再建医学概論の講義を行う(1コマ)。</li> </ul>				0.46	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医学部第1学年次生に対して組織学の講義及び実習を行う(合計8コマ)。また、他の教員の講義・実習にも補助教員として参加し、学生への指導を行った(合計18コマ)。</li> <li>・医学部第2学年次生に対して神経解剖学の講義・実習を行った(合計13コマ)。特に、実習ビデオの再編を行い、よりスムーズな実習を行えるよう対応した。</li> <li>・医学部第2学年次生に対して医学外国語の講義を行った(計15コマ)。</li> <li>・医学部第2学年次生に対して発生学の講義を行った(1コマ)。</li> <li>・上記の担当した講義・実習について、定期試験及び再試験問題を作製し、試験監督を分担で行った。</li> <li>・医学部第4学年次生2名に対し、基礎研究の指導を行った。</li> <li>・医学部第6学年次生2名に対し、臨床実習を行った。</li> <li>・医学研究科博士課程大学院生に対して再生・再建医学概論の講義を行った(1コマ)。</li> </ul>				
研究	0.50	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆頭著者として日本生理学会または日本解剖学会で発表する。</li> <li>・本年度は論文受理数2本を目指す。</li> <li>・大学院修士課程及び博士課程の学生の研究指導を行う。</li> <li>・科学研究費補助金の獲得を目指す。</li> </ul>				0.40	<ul style="list-style-type: none"> <li>・科学研究費補助金基盤(C)「胎児期における抑制性GABAシナプスの構築と呼吸リズム」(分担、30万円)について研究を行った。</li> <li>・上記科研費に関連する研究成果について原著論文2本を作成中である。</li> <li>・沖縄県知的・産業クラスター形成推進事業(国際共同研究事業)[生活習慣病を予防・改善する沖縄県産高機能米開発]について研究を行った。その結果、この事業は第7回フード・アクション・日本アワードを受賞した。</li> <li>・大学院修士課程及び博士課程の学生の研究指導を行い、その結果、修士1名が修了した。</li> </ul>				
社会 貢献	0.01	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本解剖学会及び日本生理学会評議員として両学会の発展に貢献する。</li> </ul>				0.01	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本解剖学会及び日本生理学会評議員として両学会の発展に貢献した。</li> </ul>				
管理 運営	0.01	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通安全管理委員会委員</li> </ul>				0.10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成28年度医学科1年生カリキュラム「人体の構造と機能」「神経科学」「神経科学実習」科目担当教員</li> <li>・平成28年度医学科1年生カリキュラム「組織学実習」「分子細胞生理学」の委員</li> <li>*本年度は当初予定のなかった新々カリキュラムの「科目担当教員」になったため、この項目の比率が上がった。</li> <li>・極低温センター運営委員会2号委員(今年度再任された)</li> <li>・医学部及び附属病院交通対策委員</li> </ul>				
その他	0.01	<ul style="list-style-type: none"> <li>・琉球リハビリテーション学院の昼間部にて非常勤講師として生物学および解剖学の講義を各15コマ担当する。</li> <li>・那覇看護学校、歯科衛生士学校、沖縄統合医療院の学生に対し、本学にて一般解剖の実習見学を行う。</li> <li>・沖縄リハビリテーション学院、琉球リハビリテーション学院の第2学年次生に対して、本学にて神経解剖学・脳実習の実習見学を行う。</li> </ul>				0.03	<ul style="list-style-type: none"> <li>・琉球リハビリテーション学院の昼間部にて非常勤講師として生物学および解剖学の講義を各15コマ行った。</li> <li>・那覇看護学校、歯科衛生士学校、沖縄統合医療院の学生に対し、本学にて一般解剖の実習見学を行った。</li> <li>・沖縄リハビリテーション学院、琉球リハビリテーション学院の第2学年次生に対して、本学にて神経解剖学・脳実習の実習見学を行った。</li> </ul>				
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>				1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1)本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		清水 千草	所 属		医学研究科分子解剖学講座
			職 名		特命助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生 支援	0.40	医学部1年次学生に対し、組織学の講義・実習を行う。 医学部2年次学生に対し、神経解剖学の講義・実習を行う。 医学部4年次学生に対し、基礎研究の指導を行う。 医学研究科博士課程の学生に対して、コース共通科目、選択科目の 講義・実習等を行う。 医学概論の講義を行う。 沖縄リハビリテーション学院、琉球リハビリテーション学院に対し、神 経解剖学の実習を行う。 那覇市立看護学校、消防学校、歯科衛生士学校について、人体解剖 学の実習を行う。		0.40	*医学部1年次学生に対し、組織学の講義・実習に、医学部2年次学生に対 し、神経解剖学の講義・実習をに参加し、学生への指導を行った。実習中は 学生に質問をし、わからない部分をともに考えるようにした。 *医学部1年次学生に対し医学概論の講義を行った。 *医学部4年次学生2名に対し、基礎研究実習を行った。 *医学部6年次学生2名に対し、臨床実習を行った。 *沖縄リハビリテーション学院にて神経解剖学の講義を行った。 *沖縄リハビリテーション学院、琉球リハビリテーション学院、沖縄統合医療 院に対し、神経解剖学の実習を行った。 *歯科衛生士学校について、人体解剖学の実習を行った。
研究	0.60	医学研究科博士課程の学生に対して、研究指導を行う。 一昨年採択された科学研究補助金基盤研究(C)「胎児期における抑制性GABAシナプスの構築と呼吸リズム」(代表、437万円(間接経費 含む) について研究を継続し、学会発表を1回以上行う。 GABAに関する論文を1本投稿する。 第2内科及び分子・細胞生理学講座との共同研究を推進する。		0.60	*医学研究科博士課程大学院生に研究指導を行った。その成果を、日本神 経科学会、日本解剖学会及び日本生理学会にて、学生が発表を行った(清 水は共著者)。 *科学研究補助金基盤研究(C)「胎児期における抑制性GABAシナプスの 構築と呼吸リズム」(代表、437万円(間接経費含む)について研究を継続し した。 *上記科研費に関連する研究成果について日本神経科学会にて筆頭著者 として発表を行った。 *上記科研費に関連する研究成果について日本生理学会にてシンポジウム 「女性研究者によるシンポジウム:神経回路の発達原理の解明」を企画する とともに筆頭著者として発表を行った。 *沖縄県知的・産業クラスター形成推進事業(国際共同研究事業)[生活習 慣病を予防・改善する沖縄県産高機能米開発]について研究を行った。そ の結果、この事業は第7回フード・アクション・日本アワードを受賞した。 *上記研究費による研究成果を日本生理学会にて筆頭著者として発表を 行った。 *「食シグナルの認知科学の新展開と脳を活性化する次世代機能性食品開 発へのグランドデザイン」(戦略的イノベーションプログラム)について第二内 科と共同研究を行った。 *上記研究費に関連する研究成果について日本糖尿病学会年次学術集 会、日本臨床分子医学会学術集會にて共著者として発表を行った。 *上記研究費に関連する研究成果について第二内科との共同研究の論文 がBritish Journal of Pharmacologyに受理された(清水は共著者)。 *中期計画達成プロジェクト経費(150万円)「フコイダンの糖尿病予防に関す る研究」について農学部との共同研究を行った。 *分子・細胞生理学講座との共同研究を行った。 *琉球大学理学部とμCTを用いた有孔虫の形態についての共同研究を 行った。
その他	0.00			0.00	*日本生理学会にてランチョンセミナー「仕事も家庭もあきらめない! 女性 研究者の強くなやかな生き方」にて講演を行った。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定して ください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		大倉信彦	所 属		医学部 医学科	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.50	昨年に引き続き、学部担当科目(生命科学, 組織学, 発生学, 基礎研究)の講義ならびに実習を分担する。組織学各論開始時のTBLを更に改良する。教材の改良に努める。教育連絡主任として、学部教育の改善に貢献する。			0.50	学部担当科目について、パワーポイントを使用した講義教材をさらに改良し、講義・実習を実施した。教材はオンライン学習システムにアップロードし、学生の自習の便を図った。組織学実習において、TBLを継続実施し、効果を上げるための内容改善を試みた。定期試験の問題を取りまとめる業務を担当した。再試験を受ける学生に対する補講を行なった。平成28年度の組織学実習の履修要綱改訂を担当した。教育連絡主任として、医学部教育の改善に貢献した。		
研究	0.40	二型精子の研究を継続して行う。カワニナを材料として、異型精子特異的タンパク質の解析を開始する。人体解剖学分野との共同研究で、ホヤ卵の受精に関する研究における形態学的解析を分担する。二型精子研究に関して、科学研究費申請に加えて、マリンバイオ共同推進機構の研究課題に応募する。学会発表を少なくとも1回は行う。			0.40	マリンバイオ共同推進機構の公募課題「カワニナ異型精子の機能に関する研究(No.27-65)」が採択され、筑波大学臨海実験センターにおいて、精子の運動についての共同研究を行った(3月7日～19日)。科学研究費の申請を行った。9月に新潟市朱鷺メッセで開催された、日本動物学会第86回大会で、演題を発表した。		
社会 貢献	0.10	地域のコメディカル教育(那覇看護専門学校)に協力する。「人体の構造と機能」の講義および解剖見学実習を通して、看護職の基盤教育に貢献したい。その他に、地域団体等からの要請があれば、一般市民を対象に、研究について判りやすく紹介する講義や講演などを行う。			0.10	那覇看護専門学校看護学科で人体の構造と機能(解剖生理学)の講義を行い、また、実習見学を実施して、看護職の基盤教育に貢献した。一般市民対象の講義・講演の要請は無かった。		
管理 運営	0.00	※入試問題等、匿名を有する委員会の活動については、委員会名は記載せず、単に「委員会委員」とし、具体的な内容は記載しないでください			0.00			
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		陣野吉廣	所 属	医学研究科	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.40	1. 今年も全力投球で生命科学の講義にベストを尽くす。 2. 医学英語を通して英語になじませると同時に医学への関心を高める。		0.40	1. 生命科学第一回講義と医学概論では拍手が起こった。 2. 精神医学に興味を持ってもらった。	
研究	0.57	1. どうにかして論文にまとめる。 2. 外部資金の獲得を目指して各種研究助成に申請する。		0.57	1. 京都大学との共同研究で論文にまとめるところまでこぎつけた。 2. 応募できる研究助成を今年は1つも見つけられなかった。	
社会貢献	0.01	1. 学会発表を通して研究成果を学外に発信する。		0.01	1. 学会発表を通して研究成果を学外に発信した。	
管理運営	0.01	1. 大学入試面接委員としての役割を果たす。		0.01	1. 2月26日と3月12日にその役を果たす。	
進路指導	0.01	1. 留年しないように指導する。 2. 経済的支援の必要な学生に対しては一緒に支援策を考える		0.01	1. 懇親会を通して留年しないように指導した。 2. 学生援護会の支援事業に推薦書を書き、給付が決定した。	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)								
名 前		小田 高也	所 属		大学院医学研究科・ゲノム医科学講座	職 名		准教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生支援	0.10	(学部) ・H26年度に実施した授業評価に基づく1年次担当講義(生命科学)の改善および単位未取得者3名(含留年生2名)のフォローアップ。 ・2年次学生5名を対象とした医学外国語分担(6/8-8/3)。 ・5年次学生6名を対象とした倫理総合討論④班の指導(5/18-7/8)。 ・4年次基礎研究学生2名および6年次選択実習学生1名の受け入れ予定。 ・指導班(H26年入学医学科学生7名・留年生2名・2年次編入生1名)への対応およびH26年度指導班からの留年生3名のフォローアップ。 ・教育連絡主任およびカリキュラム委員としての医学科教育への貢献。 (大学院) ・前期にゲノム情報学特論およびゲノム医科学(特論(I))・演習・実習を開講予定。		0.15	(学部) ・M1の生命科学ではウェブクラスを利用した専門用語解説に加えて、講義の復習を兼ねた小テストを毎回おこない知識の定着をはかった。昨年と同様に年次長の協力を得て講義資料の配布を徹底すると共にウェブクラスを通して講義資料の閲覧を可能とし、紙媒体における印刷の不備を補った。本試験および追試験終了後には希望者に対し答案を開示し、採点の解説と履修指導をおこなった。休学中である2名を除いて履修登録されている全員が単位を取得した。 ・今年度より主任教授と分担開講となったM2の医学外国語では8コマを担当し、実践的な英語力の獲得に努めた。 ・M4の基礎研究では講座に配属された3名のうち2名を担当し、細胞培養・免疫染色・in situ hybridization等の手技を用いて課題を遂行させた。M6選択実習学生は担当しなかった。 ・M5の倫理総合討論ではウェブクラスの1機能である会議室(チャット)の導入により例年ない意見の供覧が可能となった。 ・2回の医学科カリキュラム委員会に参加し、新年度の医学科プログラムの編成に貢献した。 (大学院) ・担当講義へ履修登録した学生はいなかった。 (学生支援1) ・前後期の懇談会を通して担当学生と接し、履修指導をおこなうと共に課外活動を含めた生活状況の聞き取りなどおこない、個々の生活状況の把握に努めた。 ・今期より新たに担当する3名のうち2名は前後期いずれかの懇談会に参加し話をする時間が取れたが、残る1名は熟考のため前期の懇談会を病欠した。 (学生支援2) ・夏期休暇後の2学期となり前期懇談会を病欠した担当学生(留年生)が不登校になっていることが判明した。学務担当者と相談の上、係員を伴って一人暮らしの自宅アパートを訪問し無事を確認した。その後、学務より来沖を要請した保護者と複数回面談したが不登校は改善しなかった(初回の来沖時には親から逃亡)。 ・2学期の終盤になり本人より自発的に大学側との面談の希望があった。以降指導教員と週1回面談をおこなっている。更に年末からは保健管理センターでのカウンセリングを開始した。しかし、3学期も授業への復帰はできていない。 ・今後は次期指導教員へ綿密な申し送りを行うと共に、新学期の早い時期に次期指導教員とカウンセラーおよび保護者との面談を実現し、次年度での協力体勢を構築した上で修学復帰を期待したい。 (学生支援3) ・昨年度担当し留年のため1年次に留まっている学生の保護者より連絡を取りたいという要請が学務を通じてもたらされた。間を置かず電話連絡をおこなったが残念ながら保護者が望んでいたと思われる情報提供はできなかった。更に、進級できた班員と留年した子供との接触を望まないとの要望があったため以降の懇談会の実施時に反映させる予定。			
	0.80	・研究課題『ヒトゲノムに存在する反復配列遺伝子が有する生理的機能の解明』を展開させるため、胎盤組織で特異的に発現するHML6-c14転写物の細胞内での機能を明らかにする。 ・H28年度『科学研究費補助金』の申請に向けて、細胞内で2種類存在する上記遺伝子転写物の細胞質および核内におけるそれぞれの役割を検証するための予備実験を行う。		0.75	・機能性RNAとして注目している胎盤組織で特異的に発現するHML6-c14転写物は、胎盤絨毛における細胞融合モデルであるBeWo細胞がForskolinで処理された際に発現が亢進する。更に、Forskolinにより融合形成中のBeWo細胞群では、既知の細胞融合関連分子であるSyncytin-2と酷似した発現様式であることが分かってきた。現在、絨毛系の別の細胞を用いて細胞融合現象とHML6-c14との因果関係を明らかにするべく実験を進めている。			
	0.10	・H26年度まで相談員として参加してきた「ハラスメント相談室」同様、H27年度に新たに発足する「ハラスメント相談支援センター」に相談員として加わり、キャンパスにおける健全な環境維持に貢献する予定。 ・H26年度に引き続き疫学研究倫理審査委員会に2号委員として参加し、個人の尊厳と人権の尊重、倫理的ならびに科学的観点から学内の研究が適正に施行されるよう貢献する。		0.10	・今年度より発足したハラスメント相談支援センターの学部相談員として3度のセンター会議に出席した(3度目は予定)。 ・計6回の疫学研究倫理審査委員会に2号委員として参加し、23件の申請審査をおこなった。また、12件の迅速審査を担当した。			
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。				

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		石田 肇	所 属		医学研究科人体解剖学講座
			職 名		教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.25	1年次解剖学総論の授業数を増やし、内容を充実させる。昨年度、大量の留年者を出したので、まず、勉強の方法から指導する。2年次では解剖学実習前の説明を行うとともに、献体の所見を把握させ、実習の質を上げる。解剖学実習での学生の成績評価を厳格に行う。4年次基礎研究で実施する局所解剖学実習では、臨床系講座の参加を促し、臨床に即した実習を行う。さらに、Webclassを充実させ、授業前にスライドをアップすることにより、学生の自主学習を促す。		0.25	1年次解剖学総論に関しては、講義数の増加ではなく、骨学実習の指導を充実し、形態の見方を指導した。その結果、試験、再試験不合格者が減少した。2年次では、献体の形態所見に加えて、死因を自己学習させ、最後にレポートを提出させた。試験を厳格に行い、不合格者が数名出たのは残念である。4年次基礎研究では、6年次臨床実習選択と合同で、解剖学実習を実施した。ここでも、献体の所見を提出させた。Webclassには、全ての授業、実習前説明、試験問題をアップし、学生の自主学習を促し、アクセス数は500を超えた。
研究	0.30	基盤研究A(代表、分担)などを基に臨床系、北海道大学および長崎大学等と連携し、琉球列島の人々の形態学、遺伝学、オホーツク文化人骨の遺伝学、生物学などの形質人類学研究を進め、アメリカ形質人類学雑誌等のインパクトのある雑誌への投稿を行い、受理を目指す。医学研究科並びに法文学部などとの共同研究を進め、概算要求や大型科研費の申請を行う。		0.30	論文としては、Molecular Biology and Evolution, Human Molecular Genetics, American Journal of Physical Anthropology(2編)、Quaternary International, Forensic Science Internationalなどの雑誌に共同著者、責任著者として発表した。大学院生2名を修了させることが出来た。概算要求「時空間ゲノミクス」が採択され、また、新学術領域研究(分担)、基盤研究A(代表)等を申請した。
社会貢献	0.10	コメディカル養成機関への医学専門教育の協力。とくに、骨学実習や解剖学実習見学を実施し、系統的理解を図る。厚生労働省から沖縄戦戦没者遺骨鑑定を依頼されているので実施する。		0.10	左記のように、コメディカル養成機関への医学専門教育の協力を実施した。とくに、骨学実習や解剖学実習見学を実施し、系統的理解を図った。厚生労働省から沖縄戦戦没者遺骨鑑定を依頼されたのみならず、これを研究として生かし、研究にも書いたが、Forensic Science International誌に論文を発表した。
管理運営	0.25	副医学部長として、学部長の補佐をする。教育については、医学教育企画室員として、室長を補佐し、医学教育の改革を進める。基礎研究担当として、各基礎医学系講座の研究の活性化を図るため、学務委員会との連携を図り、また、台湾を中心とする大学間交流を進める。また、移転担当としては、医学研究科・医学部医学科移転準備室長として、実務に当たる。		0.25	副医学部長として、学部長の補佐を進めた。教育については、医学教育企画室員として、室長を補佐し、グローバル対応の医学教育の改革を進める。基礎研究担当として、各基礎医学系講座の研究の活性化を図るため、台湾を中心とする大学間交流を進め、3月にはBMIに参加した。また、移転担当としては、医学研究科・医学部医学科移転準備室長として、実務に当たった。
進路指導	0.10	今年度は、3年次指導教員として、積極的に学生の進路相談に応じる。とくに1,2年次については、新たなカリキュラムに対応できるように随時相談に応じる。		0.10	今年度は、3年次指導教員として、積極的に学生の進路相談に応じた。懇談会を2度実施した。さらに、1,2年次については、新たなカリキュラムに対応できるように随時相談に乗った。
計	1.00			1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名 前		泉水 奏	医学部 医学科		職 名	助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.40	教育連絡主任としての業務をおこなう。肉眼解剖、基礎配属の実習に於いて、肉眼解剖の観察事項に関し組織学、生理学的観点から、特に臨床との関連について理解が深かまるよう指導説明し、学生の学習意欲の高めるようつとめる。		教育連絡主任としての会議も業務も存在せず、何もしなかった。肉眼解剖、基礎配属の実習に於いて、肉眼解剖の観察事項に関し組織学、生理学との関連から説明に努めた。さらに、解剖学の観察に於いて、臨床的な視点で何が重要なのかを説明した。		
研究	0.50	輸卵管内と外部に放出された卵の細胞内pHと細胞内の生化学的変化に関する研究をする。また細胞外pH上昇による卵受精能獲得に関する論文の投稿する。JAMO共同研究及び科研の申請を行う。		輸卵管内と外部に放出された卵の細胞内pHと細胞内の生化学的変化に関する研究をすすめ、輸卵管外に出されたら時に活性が上昇する酵素を見つけた。また細胞外pH上昇による卵受精能獲得に関する論文は投稿の準備を進めたものの投稿に至らなかった。27年度JAMO共同研究に採択された。		
社会 貢献	0.10	沖縄地域のコメディカル養成機関において、解剖学の講義を行い人体解剖学的知識を基盤として、コメディカル人員の養成に貢献する		沖縄地域のコメディカル養成機関において、解剖学の講義を行い、ここも、解剖学的知識と、生理学、臨床との関連について、学生が理解できるよう努め、人体解剖学的知識を基盤として、コメディカル人員の養成に貢献した。		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>		
<p>※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。 <input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。</p>						



(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		松下正之	所 属		大学院医学研究科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.20	学部学生 1)生理学Iの講義・実習により生理学への理解を深める。 2)国家試験レベルのミニテストを授業終了時に行い理解を深める。 3)世界的な医学領域の発見を紹介し、研究マインドを醸成する。 4)授業資料はWebClassで閲覧可能とする。 大学院生 1)生理学概論や各論の講義により、研究活動に必要な知識や思考法を習得させる。 2)2名の大学院指導を行い、学会発表を行う。			0.20	学部学生 生理学Iの授業・実習により基礎医学の理解を深めさせる、基礎医学に対する興味を喚起することができた。その結果として、継続して2人の学部学生が授業終了後に、自主的に研究室でプロジェクトを持ち実験を行っている。平成27年度の目標に関しては、すべて達成している。 大学院生 2名の研究指導を行い、学会発表を行った。		
研究	0.20	1)TRPM7論文の歯や肝臓における生理機能論文の投稿を目指す。 2)低酸素応答解析のOISTとの共同研究論文を投稿する。 3)医学部で獲得している概算要求プロジェクトを推進する。 4)現在獲得している科研基盤B、挑戦的萌芽研究を推進する。 5)沖縄県との共同事業である先端医療基盤活用型クラスター事業を推進する。			0.20	1)TRPM7の共著者論文がNature Communicationsに受理された。 2)OISTの共同研究を継続している。 3)先端医療基盤活用型クラスター事業の代表として研究を行い、事業評価としてSの評価を受けた。 4)科研費の研究成果からファイザー製薬と精神疾患病態解明の共同研究に発展し、AMEDの大型研究費を申請中である。		
社会 貢献	0.10	1)沖縄県内の医療福祉関係の専門学校生に講義を行い、沖縄県の医療に貢献する。 2)沖縄県や沖縄総合事務局主催の会議に参加し、沖縄県の医療レベルの向上に貢献する。			0.10	平成27年度の目標は達成している。さらに、沖縄県の医療分野での多岐にわたる領域で委員などを務めている。		
管理 運営	0.50	1)医学部長・研究科長として医学部の管理運営を行う。 2)分子・細胞生理学講座教授として講座の管理運営を行う。			0.50	1)医学部長・医学研究科長として医学部の管理運営業務を行い、学部の人事改革にも取り組み、任期制の導入など行った。 2)上原キャンパスの移転事業の推進に取り組んでいる。 3)概算要求による先端医学研究センターの設置が認められた。		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		中村 真理子	所 属		医学研究科 分子・細胞生理学講座
			職 名		准教授
領域	業務 ウェイト 比(予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.40	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前期M2対象医学外国語講義で、[血小板について]の英文を、学生中心に輪読し、凝固系に関わる血小板の役割について、学生が知識を構築できる講義にする。</li> <li>・前期M2対象の神経生理学実習では、脳波のとり方と解説を指導する。</li> <li>・前期基礎配属では実技を通して、血小板の基礎と臨床研究への応用を指導する。</li> <li>・後期M1対象生理学I講義・実習を 11コマと20コマ担当する。理解度を深める講義を目指し、講義と実習を一連の流れで行い、血管内皮細胞・血小板機能等は、研究内容を講義や実習に導入する。</li> <li>・本年度はM2の指導教官として生活指導などの支援を遂行する。</li> <li>・学生からの要望があれば、オフィスアワーを設けるようにする。</li> </ul>		0.50	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医学外国語講義[血小板について]は、予習・復習により、学生からも知識構築に役立ったと評された。</li> <li>・神経科学実習の脳波のとり方と解説も臨床実践に役立つのを目的に行った。</li> <li>・前期基礎配属では、一部学生に実験などの対応をした。</li> <li>・後期M1対象生理学I講義・実習は、一連の流れで行い、血管内皮細胞・血小板機能等は、研究内容を講義や実習に導入し、完了した。</li> <li>・指導教官として、学生との懇談会を設けた。</li> </ul>
研究	0.35	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本生理学会で「天然素材(蛇毒)からの抗血小板剤の開発」に関連する研究報告・発表を行う。</li> <li>・前年度に引き続き、「ハプトビン組換え蛋白体の構造と抗血栓活性発現との関係性」の研究を継続し、組換えハプトビンの血小板凝集能抑制効果について追究した結果を中心に論文を作成し、報告する。</li> <li>・新たなテーマとして、「血糖と血小板について」の研究を開始する。</li> </ul>		0.35	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生命医学財団のライフサイエンスプロジェクト助成金認証の為、「天然素材(蛇毒)からの抗血小板剤の開発」に関連する研究報告の発表をした。</li> <li>・「ハプトビン組換え蛋白体の構造と抗血栓活性発現との関係性」の研究を継続し、組換えハプトビンの血小板凝集能抑制効果について追究した結果を中心に論文を作成した、現在追加実験中である。</li> <li>・新たなテーマとして、「血糖と血小板について」の研究を開始した。</li> </ul>
社会貢献	0.20	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理学療法士や作業療法士を目指す学生に、生理学講義・実習を通して正常な身体の機能を教授する(学外)。</li> <li>・県立看護大学大学院で、病態生理学(病態と生理学の溝)(4月)、(検査基準値と年齢別変化について)(12月)に講義およびセミナーを行う。</li> <li>・日本生理学会・日本病態生理学会(教育委員として)評議員会へ参加する。</li> </ul>		0.10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理学療法士・作業療法士を目指す学生に、生理学講義・実習を通して正常な身体の機能を教授した(学外)。</li> <li>・県立看護大学大学院で、病態生理学(病態と生理学の溝)(4月)の講義およびセミナーを行った。</li> <li>・日本生理学会・日本病態生理学会(教育委員として)評議員会へ参加した。</li> </ul>
管理運営	0.05	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育企画室と連絡を密にし、医学科の教育向上に貢献する。</li> <li>・センター試験・入学試験およびCBT等の試験監督を率先して行なう。</li> </ul>		0.05	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育企画室と連絡を密にし、新カリキュラム作成や医学科の教育向上に貢献した。</li> <li>・入学試験の面接などを率先して行った。</li> </ul>
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		圓谷智之	所 属		医学研究科 分子・細胞生理学講座	職 名	特命助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.10	大学院生への実技・技術指導、学部学生への実習指導		0.15	実験の技術指導および研究内容について随時助言を行った。学部学生への実習指導を行った。		
研究	0.90	歯の発生、形成におけるTRPM7の役割とその分子的機構の解析 細胞膜透過性ペプチドの細胞内侵入に関わる分子の同定とその分子機構の解析		0.75	TRPM7の生体内における分布領域を解明した。現在は継続して生体内における分子的機構の解析を行っている。新たな細胞膜透過ペプチドの候補を現在スクリーニング中である。		
社会 貢献	0.00			0.10	TRPM7の生理学的機能についてブレインサイエンス研究会、日本分子生物学会年会、日本生理学会大会において発表を行った。		
管理 運営	0.00			0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		早川 朋子	所 属		医学部 医学科	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.10	呼吸機能の生理学実習を行う。マイクロスピロメーターを用いて肺活量、努力性肺活量、最大換気量を測定し、肺の換気機能について考察する。			0.10	呼吸機能の生理学実習において、実習に参加した学生全員に対し、マイクロスピロメーターを用いた肺活量、努力性肺活量、最大換気量の測定を実施させ、考察を行った。実習に関する試験問題を作成した結果、試験問題の正答率は8割を超えており、学生が理解できたことを確認した。		
研究	0.90	統合失調症患者iPS細胞の樹立を行う。また現在執筆中の論文を投稿する。			0.90	慈恵医科大学にて1クローンの樹立が完了した。論文は現在執筆中である。また日本学術振興会の科学研究費助成事業の基盤研究Cを受給した。		
社会貢献	0.00				0.00			
管理運営	0.00				0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>			1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		筒井 正人	所 属		医学部 医学科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.38	①医学科3年生の薬理学講義・実習、②基礎研究室配属における医学科4年生の研究指導、③薬理学大学院生の研究指導、④医学科2年生の医学外国語の講義、および⑤医学科指導学生の指導を行う予定である。熱意と誠意を持って、当該教育に打ち込む。			0.38	左記の目標は十分に達成できた。		
研究	0.40	世界的に権威のある雑誌に、出来るだけ多くの論文をpublishさせることを目指す。加えて、外部資金の獲得に尽力する。			0.40	今年度はin pressを含めて8報の論文を発表したが、impact factorの高い論文を発表することは出来なかった。この点は来年度の課題としたい。		
社会 貢献	0.02	久留米大学医学部において薬理学の講義を支援する。また、公開授業を提供し、社会貢献を果たす。			0.02	左記の目標は十分に達成できた。		
管理 運営	0.20	現在、①学務委員会委員、②教務委員会委員、③薬事審議会委員、④大学院医学研究科・医学部予算委員会委員、⑤大学院委員会委員、⑥臨床研究利益相反審査部会委員、⑦臨床研究倫理審査委員会委員を担当している。当該役職の職責を全うする。			0.20	左記の目標は十分に達成できた。		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		野 口 克 彦	所 属	大学院医学研究科薬理学	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.34	基礎配属された学部学生ならびに大学院修士課程学生に対し、基礎薬理学に関するセミナー形式や実験による教育を昨年度までの反省を踏まえた上で実践する。また、大学院博士課程の学生に対し、研究の指導助言を行う。3年次学部学生には担当する「薬理学」の講義及び実習を、できるだけ最新の知見を取り入れつつ、全体的なレベルアップを図ることを目標に行う。学部学生、および大学院生に対しても進路や修学相談などについて積極的に応じられるよう努める。		0.25	3年次学部学生には、担当する「薬理学」の講義16時限を、最新の研究成果を織り交ぜつつ行った。薬理学実習では、昨年の経験を踏まえて改善しつつ実施し予定通り終了した。基礎配属の学部学生に対して、実験の指導と結果の解釈について助言を行った。博士課程の学生に対しては、研究および論文作成についての指導助言と実験の一部の実施とデータの解析を行った。また、副指導教員として論文投稿前のチェックと論文作成の補助を行った。科研費申請支援アドバイザーに就任した。	
研究	0.60	現在取り組んでいる研究テーマ「循環器疾患と血管内皮細胞機能の役割」について、情報収集と実験及びデータの解析を実施し、学会発表の準備を行う。今年度は、臓器および時期特異的遺伝子改変マウスの作製およびその表現型解析に関する研究を始める。また、これまでの研究成果をまとめ、欧文誌への投稿を行う。さらに、大学院博士課程の学生に対する研究支援を行う。		0.60	現在取り組んでいる研究テーマについて、情報収集と実験及びデータの解析を行った。臓器特異的・時期特異的コンディショナルノックアウトマウスの作製を実施し、2種類の新しいマウスが得られた。今期はこれらマウスの基本的な表現型の解析を開始した。また、大学院博士課程学生のテーマであるマウス脳梗塞モデルの作製とデータの集計・取りまとめについて研究支援を行った。	
社会 貢献	0.04	沖縄産天然物生理活性物質の薬理作用に関する研究に関連して、県内企業との共同研究の可能性について検討する。		0.10	浦添看護学校の講義を4コマ担当した。今期では、県内企業との共同研究は実現しなかったが、企業など外部からの関心が得られるような沖縄産天然物生理活性物質の薬理作用に関する研究テーマについて情報収集を行った。	
管理 運営	0.02	学内および教室内の省エネ・省資源などのエコアクションに参画し、いっそうの充実を図るよう努力する。		0.05	医学部附属実験実習機器センター運営委員会の委員に任命され、会議に参加した。	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		坂梨まゆ子	所 属		医学研究科	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.25	鎮痛薬の講義では、昨年販売開始された片頭痛治療薬の特徴および薬理作用についての説明を追加する。漢方薬の講義では、五臓論の説明を追加する。実際の腹診の様子を視聴覚教材を用いて概説する。可能であれば、漢方薬の試飲を行う。昨年度に引き続き、学内外で開催されるFDや薬に関する研修会に参加し、最新の知見を広め、講義や実習に反映する。			0.25	鎮痛薬の講義では、女性の生理周期を起因とする片頭痛の治療薬についての説明を追加した。漢方薬の講義では、五臓論について視聴覚教材を用いて概説した。さらに講義中に漢方薬の煎じ薬を調製し、希望するすべての学生にエキス製剤との比較試飲をさせた。また、学内開催の琉球大学漢方医学研究会、学外開催のファーマシーセミナーや沖縄「全人的医療」研究会、沖縄県薬剤師会主催漢方講座等に参加し、最新の知見を広め、講義や実習に反映させた。		
研究	0.53	1)テストステロンが虚血性心臓疾患の増悪におよぼす影響を検討する。(H27 新規科研費獲得) 2)トリプルNOS knockout (KO) miceの心筋梗塞発症における腎心連関の関与を性差の面からアプローチする。(H27 研究助成金獲得) 3)3-MST KO miceの糖代謝異常の機序の解明を目指す。			0.55	1)triple (TR) NOS KO miceのMCAO研究において、卵巣および精巣摘出モデルマウスを作製し、性差の影響検討に寄与した。 2)精巣摘出2/3腎臓摘出TR NOS KO micelにステロイドチューブを埋め込み、生存率の改善作用を検討した。 3)長期の外因性NOx摂取低下による心血管代謝経の影響研究で、CT解析やオーガニチャンパーでの血管反応性の検討に寄与した。		
社会貢献	0.20	1)漢方薬・生薬認定薬剤師として、漢方薬の使用や適応などに関する相談に応じたり、副作用情報の提供を行う。専門分野(薬理学)の知識を生かして、学外の看護学生への教育を行う。一般の方向けのお薬相談で薬の飲み方や相互作用に関する相談に応じる。 2)琉大附属小および中学校の学校薬剤師として学校環境衛生検査に従事し、適宜アドバイスを行う。			0.18	1)漢方薬・生薬認定薬剤師として、漢方薬(柴苓湯)服用が原因と推察される急性肝機能障害患者の服薬指導を行い、処方医へ副作用情報(原因生薬に関する情報)提供を行った。浦添看護学校において薬理学の講義を行った。一般の方向けのお薬相談で、苦みの強い薬の飲み方の指導や、血圧に関する講話を行った。 2)琉大附属小および中学校の学校薬剤師として学校環境衛生検査に従事し、学校保健委員会に参加した。検査結果より、教室内照度の改善や、プールサイド(シャワー故障やトイレ壁の剥離)の状況改善を学校長に要求した。		
管理運営	0.02	大学入試(センター試験、2次試験)試験監督業務などの入試業務に協力する。エコアクションの一環として、研究室内の毒劇物管理を行う。化学物質管理責任者として試薬等の健全な管理を行う。			0.02	センター試験、学士入学試験等の入試業務やCBT試験監督業務などの業務に協力した。研究室内の化学物質管理責任者として、不要試薬等の廃棄や特に毒劇物薬の管理(使用簿記入と残量の定期的調査)を推進した。さらに医療用廃棄物の取扱指導を徹底した。		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		國吉 幸男	所 属		医学研究科(胸部心臓血管外科学講座)	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.25	1)学部学生への講義(M3,4);循環器外科に関する講義。大学院生への講義;人工弁、人工心臓、人工心臓等に関する講義等。 2)臨床実習(M5,6)学生へのベッドサイドの教育(術前・術後管理、手術の実際、提出レポートに基づく口頭試問の実施・評価)。 3)指導学生との懇談会、学習指導			0.20	1),2),3)とも実施し得た。		
研究	0.25	1)科学研究費による、MEP(運動誘発電位)に関する研究・実験的研究 2) Budd-Chiari syndrome研究、胸部大動脈瘤研究の推進 3)学術学会の理事・評議員として運営への参加 4)国内外学術雑誌への投稿論文の査読への参加			0.30	1)、2)、3)、4)とも実施し得た。		
社会 貢献	0.10	1)地域医療への貢献 2)先進医療の導入 3)医療に関する学術講演会の開催			0.20	1)実施し得た。 2)TAVIを導入できた。 3)沖縄心不全研究会、沖縄血管外科カンファレンス、沖縄ハート等にて外部からの講師を招いて学術講演を主催した。		
管理 運営	0.10	第二外科科長、大学院講座長としての管理運営			0.10	左記、行った。		
診療	0.30	1)先進医療を医療安全の下で推進する。 2)TAVI(TAVR)の実施			0.20	1)、2)TAVIを中心として、医療事故等なく安全に実施できた。		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			



(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		山城 聡	所 属		大学院医学研究科 胸部心臓血管外科学	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.15	医学部1年次の指導教官として進路指導を行う。医学部3年次及び4年次の臨床講義(系統講義)に加え、5、6年次の臨床実習教育を行い、心臓外科疾患の診断及び治療の基本を理解してもらう。年度末には試験担当し、評価を行う。初期臨床研修医・後期臨床研修医に対する臨床教育を行う。特に後期臨床研修医に対する教育は、一般外科のみならず胸部外科(呼吸器外科・心臓外科)の教育を行う。また、研修医の1回以上の学会発表或いは症例報告を目標とする。			0.15	医学部学生臨床講義及び臨床実習において心臓外科疾患の基本を理解させられた。年度末試験においてはその理解度を確認し得た。研修医に対する臨床教育において心臓外科手術手技及び術後管理について教育することができた。また、研修医に県医師会での症例報告を行わせることができた。臨床指導をとおして、学生へ対応することができた。研修医への対応、指導ができた。懇談会等をとおして、学生へ対応することができた。		
研究	0.20	基礎研究(心筋虚血・再灌流障害)の継続。臨床研究として開心術中の心筋虚血・再灌流障害についての解明に新たに取り組む。研究成果について論文発表・学会発表を行う。 また、筆頭著者論文を執筆する。			0.20	臨床研究としてのMICS術後の肺水腫予防についての構想をすすめている。肺水腫予防について国内外学会で発表し、さらに論文発表し得た。		
社会 貢献	0.15	臨床経験・治療成果(手術成績等)を学会発表、論文発表し、その情報を公開する。また、近隣病院での手術要請時に迅速に対応することで地域に貢献する。			0.15	大動脈疾患の手術成績の発表。当科で経験した希な疾患について学会や論文発表が行えた。近隣施設で緊急手術要請に対しては迅速に対応できた。又、低浸襲手術の一般市民に対する説明会を行えた。		
管理 運営	0.15	諸委員会への出席及び病院管理にての決定事項に対する当該医局での徹底の管理。病棟及びICU入退院の円滑管理。			0.15	諸委員会への出席及び病院管理にての決定事項に対する当該医局での徹底の管理及び病棟及びICU入退院の円滑管理ができた。		
診療	0.35	心臓血管外科疾患の診断ならびに手術治療を行う。月・水・木の定期開心術に加え緊急手術の迅速な対応を行う。周術期管理、退院後の定期外来管理を担う。			0.35	手術治療並びに診断を充実できた。特に緊急手術は迅速な対応で良好な結果を得られた。又、低浸襲手術への取り組みが行えた。		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		喜瀬 勇也	所 属		医学研究科 胸部心臓血管外科学講座	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.10	医学部臨床実習学生の指導を行う。主にベッドサイドを中心に、周術期の患者管理、手術中の注意点を指導する。レポートの作成、プレゼンの指導を行う。学生の国家試験対策として、循環器専門領域の知識の拡充も図る。			0.10	臨床実習学生に対し、心大血管症例の受け持ち症例を1例ずつあたえ、その疾患の理解を深めるため、論文形式でレポート作成が出来るよう指導した。開心術手術手技、術中のvital管理、臓器保護、人工心肺等の説明、術後管理(とくにICU管理)について理解できるよう指導した。		
研究	0.10	昨年に引き続き、臨症状問題となっている、大血管手術の際の脊髄虚血に対し、犬モデルによる脊髄血流保護に関する研究をすすめる。本年は脊髄血流量とMEP振幅の相関、MEP振幅と体温の相関について研究を行う。			0.10	基礎研究として犬モデルにおいて低体温下での運動誘発電位の測定が出来るようになった。(麻酔管理、体温管理、刺激方法などの適切な実験環境の整備、実験系の確立をすすめている)		
社会貢献	0.10	臨床業務を通して、適切な手術および患者管理を継続する。また専門性の高い心臓血管外科領域の疾病、その治療手段に関して一般の方の理解が深められるよう医療講話等を行う。			0.10	2次、3次医療圏での中核施設として心血管領域の緊急紹介症例の受け入れを積極的に行った。重症心不全症例手術、低侵襲手術等も行っている。		
管理運営	0.10	医療事故を防ぐため各種委員会(輸血療法委員会等)で取り上げられた問題点を医局員へ伝え、円滑で安全な運営が出来るよう取り組む。			0.10	輸血療法委員会等での活動で、院内の問題点の解決へ積極的に取り組み、また医局員への啓蒙を行った。		
診療	0.60	外来、検査、入院患者の担当(主治医)を主とし、手術患者の周術期管理全般を担う。特に緊急、高齢者、合併症を持つ患者など他院での受け入れ、治療が困難な心臓外科領域の診療を積極的に行う。			0.60	専門性が高く、病態が複雑な心臓血管外科領域の症例に対し、術前、手術、術後適切な管理を行った。		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>			1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		前田達也	所 属		胸部心臓血管外科学講座第2外科	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.20	大動脈瘤疾患に対するアプローチ方法(診断、治療、フォローアップ)について医学部学生および臨床研修医に十分に周知できるように、外来見学、ベッドサイドレクチャー、手術見学などを積極的に行っていく。			0.20	医学部学生(臨床実習生)に対して、受け持ち患者を1例ずつあたえ、その疾患についての理解を深めるとともに、その周術期管理およびフォロー方法について学習してもらった。また、文献検索方法や疾患についてのレポート指導を行った。		
研究	0.20	胸部・腹部大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術に関して、学会での報告発表を行う。 また、筆頭著者論文を執筆する。			0.20	胸部・胸腹部大動脈瘤に対するステントグラフト治療において、ハイブリッドORの有益性を検討し、学会発表を行った。		
社会貢献	0.20	沖縄県内において、大動脈瘤疾患に対するステントグラフト治療の周知および普及に努める。また、経カテーテル大動脈弁植え込み術(TAVI)の導入による新たな治療の普及に努める。			0.20	地域への講演などを通して大動脈瘤疾患に対する、ステントグラフト治療の周知に努めた。また、関連病院におけるステントグラフト治療にも協力できる体制を作っている。TAVIに関してもハートチームを作成し、院内の検討会および、施設見学を行い、導入に向けて進めている。		
管理運営	0.20	経カテーテル大動脈弁植え込み術(TAVI)の導入のため、ハートチームの一員として、運営管理に携わる。			0.20	ハイブリッド手術室の導入および、その有効利用について検討および周知に携わった。		
診療	0.20	大動脈瘤疾患に対する診断ならびに手術治療を行う。定期手術に加えて、緊急手術にも対応できるような態勢を整える。 また、退院後の定期外来管理を行う。			0.20	臨床を通じて緊急でも対応できる診断、治療、フォローアップに努めた。		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>			1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		垣花 学	所 属		大学院医学研究科 麻酔科学講座	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.15	医学部での系統講義ならびにM5、M6への病院臨床実習における指導を行う。さらにTBLなどDiscussionを中心とした講義に積極的に参加する。初期研修医に対しては、初期臨床研修必須項目を実施できるように指導する。			0.15	M5,M6の病院実習、M3の系統講義を行い、さらにTBLなども積極的に参加した。初期研修医に対しては、手技をビデオに撮り教育的なフィードバックに用い意義ある研修を提供できた。		
研究	0.05	基盤研究(B)の採択に伴い、これらの課題研究を推し進める。研究結果を公開するために、学会発表および筆頭著者論文を執筆する。			0.05	基盤研究(B)の研究を進め、トップジャーナルに投稿予定です。また、学会においてシンポジスト、講演者としてこれまでの研究を発表してきた。		
社会貢献	0.10	北部地区病院ならびに宮古・八重山地区の巡回診療を行い、地域の医療に貢献する。また、研究活動を学会および論文として公表し、その成果を臨床に応用できる体制を整える。			0.05	各病院を巡回することができず、その地域の医療に個人としては貢献できなかった。しかし、医局員を宮古病院、八重山病院に派遣し地域医療に貢献した。		
管理運営	0.50	医師キャリア支援センター長として初期研修医の教育体制を管理運営する。沖縄県地域医療センターの委員として地域医療センターの運営方針構築に努める。附属病院副院長として診療・運営に関わる。			0.30	医師キャリア支援センター長として初期研修医の教育体制、特にFDへの指導医養成セミナーなどの開催運営を行った。沖縄県地域医療センターの委員として新たな専門医制度プログラムを地域枠学生に適應できるよう検討した。		
診療	0.20	担当教官として班員の進路指導ならびに初期研修医への後期研修説明などに関わる。医師キャリア支援センター長として後期研修医の進路指導を行う。			0.45	麻酔科医として周術期管理を行い、さらに集中治療部部長として回診した。さらにすべての麻酔症例を毎週金曜日にレビューし術後合併症の要因を検討してきた。		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>			1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		中村清哉	所 属		麻酔科	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生 支援	0.20	医学部学生の講義に際して、学生が積極的に参加できるように講義の工夫を行う。また、研修医、ローテーターに対し、実際の麻酔管理、ペインクリニック外来の実習監督を行い、指導する。教官として学生、研修医の進路指導に関わる。		0.20	医学部学生の講義に際して、学生が積極的に参加できるように講義の工夫を行う。また、研修医、ローテーターに対し、実際の麻酔管理、ペインクリニック外来の実習監督を行い、指導した。教官として学生、研修医の進路指導に関わった。			
研究	0.10	麻酔、ペインクリニック、緩和ケア関連の臨床研究、症例検討を行い、学会等で発表を行う。症例報告、原著論文を作成する。		0.10	麻酔、ペインクリニック、緩和ケア関連の臨床研究、症例検討を行い、学会等で発表した。症例報告、原著論文を作成した。			
社会 貢献	0.10	地域の関連施設に週一回出向し、関連施設の医師及び看護師に対し、技術指導及び教育を行い、地域住民への医療支援及び医療技術の還元を行う。		0.10	地域の関連施設に週一回出向し、関連施設の医師及び看護師に対し、技術指導及び教育を行い、地域住民への医療支援及び医療技術の還元を行った。			
管理 運営	0.10	スタッフとして医局、手術室、ICU運営に協力する。		0.10	スタッフとして医局、手術室、ICU運営に協力した。			
診療	0.50	附属病院手術室において、麻酔業務に専従し、手術数増加のために貢献する。手術を受ける患者に対し、安全で高度な医療を提供する。ペインクリニック外来にて患者を診療し治療する。		0.50	附属病院手術室において、麻酔業務に専従し、手術数増加のために貢献した。手術を受ける患者に対し、安全で高度な医療を提供した。ペインクリニック外来にて患者を診療し治療した。			
計	1.00			1.00				

※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

学外公表に同意しない。

学内公表に同意しない。

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		金谷文則	所 属		医学研究科医科学専攻整形外科学講座	職 名		教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定			業務 ウエイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育	0.25	臨床講義「case presentation」では学生に主体性を持たせ発表させている。ポリクリ学生に対しては小グループ指導・実習を行っている。、後期研修医に対するマイクロサージャリーの教育・指導、県内・外病院における手術指導、教育的診察・回診			0.25	系統講義の他、臨床講義「case presentation」を5コマ行い学生に主体性を持たせ発表させ、アンケート結果も良好であった。ポリクリ学生に対しては小グループ指導・実習を行っている。、後期研修医に対するマイクロサージャリーの教育・指導、県内・外病院における手術指導、教育的診察・回診を行った。		
研究	0.25	標準整形外科の改訂、新潟手の外科セミナーの改訂、「先天性橈尺骨癒合症の分類」の執筆、大学院生の指導			0.25	標準整形外科の改訂、新潟手の外科セミナーの改訂		
社会貢献	0.10	「熱中症の予防と対応」「ロコモの対策」についての市民公開講座を予定している			0.10	熱中症の予防と対応「ロコモと手足のしびれ」についての市民公開講座を行った。		
管理運営	0.15	拠点病院における研修体制の確立、県内における離島医療の充実のための人員配置と研修体制の確立。			0.15	拠点病院における研修体制の確立、県内における離島医療の充実のための人員配置と研修体制の確立を行った。		
進路指導	0.05	県内・県外施設および病院の紹介			0.05	県内・県外施設および病院の紹介を行った		
診療	0.20	地域医療の充実を図る(教育的診察・回診を除く)			0.20	地域医療の充実を図る(教育的診察・回診を除く)		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>			1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		前原 博樹	所 属		整形外科
			職 名		講師
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.15	医学生に対する骨軟部腫瘍領域の講義 授業の見直し(学生の意見をとりいれながら)		0.10	講義およびポリクリ講義において、骨軟部腫瘍の講義を行ったが、学生の意見は十分取り入れ改善している段階
研究	0.15	学会での報告発表、外部資金の獲得、他大学との共同研究、他施設共同研究		0.10	国内、国外において研究結果を報告できた。外部資金の獲得はできなかった。
社会 貢献	0.05	啓蒙活動(医療従事者)、教育講演(一般)		0.10	県外で医療従事者向けに講演を行った。、一般向けには達成できなかった。
管理 運営	0.10	骨軟部腫瘍ミーティングの開催(病理医、放射線科医)、レジメン委員会		0.20	病理医を含めたconferenceを西日本整形外科災害外科学会に付随する腫瘍懇話会にて開催した。
診療	0.55	診療活動		0.50	通常通りこなせた。
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名 前		普天間 朝上	所 属	医学部 医学科	職 名	助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.20	医学生に対する手の外科領域の講義、臨床研修時の指導。医学部卒業予定者、初期研修医に対する定期的な進路説明。研修医および医員に対する学会発表・投稿論文執筆指導		0.20	医学生に対する講義、臨床研修時の指導。医学部卒業予定者、初期研修医に対する定期的な進路説明。研修医および医員に対する学会発表・投稿論文執筆指導	
研究	0.30	末梢神経再生。三角線維軟骨複合体損傷に対する治療。悪性腫瘍切除後の再建。		0.30	指尖部切断に対する再建法。手の領域のスポーツ外傷・障害。悪性腫瘍切除後の再建。マイクロサージャリーを駆使した四肢再建。	
社会貢献	0.10	スポーツ大会への帯同・医師派遣。学外の審査会、学会の委員会の参画。		0.10	スポーツ大会への帯同・医師派遣。学外の審査会、学会の委員会の参画。	
管理運営	0.10	DPC委員会、診療報酬委員会。入試試験監督。		0.10	DPC委員会、診療報酬委員会。入試試験監督。	
診療	0.30	整形外科外来および病棟(手術)業務		0.30	整形外科外来および病棟(手術)業務	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		



(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		金城 政樹	所 属	医学部 医学科	職 名	助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.30	医学部生の臨床研修時の指導と手外科領域の講義。卒後研修医に対する指導。		0.30	医学部生の臨床研修時の指導と手外科領域の講義。卒後研修医に対する指導。医員に対する学会発表指導	
研究	0.20	腱の治癒、縫合法に関するもの。先天性橈尺骨癒合症における基礎的研究と臨床研究。		0.05	先天性橈尺骨癒合症における基礎的研究と臨床研究。	
社会 貢献	0.10	スポーツ大会への帯同医派遣。学会の委員会活動、大学入試試験監督		0.15	スポーツ大会への帯同医派遣。学会の委員会活動、大学入試試験監督	
管理 運営	0.20	医局長、医療福祉支援センター運営		0.30	医局長、医療福祉支援センター運営	
診療	0.20	整形外科外来及び病棟業務		0.20	整形外科外来及び病棟業務	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)											
名 前		山内 貴敬		所 属		医学部整形外科		職 名		助教	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果					
教育・ 学生支援	0.30	研修医の指導。学生臨床実習の指導。系統講義など			0.20	研修医の指導。学生臨床実習の指導。系統講義など					
研究	0.30	当院における股関節治療の臨床評価			0.10	当院における股関節治療の臨床評価					
社会 貢献	0.00				0.05	講演会					
管理 運営	0.30	医局および病棟の業務の円滑化、リスクマネジメント			0.25	医局および病棟の業務の円滑化、リスクマネジメント					
診療	0.00				0.30	股関節・骨粗鬆症専門外来、最小侵襲手術					
進路 指導	0.10	学生および初期研修医の進路指導			0.10	学生および初期研修医の進路指導					
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>			1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>					
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。				

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		斎藤誠一	所 属		医学部 医学科
			職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.30	学生講義では構造化された、学生に伝わるような分かりやすい、できるだけ手作りの講義を行う。医師は多角的な能力が要求されるという観点からも、記憶だけに陥らないよう、ポリクリ時に糸結びなどの頭の体操的なトレーニングを課すことで、医学により興味を持ってもらう。指導教員を担当しているため学生との会合を大切にしたい。またサッカー一部の部長として、部員の将来の相談などに乗ってあげたい。		0.20	学生講義は目標設定通りに行えた。ポリクリ学生には外来では症例のポイントを説明し、考え方を身につけさせるようにした。糸結びは90%くらいの学生に対して教えることができた。6年次の学生の指導教員として話し合いの場を2回もつことができた。ほぼ目標通りに行えた。
研究	0.20	臨床に役立つ、世界で初めての創造的な研究を展開する。英語論文を最低2件指導し、投稿する。大学院生や医局員が競争的科学研究費を取得できるよう指導を行い、最低1件以上の科学研究費取得を目指す。沖縄泌尿器科EBM研究会での研究を促進し、論文文化につなげる。		0.20	泌尿器系癌でほとんど報告されていない分子を数種類同定し、引き続き体液マーカーの可能性を追求している。競争的科研費を1件獲得したものの、研究代表者の大学院生が実家の都合で大学を退職したため、返上した。同大学院生による腫瘍マーカーに関する英語論文は出来上がる寸前で家庭の事情のため中断したままである。パテント申請を琉球大学本部に行ったが、認められなかった。腫瘍に関する論文を出すことができず、目標の60%程度の成果と思われる。
社会 貢献	0.10	平成26年度は一般医家を対象として「前立腺癌地域連携クリティカルパス研究会」、セミナー「かかりつけ医のための泌尿器疾患診療のポイント」を開催したが、引き続き、今年度も市民公開講座、一般医家を対象としたセミナーを行う。		0.05	平成27年7月に沖縄県の泌尿器科医を対象に下部尿路症状に対する漢方薬について教育講演を行った。私自身は直接関与できなかったが、医局員による一般医家を対象とした「前立腺癌地域連携」の講演が平成27年12月に石垣市で開催された。
管理 運営	0.20	材料部長として医療器材の質の高い洗浄・滅菌に力を入れたい。患者サービス推進委員会では患者さんのためのより良い環境作りに入れたい。交通対策委員会では駐車スペースが限られているため、相対的に不足しない努力をしたい。医療安全委員会では、建設的な意見を出したい。		0.20	材料部というよりも病院全体として病棟・外来と手術部の医療器材の洗浄・滅菌の一元化に取り組み、実現した。医療材料の一本化をテーマにワーキンググループが立ち上がり、医療材料の節約がもたらされた。患者サービス推進委員会でコーヒーショップの導入を検討し、2月末にドトールがオープンした。ボランティア活動に関して保健学科の大湾准教授とともに検討し、平成28年2月にコンサートを開催するに至った。医療安全委員会でも積極的に発言した。ほぼ目標通りの成果と思われる。
診療	0.20	回診、臨床カンファレンス、他科との合同カンファレンスを通して、患者の適切な方向性を決定する。iPadを用いて医局員が疾患の最新情報を共有できるようにする。難易度の高い手術の指導や、若手に腹腔鏡手術の指導を行う。		0.35	カンファレンスにより患者に対して適切な治療法が行えた。自身とスタッフにより、若手医師2名に対して腹腔鏡手術をそれぞれ予定目標の20例を指導することができた。ほぼ目標通りの成果である。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		新崎 章	所 属		医学研究科顎顔面口腔機能再建学講座	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.15	M2学生に対する発生学(頭頸部の形成過程と異常の発生機序)講義、M3学生に対する歯科口腔外科学の系統講義および救急医療系(歯科口腔外科救急)講義、M3・4学士入学生に対する「熱帯医学・国際保健医療学」講義、大学院学生に対するe-Learning(健康長寿医学概論、再生・再建医学概論)を最新の情報を踏まえて講義する。厚生委員長として医学部学生のメンタル・ケアについても支援する。			0.15	M2学生に対する発生学(頭頸部の形成過程と異常の発生機序)講義、M3学生に対する歯科口腔外科学の系統講義および救急医療系(歯科口腔外科救急)講義、M3・4学士入学生に対する「熱帯医学・国際保健医療学」講義、大学院学生に対するe-Learning(健康長寿医学概論、再生・再建医学概論)を最新の情報を踏まえて講義を行った。厚生委員長として医学部学生のメンタル・ケアについても支援した。		
研究	0.25	大学院学生の研究(口腔癌の遠隔転移に関する研究)指導および論文作成指導を行う。助教の研究指導と研究担当助教の論文(早期舌癌の遠隔転移発生に関する術前化学療法の効果)の指導を行う。			0.25	大学院学生の研究(上皮迷入に関する研究)指導および実験指導を行った。結果、4編の英論文のアクセプトを得た。助教の研究指導と研究担当助教の論文(早期舌癌の遠隔転移発生に関する術前化学療法の効果)の指導を行った。		
社会貢献	0.10	沖縄県口唇口蓋裂を考える会(患者家族の会)を軌道にのせる。「顎の発育や異常を理解するための市民公開講座」と無料相談会を開催する。ラオスおよびエチオピアでの海外医療援助(口唇口蓋裂患者の無料手術)活動を行う。			0.10	沖縄県口唇口蓋裂を考える会(患者家族の会)を軌道にのせた。「顎の発育や異常を理解するための市民公開講座」と無料相談会を開催した。ラオスおよびエチオピアでの海外医療援助(口唇口蓋裂患者の無料手術)活動を行った。		
管理運営	0.25	医学部組織整備検討委員会、厚生委員会、医学部学生指導主任、医学部分館運営委員会、病院長補佐、広報委員会、クリニカルシミュレーション副センター長、地域医療部長、沖縄県地域医療支援センター運営委員、戦略的経営企画委員、医療安全管理対策委員会、リスクマネージャー会議、分析担当者会議、国際交流委員会、国際協力専門委員会、西日本医科学生体育連盟理事、沖縄県がん診療連携協議委員会等の委員会で運営に携わる。			0.25	医学部組織整備検討委員会、厚生委員会、医学部学生指導主任、医学部分館運営委員会、病院長補佐、広報委員会、クリニカルシミュレーション副センター長、地域医療部長、沖縄県地域医療支援センター運営委員、戦略的経営企画委員、医療安全管理対策委員会、リスクマネージャー会議、分析担当者会議、国際交流委員会、国際協力専門委員会、西日本医科学生体育連盟理事、沖縄県がん診療連携協議委員会等の委員会で運営に携わった。		
診療	0.25	①EBMIに基づいた良質の先端医療を提供する。②口腔癌患者に対して標準治療に基づいた個別化治療を行う。③口腔ケアセンターを活性化し、がん患者の医科歯科連携の確立によるQOLの向上を図る。④口唇口蓋裂センターの充実を図る。			0.25	①EBMIに基づいた良質の先端医療を提供した。②口腔癌患者に対して標準治療に基づいた個別化治療を行った。③口腔ケアセンターを活性化し、がん患者の医科歯科連携の確立によるQOLの向上を図った。④口唇口蓋裂センターの充実を図った。		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		西原 一秀	所 属	大学院 医学研究科 顎顔面口腔機能再建学講座	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.25	<ul style="list-style-type: none"> <li>顎顔面口腔機能再建学講座医員の臨床・研究ならびに教育に対する指導</li> <li>歯科医師臨床研修医の臨床ならびに研究指導</li> <li>医学部学生の歯科・口腔外科学の講義ならびに臨床教育</li> <li>医学部新入生指導教官としての学生支援</li> </ul>		0.25	(概ね達成できている) 医局員の教育指導は、手術の指導、外来の患者診察など適切に行うことができた と考える。しかし、専門医の取得までには至らなかった また、歯科医師臨床研修医に対しては診察研究指導と適切に行い、学会発表、海外 医療援助など有意義な研修を行わせることができた。 医学部学生では講義を担当し、ポリクリではゼミなどの講義を行うこともできた。今 年度の新入生指導では指導教官として学生とコミュニケーションを取りながら担当 学生全員進級することができた。	
研究	0.25	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際学会誌への投稿および国際学会・各専門学会の発表</li> <li>口唇口蓋裂関連の臨床的研究の充実とチームによる研究のマネージメント</li> <li>顎骨再建・口腔機能再建に対する基礎的・臨床的研究</li> <li>科学研究費基盤研究(一般C),(海外B)に申請中。</li> <li>全日本冠婚葬祭互助協会の公募申請中。</li> </ul>		0.25	(概ね達成できている) 今年度はIFの有する雑誌2編(共著)と国内雑誌1編(原著)を報告した。申請中の 論文は1編である。 専門分野の口唇口蓋裂では国際会議に招待講演者として発表し、チーム員は国 内学会3編、国際学会3編で発表を行った。 科研費の獲得はできなかった	
社会貢 献	0.15	<ul style="list-style-type: none"> <li>口唇口蓋裂患者の国際医療援助活動の参加(ラオス・エチオピア)</li> <li>沖縄県口唇口蓋裂を考える会の定期的開催</li> <li>沖縄県の歯科口腔機能を考える講演会の開催</li> </ul>		0.15	(達成できている) 今年度は12月ラオス、2月エチオピアで口唇口蓋裂医療援助活動を行った。 また、口唇口蓋裂親の会の開催も計画し、4月に行う予定である。	
管理運 営	0.10	<ul style="list-style-type: none"> <li>病院内各委員会の継続的な参加</li> <li>歯科口腔外科外来医長として外来の管理運営</li> </ul>		0.10	(達成できている) 院内感染対策委員として委員会参加を行った。 歯科口腔外科准教授として医局の管理、外来医長として管理運営を行った。	
診療	0.25	<ul style="list-style-type: none"> <li>医局内医療事故件数0件を目指す</li> <li>歯科口腔外科外来ならびに手術患者数の増加および診療報酬増加</li> <li>口唇口蓋裂センターの診療体制の充実と患者増</li> <li>病院内周術期の口腔ケアの診療体制の確立と患者増</li> <li>歯科用インプラント治療の診療体制の確立と患者増</li> </ul>		0.25	(達成できている) 医療事故数は0件であった。 歯科口腔外科の診療報酬増加のために周術期の口腔機能管理、インプラント治 療の整備、口唇口蓋裂センターの充実に努力し、患者数の増加、手術件数の増加 が見られた。 口唇口蓋裂受診患者数も増加している。	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定して                      ください。</li> </ul>		1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		喜名 振一郎	所 属		医学研究科顎顔面口腔機能再建学
			職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.10	大学院生が共著となれるような指導実績をつくる		0.10	論文は査読中である
研究	0.60	筆頭筆者の論文を受理される		0.60	論文は査読中である
社会貢献	0.10	市民公開講座に積極的に参加する		0.10	市民公開講座等で職責をはたした
管理運営	0.10	学内委員会への積極的な出席		0.10	試験監督等を滞りなくこなした
進路指導	0.10	大学院受験生を増やす		0.10	大学院受験生を獲得できていない
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		久木田 一郎	所 属	医学部 医学科	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.15	救急医療系講義、倫理討論、医療学総論、保健学科講義等で救急災害医療・医療倫理について教育する。北米型の救急部において参加型臨床実習を行い、生きた医学知識・能力を養う。大学院生へ救急・災害演習を行う。医学部生、研修医への救急車同乗実習を管理し、初期臨床研修医への救急診療教育を行う。ERへ出向する各科医師へ専門分野を超える救急の現場を共有する。医学部医学科2年次学生の指導教官として学生の指導に努める。		0.15	救急医療系講義、倫理討論、医療学総論、保健学科講義等で救急災害医療・医療倫理について教育した。医学生へ北米型の救急部において参加型臨床実習を行い、生きた医学知識・能力を教育した。大学院生へ救急・災害演習を行った。医学部生、研修医への救急車同乗実習を管理し、初期臨床研修医への救急診療教育を行った。ERへ出向する各科医師へ専門分野を超える救急の現場を共有できた。医学部医学科2年次学生の指導教官として学生の指導に努めた。	
研究	0.15	重症救急患者の基礎研究および症例報告を含めた臨床研究を進める。講座に属する大学院生の病院前救急医療に関する研究(救急医療財団より研究費助成)、院外心停止の蘇生率に関する研究を進める。災害医療に関し、国際的研究および衛星を活用する研究を進める。		0.15	重症救急患者の基礎研究および症例報告を含めた臨床研究を進めた。講座に属する大学院生の病院前救急医療に関する研究(救急医療財団より研究費助成)、院外心停止の蘇生率に関する研究を進めた。災害医療に関し、衛星を活用する研究のためNICTのパラボラアンテナを設置した。	
社会貢献	0.15	救急部拡充により当院の救急・災害医療の受け入れ能力を高める。在沖米国海軍病院との連携を進める。病院前の救急医療体制の構築(県MC協議会)を消防機関と共に担う。災害医療に関する沖縄県や国、国際的な連携体制を構築するための活動を行う。海上保安庁と協力し沖縄での洋上救急業務に参加するなど航空医療搬送システム構築へ貢献する。		0.15	救急災害医療棟の稼働により救急・災害医療の受け入れ能力を高めた。在沖米国海軍病院主催の催しに参加した。県MC協議会会長として救急医療体制の構築を担っている。DMAT訓練、沖縄県防災訓練に参加し、当院の防災訓練ではじめて患者受け入れ訓練を実施した。海上保安庁と協力し沖縄での洋上救急業務に参加するなど航空医療搬送システム構築へ貢献した。	
管理運営	0.15	医療機器安全管理責任者、MEセンター長として、附属病院における臨床工学技士の教育・円滑な活動ができるよう体制を作り、医療機器に関する医療安全を向上させる。救急部運営協議会、診療委員会、病院運営委員会等に参加し、病院の救急災害診療体制構築を進める。		0.10	医療機器安全管理責任者、MEセンター長として、附属病院における臨床工学技士の教育・円滑な活動ができる体制を作り、MEの夜勤体制をはじめなど安全性を向上させた。救急部運営協議会をほぼ毎月開催し、病院の救急診療体制構築を進めた。	
診療	0.40	医学部附属病院の救急部部長として救急部拡充に合わせて、救急部専従スタッフの増員、出向医の安定確保、診療体制の維持向上に努め、救急患者受け入れの充実、救急医療体制の向上に努め、DPCの救急係数を上げ、病院全体の収入および救急部の収入、救急からの入院を受け入れた各診療科の収入増に貢献する。		0.45	専従スタッフの増員は4月時点で9名に至ったが、個人的な移動・海外留学等のため6名となった。出向を含めたスタッフ数がギリギリのため、診療体制の維持向上にも難渋したが、救急患者受け入れの充実に努め、病棟をHCU施設として申請し、円滑な運営を開始した。救急科の収益はスタッフ数に連携する点が多々あるため、収入増への貢献にはスタッフ増を進める必要がある。	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		松下明子		所 属	医学研究科臨床薬理学講座	職 名	助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.20	臨床薬理学講義の担当分、その他依頼された講義は、厚生労働省やWHOの最新の統計データや、学術論文のデータを取り入れ、学生に理解しやすい構成を工夫する			0.20	M4とM3の臨床薬理学で循環器領域のessential medicinesの臨床薬理学、トランスレーショナルリサーチの講義、試験問題を担当した。また大学院研究方法論概論の臨床薬理学講座枠を担当した。いずれの講義内容も最新の統計データや時事問題も含め、学生にわかりやすい講義を心がけた。	
研究	0.60	ヒト薬理試験、培養細胞実験を組み合わせ、高血圧、動脈硬化関連疾患の発症メカニズム、治療法の探索を行う。成果を国内、国際会議での研究発表、論文投稿する。			0.60	第36回日本臨床薬理学会総会でコルヒチンの健常者における血中および白血球中の薬物動態試験という内容で口頭発表した。医学部、医学研究科、附属病院の大学院生や研究者の研究を応援するリサーチカンファランスを再開し、第1回の世話人をした。臨床薬理研究振興財団の研究奨励金に応募し、200万円の助成金を受けた。	
社会貢献	0.15	学会、論文発表等による研究成果の社会への還元			0.15	論文は執筆して図も作成しているが、共同研究者で止まっている。そういう論文が3つある。	
管理運営	0.05	入試関連業務等、依頼があった場合、協力する。			0.05	大学入試センター試験の試験監督業務を行った。	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>			1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		



(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		苅谷 研一	所 属		医学研究科・医化学講座	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生 支援	0.45	大学院教育(コース共通講義、特論、演習、実習等)、学部教育(生化学系統講義・実習を1、2年次学生に前後期に別々に行うという移行期措置、基礎研究)、および共通教育(医学概論A)を担当する。また、大学院博士課程学生の進路と研究内容の調和をはかって支援し、院生の卒後の活動についても必要な支援を行う。		0.45	大学院講義とともに臨床系院生の実験、基礎系院生の学位論文を指導した。学部では移行的に生化学講義/実習を例年の2倍行ったが、破綻なく終了した。移行後カリキュラム準備に参加したほか、国試対策FD出席、共通教育講義も行った。また、他機関在籍大学院生の副指導教員業務でのデータ確認や既卒院生のポスドク応募に際しての電話やletterでの援助、学部生の指導教員業務も行った。			
研究	0.35	大学院博士課程の院生や他の教員とともに研究の進展、学外との研究交流(学会や他施設との共同研究等)、論文の採択、外部資金の獲得につとめる。		0.35	教室独自の4種類のKOマウスの1つについて論文発表したほか、JSTから獲得した資金で別のKOマウスについて解析、他のKOマウスについてもOISTを含む2種類の外部機関と共同研究した。			
社会 貢献	0.10	研究で得た知見を民間との共同研究により社会に還元できるよう目指す。また、査読や審査など外部機関からの依頼業務を必要に応じ遂行する。		0.10	上記のJST関連のKOマウス利用の可能性について製薬企業に提案したが未だ実現はしていない。学会出席とともに依頼されたセッション座長の業務も行った。			
管理 運営	0.10	学内、学部内の各種委員会活動を行うとともに、附属図書館の運営、特に学術誌の削減問題、本館工事への対応について医学部分館長として各種図書館委員会の活動に注力する。		0.10	学内、学部内の各種委員会構成員の職務を遂行し、図書館分館長としては他学部と交渉しつつ学術誌・データベース高騰への対策(契約雑誌削減)、本館改築などに関連する業務を遂行した。			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。				

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前	海川 正人		所 属	医学研究科・医化学講座		職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.40	教育は大学院教育(講義、実験指導)、大学院副指導教員、および今年度は特別に前後期にわたり2つの学年に対して行う学部系統講義・実習、基礎研究等に従事、学生支援は学部学生の指導教員としての活動に従事する。また、学生支援として大学院生の希望する進路のため助言する。また、指導教員として学部学生に助言を行う。		0.40	大学院講義、講座大学院生の実験指導と他講座大学院生の副指導教員業務、学部学生については2つの学年に講義・実習指導とともに、講座の教務連絡主任を務め、基礎系新カリキュラムに関する会議にも参加した。院生の就職について援助するとともに学部学生支援としては指導教員として班会等での生活指導等を遂行した。		
研究	0.40	他の教員や大学院生とも協力して研究の進展、情報交換(学会や他の研究者との連携等)に努力し、論文の採択や、外部資金の獲得を目指す。		0.40	科学研究費補助金(基盤研究C)を用いて独自の研究を進展させ論文として発表し、学会にも参加して情報交換を行った。		
社会 貢献	0.10	得られた知見、技術が将来の医療に還元できることを目指して研究する。		0.10	研究内容は炎症性疾患の機構解明に資するもので、新規治療法の開発の端緒となる可能性が高い。		
管理 運営	0.10	講座内業務分担、機器運用の効率化等について総合的に調整する。また教務連絡主任として学部教育関連の業務を遂行する。		0.10	講座内の業務分担調整等だけでなく入試面接委員、センター試験監督など入試関連業務も遂行した。		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		野中 公子	所 属		医学研究科・医化学講座	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.40	医学研究科教育では講座の大学院生の実験指導、医学科教育では生化学実習等の学部生教育を他の教員とともに分担する。新カリキュラムへの移行のため本年度は実習を二度行う。学生支援は、必要に応じて、大学院生や学部学生の将来像について、家庭を持つ女性研究者／医師としての経験に基づく助言を行う。			0.40	大学院生の実験を随時指導するとともに、学部学生の生化学実習の指導を主に行い、新カリキュラムへの移行のための二度の実習を問題なく終えた。また、臨床系女性大学院生、学部の後輩女子学生と対話し、自らの経験から家庭との両立や進路について助言した。		
研究	0.50	講座大学院生、講座教員、他講座スタッフ、さらには外部研究者と共に研究を進め、各種学会、研究会等で情報交換するとともに、論文による成果公表、外部資金の獲得につとめる。			0.50	新たに獲得した科研費(基盤C)によるKOマウスの研究、皮膚科との共同研究の論文準備、沖縄科学技術大学院大学との共同研究に従事した。		
社会 貢献	0.05	将来的に地域・社会の診療現場で役立つ成果を目標に研究する。			0.05	本学や地域の患者の診療の向上を目指して研究し、非常勤医師として地域医療へも参加している。皮膚科との共同研究は実臨床での活用につながる内容である。		
管理 運営	0.05	試薬・機器の適切な維持管理につとめ、効率的な研究活動と環境への負荷軽減に配慮する。			0.05	各種KOマウスの講座としての維持管理、対外連絡の中心的業務を果たした。また、入試関連業務を分担した。		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>			1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		安里 剛	所 属		医学研究科・医化学講座	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.40	大学院教育(講座内院生指導)、学部学生教育(講義、実習、実習レポート評価、各種試験問題作成等)を分担する。講義、実習は今年度は1年生と2年生に別々に計2回行う。大学院生の卒後進路につき話し合い、希望や適性を把握して支援する。			0.40	講座大学院生の実験を必要に応じて指導、学部学生に対しては過渡期的な2学年教育を、改変教材での講義に加え特に実習での指導と評価において中心的に活動した。また、院生や既卒院生と対話を持った。		
研究	0.40	講座の大学院生、講座内外の教員と共に研究を進め、他施設との交流をも通じて研究内容の向上を図り、論文等での研究成果の発表に務める。			0.40	参加メンバーとして応募し採択されたJST資金でのノックアウトマウスの解析を担当したほか、他の新規ノックアウトマウスについても沖縄科学技術大学院大学客員研究員として共同研究し、引き続き研究路線の転換を支えた。		
社会貢献	0.10	民間企業等との交流を通じて社会や地域に還元できるような研究に務める。			0.10	上記JST研究では民間企業への技術移転を目指した。		
管理運営	0.10	講座内環境の整備維持を適切に管理し、節電・節水等の注意喚起に務める。			0.10	研究室の環境・機器の整備、維持、環境負荷軽減に務めた。		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>			1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		山本 秀幸	所 属	大学院医学研究科・生化学講座	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.45	医学部医学科1年次学生の医学概論Aおよび生化学、2年次学生の医学英語および生化学の講義および実習を担当する。両学年の生化学の講義では、新しい教科書を使って医学科学生に最適な内容を講義するように努める。大学院医学研究科の生命工学概論と基礎医学概論(修士課程)および分子細胞生物学概論とプロジェクト関連科目(博士課程)の分担講義を担当する。医学科および医学研究科厚生委員会副委員長、医学科4年次の指導教員として学生支援を行う。		0.45	前期に医学部医学科1年次学生の医学概論A、2年次学生の医学英語および生化学の講義・実習を担当した。後期には1年次学生の生化学の講義・実習を担当した。今年度は自らが翻訳に加わった生化学の教科書に沿って資料やスライドを全て新しく作成し、学生に最適な内容を講義するように努めた。大学院医学研究科の生命工学概論と基礎医学概論(修士課程)および分子細胞生物学概論とプロジェクト関連科目(博士課程)の分担講義を担当した。医学科4年次の指導教員として学生指導を行った。今年度は大学院学生一人が博士の学位を取得した。	
研究	0.35	生化学会、神経化学会、薬理学会に出席し研究成果を発表する。会場での討論により研究者間での情報交換と研究内容の改善を目指す。大学院修士課程の学生1名、博士課程の学生2名および教室員の研究教育を指導し、生化学系、生理学系、薬理学系の雑誌でインパクトファクターの高い雑誌への論文の採択を目指す。科学研究費補助金に加え、様々な外部資金獲得を目指す。		0.35	5月の生化学会九州支部会、9月の神経化学会、11月の薬理学会西南部会、12月の分子生物学会・生化学会大会合同大会に出席し、研究成果を発表した。生化学系、薬理学系の英文雑誌に計3編の論文が採択された。	
社会 貢献	0.05	薬理学に関連する企業との共同研究を計画し、研究成果の社会への還元を目指す。		0.05	薬理学に関連する企業との共同研究を行い、研究成果を社会に還元した。1月と2月にCBTモニター委員として大学間共用試験の実施に貢献した。	
管理 運営	0.15	遺伝子組換え生物等使用実験安全委員会の副委員長として遺伝子組換え生物等使用実験の指導と管理を行う。医学部RI実験施設長としてRI使用実験の指導と管理を行う。琉大ハラスメント防止対策委員会委員、医学科教務委員会委員長および、医学科および医学研究科厚生委員会副委員長、学位論文資格審査会委員、附属実験実習機器センター運営委員会委員としてそれぞれの審議を行う。		0.15	遺伝子組換え生物等使用実験安全委員会の副委員長として遺伝子組換え生物使用実験の審査と指導を行った。医学部RI実験施設長として施設の管理を行った。医学科教務委員会委員長として学生の教育に携わった。ハラスメント防止対策委員会委員、医学科及び医学研究科厚生委員会副委員長、学位論文資格審査会委員、附属実験実習機器センター運営委員会委員としてそれぞれの審議を行った。	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		仲嶺 三代美	所 属		医学研究科・生化学講座	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.40	前期は医学科2年次そして後期には1年次の生化学講義および実習を担当する。講義では生体内でのタンパク質の合成および分解、脂質代謝を担当する。理解が深まるような内容にするための資料を準備する。生化学実習では生体に含まれるタンパク質の分離精製法などを担当する。さらに、医学科4年次の基礎配属を担当する。大学院生への実験の指導を行う。			0.45	医学科1年および2年次の生化学実習ではタンパク質の分離精製とその特徴について、学生の理解を深めるための実習となるように工夫した。講義では分かりやすいスライドおよびプリントの作製を心がけた。4年次の基礎研究および6年次の臨床研究の配属では、最先端の研究について紹介するなど、研究の現場を体験できるように努めた。大学院生の講義を担当した。また、社会人大学院生の実験の指導も行った。6月から3年時の指導教官となった。		
研究	0.55	神経由来の培養細胞を用いて、GnRHの刺激によるErbBファミリーの制御を明らかにしたい。研究成果は、日本分子生物学会にて発表することにより、研究者間での情報交換を活発に行う。また、これまでの研究が論文として採択されることを目指し、科学研究補助金の獲得につなげたい。			0.51	Gタンパク質共役受容体刺激による細胞内情報伝達機構を解析し、研究成果を日本分子生物学会にて発表した。また、これまでの成果を筆頭著者としてJ Biol Chemに発表した。さらに、共著者として2本論文が(Eur.J.PharmacolとJ Cell Biochem)採択された。		
社会 貢献	0.01	沖縄県で開催する学会、研究会へ積極的に参加することで県内のコンベンション事業の活性化に貢献する。			0.01	学内外で開催された学術セミナーおよび試薬セミナーに積極的に参加した。生化学会九州支部例会では座長として関わった。		
管理 運営	0.04	研究室内で使用する劇物および毒物指定の試薬、免税エタノールの使用に関して保管および使用記録等の管理に携わる。センター試験などの試験監督業務に従事する。			0.03	毒劇物の試薬管理システムの責任者として試薬および使用者を登録し、管理を行った。免税エタノールの使用について保管と使用記録を管理した。大学入試センター試験では監督業務に携わった。		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>			1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		吉見 直己	所 属	医学研究科	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.25	1. 病理学講義と病理総合学習を担当するが、前者は今年度もカリキュラム改編のため、M2とM3の二学年を担当する 2. 臨床実習の継続と病理医育成を視野にシステムの充実を諮る。 3. 大学院院生に関しては学会発表と論文指導を諮る。 4. 引き続き、病理解剖検討会を開催と研修医CPCを実施し、医療の質を確保する。 5. 三次学生学生の指導教員として対応する。		0.25	すべてクリア。2では来年度病理医志望者3名を確保した。また、3では学会として、米国癌学会での発表採択がされた。	
研究	0.25	1. 厚労省の指定型研究の獲得とその班長としての任務を遂行する。 2. ラオスでの細胞診指導と支援を継続する。 3. 国立高専との共同研究を目指す。		0.25	特に厚労省指定型研究費(吉見班)を二年目での中間報告を実施した。3に関しては、琉大後援財団から支援していただき、ラオス人を沖縄に招聘するとともに、日本癌学会での発表とポルトガルでの国際学会での発表を行った。	
社会貢献	0.10	1. 県立宮古病院のは剖検症例の実施により、研修施設認定に貢献する 2. 本島での種々の病院標本の病理診断に貢献する。 3. 県下の医療系学校で必修である病理学講義を通じて社会貢献する。		0.10	全てクリア。1では剖検開始により、献血宮古病院では来年度から初期研修医募集を管理型として認められ、2名を公募できるようになり、実際に初期研修医がマッチングされた。2としては関連病院として新たにハートライフ病院との受託契約を行った。予定にはなかったが、10月から実施された事故調査委員会の県医師会の委員として、参画して大学での病理解剖での支援を行った。	
管理運営	0.15	1. 病院長補佐としての職務を担当するとともに、上記の社会貢献に関わるが、沖縄県医療の基盤としての病理診断連携のための基盤作りを目指す。		0.15	病院長補佐と大学倫理委員会委員長の業務を行った。	
診療	0.25	1. 病理部での病理診断を遂行する。 2. 大学中期目標にある遠隔病理診断として県立宮古病院及び八重山病院の遠隔術中病理診断を継続する。		0.25	クリア。2での大学中期目標は当講座のみにて機能したと自負している。両県立病院で約40例を実施した。	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		加留部 謙之輔	所 属		医学部 医学科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.30	学生に対する講義および実習において、まとまりのある資料作りと分かりやすい説明を心がける。			0.30	2年生、3年生の講義および実習に関わり、基礎研究で学生に研究指導も行った。		
研究	0.30	「びまん性大細胞型B細胞リンパ腫におけるJAK-STAT経路活性化の意義」のテーマで日本学術振興会科学研究費基盤研究(C)に採択された。このテーマの研究を開始する。			0.40	ラボの立ち上げ、研究環境の整備を行った。		
社会 貢献	0.10	研究成果について、広く一般に情報発信する。			0.05	地域の研究会に参加し、講演を行い、議論に参加した。		
管理 運営	0.30	倫理委員会、医学部移転に関する委員会、人事に関する委員会など、計7つの委員会を担当している。			0.05	委員会委員として多くの運営業務に携わった。		
診療	0.00				0.20	病理診断医として大学病院の診療に携わった。		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>			1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			



(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)									
名 前		松崎 晶子		所 属	医学部 医学科		職 名	助教	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生支援	0.30	ポリクリ／病理学の授業を通じて、学生の病理学ひいてはヒトの疾病の理解を助ける。ポリクリの病理では外科病理の実際業務を理解させ、教室の授業では実感できなかった病理診断を実際に学生にもみさせる。病理解剖においては、死因の追求のみならず、研修医への教育も個々の症例に準じて行う。また、2年時の医学英語の授業を担当し、医学論文の読み方などを手ほどきする。			0.30	ポリクリ／病理学の授業を分担担当した。ポリクリの病理では外科病理の実際業務を理解させ、教室の授業では実感できなかった病理診断を実際に学生にもみさせた。病理解剖においては、死因の追求のみならず、研修医への教育を行った。また、2年時の医学英語の授業を担当した。			
研究	0.40	日本病理学会での外科病理症例の発表。外科病理症例で、問題症例や希症例については消化器外科／内科や皮膚科との合同カンファレンスを行い検討する。			0.40	第104回の日本病理学会において発表を行った。また、後期研修医とともに症例報告を学会雑誌に投稿中である。			
社会貢献	0.10	浦添総合病院、中頭病院での病理診断の援助。			0.10	浦添総合病院、中頭病院での病理診断の援助を行った。			
管理運営	0.10	委員会に属し、CBT問題などの作成やブラッシュアップなどにも参加する。			0.10	委員会に属し、CBT問題などの作成やブラッシュアップなどにも参加した。			
診療	0.10	病院病理部での診断。琉大キャンサーボードや他科とのカンファレンスや学外での勉強会へも参加、診断困難症例に対し、他科と連携して診断を行っていく。			0.10	病院病理部での診断。琉大キャンサーボードや他科とのカンファレンスや学外での勉強会へも参加し、診断困難症例に対し、他科と連携して診断を行った。			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>			1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。				

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		宮崎哲次	所 属		医学研究科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.30	医学科4年次および3年次学生向けの「法医学・医事法制」では、全授業の半分を担当する。医学科6年次の臨床実習において、法医学を希望する学生計12名を受け入れる。法務研究科において、視野の広い法律家作りに貢献することを目的とする新科目「刑事政策(仮称)」に参画し、授業を行う。法医学講座に在籍している博士課程大学院3年次学生をTA及びRAとして採用する。			0.30	前期に医学科4年次向け、後期には3年次向けに「法医学・医事法制」の授業を行い、いずれも授業全体の半分を担当した。医学科6年次の選択実習では法医学を希望する学生を6名ずつ2回の計12名を受け入れて法医解剖や死体検案を中心とする実習を行った。法務研究科の授業に参画した。法医学在籍の博士課程大学院生をTA及びRAとして採用し学習意欲・研究意欲の向上を図った。		
研究	0.30	法医学の研究に資するため、期間内に60体以上の解剖を自ら執刀する。学術誌「法医学の実際と研究」の編集部から依頼されている総説を作成する。			0.30	平成28年2月17日までに103体の法医解剖を自ら実施して、法医学の研究に役立てた。学術誌「法医学の実際と研究」から依頼されていた総説を投稿した。その論文の掲載誌が出版された。		
社会 貢献	0.10	沖縄県警察の検視レベルの向上を目的とする「法医実務教養」では16時間を担当し、授業用スライド、配付プリントに図や写真を多用して医学に関する基礎知識の少ない受講警察官の理解に供する。			0.10	8月から9月にかけて上原キャンパスにおいて「法医実務教養」を開催し、16時間の授業を担当した。配付プリントにはカラー写真・図を用いて、受講者の理解に供した。		
管理 運営	0.30	第2期中期目標期間の最終年度にあたり、副医学部長(評価・点検担当)および部局の自己点検評価・改善委員会委員長として、部局ごとの現況調査表等作成を統括するとともに、全学組織である第2期評価調書書類作成支援委員会などの委員の責務を果たす。			0.30	法人評価の現況調査表及び研究業績説明書の作成に統括する立場で参画している。第2期評価調書書類作成支援委員会委員として各部局から提出された書類の点検を行っている。		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>			1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		福家 千昭	所 属		大学院医学研究科	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.15	<p>学生に講義の内容を理解しやすくするために、ビデオや動画などを盛り込んだ講義資料を作成・準備する。 直近の事例を取り入れ、最新の中毒情報を提供する。 大学院生に対して実験の原理、本質を理解させるようディスカッションを多く取り入れ、本や文献の紹介、抄読会を積極的に行う。 指導教官として学生との連絡を密にし、修学、生活面で支援する。</p>			0.15	<p>学生に対しては危険ドラッグの事例など最新の事例を盛り込み講義内容の変更を行った。 修士課程学生に対しては例年通りの講義を行うとともに、法医学専攻の大学院生に対して研究指導、論文紹介、抄読会を行った。 班会を2回開催し、学生の生活状況を把握し、修学に対する意識の持ち方や方法について話し合った。また、学生の修学に対する悩みの相談に対応した。</p>		
研究	0.30	<p>農薬や医薬品などの急性中毒に関する研究を継続的に行い、その研究結果を法医学会、中毒学会や法中毒学会などで発表する。特に、本年度は科研費基盤研究(C)「メソミル代謝物の追及-臭い成分を中心として-」の研究を重点的に行う。 発表した内容について論文にまとめ、学術雑誌に投稿する。 日本法医学会にて評議員としての活動と法医学中毒ワーキンググループの一員としての役割を果たす。 法医学中毒研究会の役員・事務局として研究会を運営し、総会や勉強会・セミナーの開催を行なう。 日本法中毒学会の評議員として学会運営に協力する。 日本中毒学会にて評議員として学会運営に協力する。</p>			0.20	<p>研究成果を日本法医学会学術全国集会、日本法中毒学会にて発表した。 法医学中毒学ワーキンググループの委員として委員会に参加し、法医学分野における薬毒物分析に関する意見交換を行った。 法医学中毒研究会の役員・事務局として研究会を運営し、総会や勉強会・セミナーの開催を行った。 日本法医学会、日本法中毒学会の評議員会に参加し学会運営に協力した。</p>		
社会貢献	0.50	<p>法医解剖例や医療機関から依頼された薬毒物検査を行う。</p>			0.60	<p>平成27年に解剖した症例の内52例について各薬毒物の定性・定量分析を行った。</p>		
管理運営	0.05	<p>保有個人情報管理委員会委員委員 琉球大学ハラスメント相談窓口担当者 琉球大学環境・施設マネジメント委員会化学物質管理専門部会委員</p>			0.05	<p>保有個人情報管理委員会委員委員として委員会に参加した。 琉球大学ハラスメント相談窓口担当者として講習会に参加した。 琉球大学環境・施設マネジメント委員会化学物質管理専門部会委員として試薬登録システムの推進に協力した。</p>		
計	1.00	<p>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</p>			1.00	<p>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</p>		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		二宮賢司	所 属		医学研究科 法医学講座	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生支援	0.20	医学科3年生ならびに4年生への講義を担当し、前年度における反省点を踏まえ内容の改善に取り組む。6年生の選択実習生に対し、より具体的な法医学実務の紹介を行う。大学院生に対し解剖実務の指導を行う。		0.20	講義内容の見直しを行い、所属教室の医学部3年生ならびに4年生に対する講義の計10コマを担当した。4年生ならびに6年生の選択実習生に対し法医学実務の紹介を行った。大学院生ならびに研究生に対し法医学実務に関する指導を行った。			
研究	0.60	学術論文を作成し、国際誌に投稿する。法医学関連の学会への参加、発表を行う。法医学の研究に資するため、期間内に100体以上の法医学解剖を執刀する。科学研究費助成事業 若手研究(B)の交付に内定したため、これに関する実験の準備を進める。		0.60	法医学に関連する国内学会に参加して発表を行った。法医学の研究に資するため、平成28年2月25日までに201体の法医学解剖を執刀した。現在法医学解剖例に関する英文の学術論文を投稿中である。交付を受けた科学研究費助成事業 若手研究(B)の実験計画を行った。			
社会 貢献	0.20	沖縄県警察の検視レベル向上を目的とする「法医学実務教養」を担当する。沖縄県警察の行う検視業務に協力する。小児の虐待被疑事例に関し、児童相談所の依頼に応じて生体鑑定を行う。		0.20	「法医学実務教養」において8時間の講義を行った。平成28年2月25日までに検視業務への協力を3件行った。児童相談所からの依頼で、虐待児の生体鑑定を2件行った。			
管理 運営	0.00			0.00				
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。				

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		深沢 真希	所 属		医学研究科 法医学講座	職 名		特命助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.20	医学科3年生および4年生の講義を担当し、法医学の基礎的知識を得られるような講義資料を準備し、講義および質疑応答を行う。医学科6年生の選択実習では、実務的な法医学的指導を行う。大学院生に対して、法医解剖実務を習得するための指導を行う。			0.20	医学科3年生および4年生の講義を4コマ分ずつ担当し、基礎的知識を得られるような講義資料を準備したうえで、講義および質疑応答を行った。医学科4年生および6年生の選択実習では、実務的な法医学指導を行った。大学院生に対しては、法医解剖実務ならびに診断技術を習得するための指導を行った。		
研究	0.60	法医学に関連する学会に参加し、学術発表を行う。学術論文を作成し、学会誌に投稿する。法医学の研究に資するため、期間内に自ら100体以上の法医解剖を執刀する。			0.60	法医学に関連する学会に参加して、ポスター発表および口演発表を行った。法医解剖例に関する学術論文を作成し、学会誌に掲載された。法医学の研究に資するため、平成28年2月22日までに208体の法医解剖を自ら執刀した。		
社会 貢献	0.20	児童相談所からの依頼に応じ、虐待されたと疑われる児の生体鑑定を行う。沖縄県警察の行う検視業務に協力し、死体検案を行う。沖縄県警察の検視レベル向上を目的とする「法医実務教養」において講義を行う。			0.20	児童相談所からの依頼に応じ、児童相談所職員および医療従事者を対象として虐待に関する講演を行った。また、同依頼に応じて、虐待児の生体鑑定を1件行い、意見書を作成した。沖縄県警察の行う検視業務に協力し、平成28年2月22日までに5体の死体検案を行った。沖縄県警察の検視レベル向上を目的とする「法医実務教養」において、合計8時間の講義を行った。		
管理 運営	0.00				0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>			1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		益崎 裕章	所 属	医学研究科 内分泌代謝・血液・膠原病内科学講座	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果	
教育	0.25	学生・研修医向けの講義・総回診・外来見学実習を中心とする臨床実習を通して教育・指導を徹底する。		0.25	当初の目標を達成できた。	
研究	0.25	教室員の論文指導を通して研究活動を推進し、学会発表、英文論文発表を中心とする成果発信を積極的に進める。国際特許をはじめ、知的財産権の獲得に努める。農林水産省や文部科学省の大型競争的研究資金の獲得を目指す。		0.25	当初の目標を達成できた。	
社会貢献	0.05	県医師会・県栄養士会・県薬剤師会における講演や指導、全国レベルの学会、研究会における一般市民向け講演会・ウェブ情報発信・新聞やメディアを通じた医療啓発活動に積極的に関与する。		0.05	当初の目標を達成できた。	
管理運営	0.15	副医学部長、学務委員会委員、栄養管理部長をはじめ、院内・学内の各種委員会における職責を全うする。		0.15	当初の目標を達成できた。	
進路指導	0.05	学生、研修医、教室員に積極的に関わり、進路指導、キャリア・プランニングを支援する。		0.05	当初の目標を達成できた。	
臨床	0.25	総回診や外来実習を中心として、教室全体の臨床レベルの向上と教育・指導を実践すると同時に琉球大学医学部附属病院における高度先進医療の向上・発展に貢献する。内分泌代謝、糖尿病、血液、膠原病リウマチ疾患のエキスパート(専門医)を育成する。		0.25	当初の目標を達成できた。	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		友寄 毅昭	所 属	内分泌代謝・血液・膠原病内科学講座(第二内科)	職 名	准教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.10	(1)M3, M4学生への血液学系統講義, (2)ポリクリ実習生への教育, レクチャー, (3)医学部弓道部顧問, (4)非血液専門医・研修医を対象とした勉強会(沖縄若手血液勉強会)の企画(年2~3回), (5)学生を対象とした血液疾患症例勉強会の開催(年6回), (6)M3の指導教員, (7)大学院生研究支援, (8)初期研修A疾患レポート評価者		0.15	(1)M3, M4学生への血液学系統講義:各2コマ実施, (2)ポリクリ実習生への教育, レクチャー:毎週木曜日実施。(3)医学部弓道部顧問, (4)非血液専門医・研修医を対象とした勉強会(沖縄若手血液勉強会)の企画(2015年度は2回実施), (5)学生を対象とした血液疾患症例勉強会の開催(1回実施), (6)M3の指導教員(懇親会, 学生(病理学保留)の生活指導), (7)大学院生研究支援, (8)初期研修A疾患レポート評価者(3人)	
研究	0.20	(1)臨床研究リサーチ:HTLV-1キャリアおよび成人T細胞白血病リンパ腫(ATL)の臨床研究(英文論文1本), (2)症例報告(英文論文1件), (3)多施設共同研究(県内, JCOG, JALSG等), (4)血液悪性疾患と真菌感染症(D-index)(学会報告1件)		0.15	(1)臨床研究リサーチ:HTLV-1キャリアおよび成人T細胞白血病リンパ腫(ATL)の臨床研究(英文論文1本:投稿ならず), (2)症例報告(Tomoyose T, et al. Intern Med 54:2919, 2015), (3)多施設共同研究(県内, JCOG, JALSG等), (4)血液悪性疾患と真菌感染症(D-index)(日本内科学会総会)	
社会 貢献	0.20	(1)骨髄バンクコーディネーター活動(年10件), (2)国保審査員(3)HTLV-1母子感染対策委員, (4)先天性血液凝固因子障害等治療研究事業に係る認定審査(年2回), (5)PNH Frontier編集アドバイザー, (6)沖縄臨床血液研究会 世話人・事務局, (7)血液疾患に関する市民フォーラムの開催(年1回),		0.20	(1)骨髄バンクコーディネーター活動(約20件), (2)国保審査員(3)HTLV-1母子感染対策委員, (4)先天性血液凝固因子障害等治療研究事業に係る認定審査(年2回), (5)PNH Frontier編集アドバイザー, (6)沖縄臨床血液研究会 世話人・事務局	
管理 運営	0.25	(1)第二内科医局長(3期目), (2)病院機能評価第2領域ワーキング, (3)保険診療委員会, DPC員会, (4)レジメン登録審査管理委員, レジメン登録審査管理迅速審査委員, (5)院内がん登録室連絡会議, (6)骨髄移植センター運営協議, (7)血液内科グループリーダー		0.25	(1)第二内科医局長(3期目), (2)病院機能評価第2領域ワーキング, (3)保険診療委員会, DPC員会, (4)レジメン登録審査管理委員, レジメン登録審査管理迅速審査委員, (5)院内がん登録室連絡会議, (6)骨髄移植センター運営協議, (7)血液内科グループリーダー	
診療	0.25	(1)血液内科に関する診療;外来診療, 入院診療, セカンドオピニオン, (2)骨髄バンクドナーコーディネート(年10回), (3)骨髄バンクドナーの骨髄採取(年10~12回)		0.25	(1)血液内科に関する診療;外来診療(HTLV-1/ATL外来, 移植後フォローアップ外来), 入院診療, セカンドオピニオン, (2)骨髄バンクドナーコーディネート(年20回), (3)骨髄バンクドナーの骨髄採取(年15回)	
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前	小塚智沙代		所 属	医学研究科 内分泌代謝・血液・膠原病内科学		職 名	特命講師
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.10	大学院生への実験・研究指導を行い、研究をサポートする。		0.10	大学院生への実験・研究指導を行った。		
研究	0.90	基礎研究を推進し、成果を学会及び英文論文にて発表する。 競争的資金の獲得を目指す。		0.90	日本内分泌学会、日本糖尿病学会、日本肥満学会等で成果発表、シンポジウム講演を行った。日本肥満学会においては若手研究奨励賞を受賞した。 科学研究補助金 若手(B)、民間助成2件を獲得し、研究を推進した。		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			



(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		砂川 澄人	所 属	琉球大学医学部内分泌代謝・血液・膠原病内科 学講座(第二内科)	職 名	助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.15	学生へ基礎講義及び病棟実習を通じた指導教育を行い知識定着を図る。また病棟実習の学生世話役として実習が円滑に進むよう努める。		0.15	内分泌学の系統講義の一部を受け持った。病棟実習(ポリクリ・クリクラ)の全グループの学生に対して講義、総回診指導、外来指導を実施できた。	
研究	0.15	糖尿病及び高度肥満症患者に対する臨床試験である難消化米プロジェクトなど第二内科主導の臨床研究に協力する。		0.15	難消化米プロジェクトに際しての外来枠での症例追加に対して関わった。また新たな第二内科の臨床研究としてメタボローム解析やキサンチンオキシダーゼ活性測定の立ち上げ及び運営を担当した。	
社会貢献	0.10	啓蒙活動として全国糖尿病週間に関連する講演会や無料血糖測定会及び健康相談のイベント管理を行う。小児糖尿病の学習行事であるサマーキャンプに参加する。		0.15	小児糖尿病のサマーキャンプに参加し啓蒙につとめた。また平成27年11月7日に一般市民への啓蒙イベントとして日本糖尿病週間の無料血糖測定会及び医師・栄養士からの講演についてイベントのセッティング及び運営を行った。	
管理運営	0.25	第二内科の副医局長として医局の運営に関わる。研究チーム統括リーダーとして研究室の管理運営に関わる。		0.20	第二内科の副医局長として医局の運営に携わり、病棟で発生する医療リスクの軽減のため医師や看護師と協力して対応した。毒物・劇物取扱責任者及び化学物質管理責任者として第二内科実験室の安全管理維持に努めた。	
診療	0.35	第二内科病棟の内分泌代謝疾患患者への診療に携わる。また病院内の内分泌代謝内科外来にて専門外来診療に携わる。		0.35	第二内科病棟、及び内科外来にて内分泌・代謝・膠原病疾患の患者に対し診療に携わった。	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		植田 玲	所 属		琉球大学医学研究科内分泌代謝・血液・膠原病内科	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.25	学生への講義をわかりやすく、臨床に即した、すぐにでも活用可能な内容にする			0.25	学生アンケートからは一定の評価を頂けたかと思う		
研究	0.35	臨床研究実施中、研究のまとめと論文化をめざす。学会への参加と発表。			0.35	臨床研究は途中経過を11月の発表で行った。論文化はこれから。		
社会貢献	0.05	沖縄県糖尿病療養指導士会活動のアシストと糖尿病教室とそれにかかわるスタッフの勉強会を行っていく。			0.05	糖尿病教育を院外でも行った(1型糖尿病患者会の開催)		
管理運営	0.05	院内・学内の各種委員会における職責を十分に全うする。			0.05	各種委員会への出席を行った。		
診療	0.30	入院・外来、糖尿病教室において臨床レベルの自身の向上と患者教育へのスタッフ全体のレベル向上を試みる。			0.30	院内の患者教育を通してスタッフとの交流を持ってレベルアップを図った。		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>			1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前	大屋 祐輔		所 属	大学院医学研究科		職 名	教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生支援	0.15	<ul style="list-style-type: none"> <li>臨床実習システム改革の実行と充実</li> <li>ハワイ大学との共同での指導医育成プログラムの継続実施</li> <li>シミュレーション教育の従来カリキュラムへの導入</li> <li>学生のシミュレーションを用いた学びの支援</li> </ul>		0.15	<ul style="list-style-type: none"> <li>臨床実習システム改革のGPの4年目の目標を達成できた。</li> <li>ハワイ大学と指導医育成プログラムを実施し、来年度以降の予算を確保した</li> <li>カリキュラムへの積極的導入を呼びかけ、徐々に各科での導入が進んでいる</li> <li>学生のシミュレーション学習の支援を行った。シムリンピックで上位入賞した</li> </ul>			
研究	0.25	<ul style="list-style-type: none"> <li>食事と生活習慣病に関する疫学研究の実施</li> <li>認知症に関する疫学研究の実施</li> <li>脳卒中・心筋梗塞の県内での登録事業への協力</li> <li>沖縄県民の健康増進に関する観察および介入研究の継続(沖縄県からの委託事業)</li> <li>ゲノム研究の予後調査の継続</li> <li>離島高齢者の血圧管理と見守りのためのIT技術の応用研究</li> </ul>		0.25	<ul style="list-style-type: none"> <li>食事と生活習慣病に関する疫学研究を継続してる</li> <li>認知症に関する疫学調査の論文化を行った</li> <li>脳卒中・心筋梗塞の登録事業のシステムを医師会と共に作成した</li> <li>ゲノム研究の予後調査を継続している</li> <li>高齢者の血圧と見守りに関する研究を実施した。このテーマで文部科学省の科学研究費を取得している。</li> </ul>			
社会 貢献	0.10	<ul style="list-style-type: none"> <li>高血圧、脳卒中、認知症、地域医療に関する市民公開講座の開催</li> <li>沖縄県の健康増進政策への協力</li> </ul>		0.10	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民公開講座での発表を行った。市民祭りに、健康関連ブースを出店して多くの市民の啓発を行った</li> <li>健康増進に関する沖縄県の行政および医師会の活動に参加して協力・貢献した。</li> </ul>			
管理 運営	0.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>病院副院長(診療、臨床研究、病院移転担当)</li> <li>おきなわクリニカルシミュレーションセンター長</li> <li>琉球大学保健管理センター長</li> <li>血液浄化療法部長</li> </ul>		0.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>副病院長として、病院の運営に貢献した</li> <li>シミュレーションセンターの運営体制の整備を行い、予算獲得を行った</li> <li>保健管理センターの運営を行うとともに、全国集会の誘致を行った(H29年度開催)</li> <li>血液浄化に関する運営を行うと共に、人材確保に貢献した(寄附プロジェクトにより助教をH28年年度から3年間を獲得)</li> </ul>			
診療	0.20	<ul style="list-style-type: none"> <li>心臓リハビリテーションの件数増加</li> <li>肺高血圧診療体制の整備と推進</li> <li>腹膜透析を促進する</li> <li>腎臓リハビリテーション実施の準備</li> <li>循環器・脳卒中救急患者の対応の充実</li> </ul>		0.20	<ul style="list-style-type: none"> <li>心臓リハビリの件数の増加、質の向上、外科との連携が進んだ</li> <li>肺高血圧診療の沖縄県のセンター化が進んでいる</li> <li>腹膜透析患者の増加のために医療者への啓発を通じて人数の増加した</li> <li>腎臓リハビリテーションの研究を実施して、将来の保険診療化への対応を検討した</li> <li>救急部との連携強化を行い、循環器・脳卒中の救急患者受け入れ体制を整備した</li> </ul>			
計	1.00			1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。				

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		岩淵成志	所 属		循環器・腎臓・神経内科学講座	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育	0.20	①M5の臨床実習、循環器分野の系統講義の充実 ②循環器グループスタッフへの冠動脈カテーテル治療に関する系統講義 ③循環器分野でのあらたな臨床研究への知識の共有			0.20	①②③とも前年度のスケジュールを継続し、成果を得ている。		
研究	0.20	①沖縄県の慢性冠動脈疾患患者におけるクロピドグレルからプラスグレルへの変更後の血小板凝集能に関する検討(Ryukyus Swith Study)のIRB認定され、多枝説共同研究を完成させる。②模擬血管を用いた冠動脈ステントの変形の実験(拡張圧によるステント延長、分枝部挿入時のKissing Balloon dilatation時の変形)結果の学会発表と論文作成。			0.20	①の臨床研究は倫理委員会より承認され、H28年5月より臨床研究開始予定。 ②模擬血管を用いた冠動脈ステントの変形の実験(拡張圧によるステント延長)の結果をH28年4月開催のアメリカ心臓病学会で発表予定。		
社会貢献	0.20	沖縄県で唯一の経カテーテル的大動脈弁置換術の認定施設として重症大動脈弁狭窄症患者が県内でカテーテル治療を施行する。			0.20	沖縄県での初となる経カテーテル的大動脈弁置換術の施設認定は、2015年3月に取得可能で、2015年4月から治療開始し、現在まで8例の治療実施し全例成功した。		
管理運営	0.10	①循環器グループの病床運営、紹介率向上、逆紹介率向上 ②冠動脈カテーテル治療数の増加			0.10	①病床運営は良好であるが、ベット数の上限があり前年レベルを保持。 ②TAVIやRotablater目的で入院治療紹介数が増加した。		
診療	0.30	①冠動脈カテーテル治療の充実と症例数増加 ②県内唯一の慢性肺動脈塞栓症に対するカテーテル治療施設として症例数の増加 ③県内唯一のTAVI治療施設として症例数の増加と安全性確立			0.30	冠動脈カテーテル治療数、肺動脈カテーテル治療数は昨年実績数よりやや増加、TAVIは治療開始し現在8症例治療し全例成功。		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		山里 正演	所 属		循環器・腎臓・神経内科	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.25	病棟実習において第3内科で学ぶべき基本症候をきめ、実習の際の目標をわかりやすくし、実習の充実をはかる。また、実習の新しい評価法としてのAdvanced OSCEとのつながりを意識し指導する。病棟実習生と初期研修医のカルテ記載と発表能力が向上するよう支援する。			0.25	今回の臨床実習終了時OSCEは第3内科が担当し、シナリオの作成、周知、運営を行った。学生の意見、アンケートを参考に、また、Advanced OSCEの必須かに対応できるよう2016年1月スタートの医学生の病棟実習の履修簿を作成した。M3とM4に腎不全に関する講義を行った。		
研究	0.25	間葉系幹細胞とneurogenic hypertensionの関係につき検討を進め、科学研究費が継続して獲得できるよう論文作成を進める。間葉系幹細胞の肺高血圧治療に対する可能性をモデル動物を用い検討結果をまとめる。			0.25	間葉系幹細胞と高血圧に関する論文を作成投稿したが、受理されておらず修正版を作成中である。肺高血圧に関する論文も修正版を作成中である。		
社会貢献	0.10	入院患者への患者学習会を担当し、高血圧や腎疾患の知識の普及に努め生活習慣の修正や治療法への理解を促し、臓器障害の発症・進展予防を目指す。			0.10	月に1度、病棟入院中の患者・家族を対象に高血圧学習会を継続して行った。特に塩分摂取を減らす方法・重要性について指導している。		
管理運営	0.10	外来診療がスムーズかつ安全に行われるよう調整する。医局構成員の将来像を確認し、それぞれに対してのキャリアパスについて助言を行う。			0.10	医局構成員の将来像を確認し、それぞれに対してのキャリアパスについて助言を行った。		
診療	0.30	臓器合併症の発症・進展予防を目指し高血圧・腎疾患を中心に外来診療を行う。朝夕の病棟回診をを通し、入院主治医への助言を行う。			0.30	高血圧・腎疾患を中心に外来診療を行なった。週約30名の外来患者の診療を行なった。朝7時半と14時の病棟回診に参加し、必要な助言を行った。		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>			1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		大城 克彦	所 属		琉球大学大学院医学研究科. 循環器・腎臓・神経内科学	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.20	初期研修医および医員の循環器診療に関するスキルアップを支援。 病棟実習生の指導			0.20	毎日朝夕の回診で初期研修医および医員の診療の相談を受け、適宜指導を行った。その際に病棟実習生に対しても指導を行った。 後期研修医や医員が行う心臓超音波検査や心臓カテーテル検査など専門手技に立ち会い適宜指導した。		
研究	0.20	内科学会での報告発表 循環器学会での報告発表 心血管インターベンション学会での発表			0.20	・Real CAD研究(ピタバスタチンによる積極的脂質低下療法または通常脂質低下療法のランダム化比較試験)の参加協力。 ・第24回日本心血管インターベンション治療学会総会で「造影剤を用いたFFR測定法」について報告した。		
社会貢献	0.10	生活習慣病の予防や治療法に関する診療を行い、動脈硬化性疾患(心筋梗塞、脳梗塞など)の発症予防を目指す。 動脈硬化性疾患の治療を行い、罹患患者の社会復帰を支援する。			0.10	1回/月程度の頻度で沖縄県総合保健協会において生活習慣病患者の生活習慣改善を目標とした指導を行った。		
管理運営	0.20	心臓カテーテル検査および治療のスケジュール管理および件数増加を目指す。			0.20	心臓カテーテル検査のスケジュール管理を行った。		
診療	0.30	・循環器救急診療の充実 ・カテーテル治療の高度機能病院としての認定を維持するため年間200件以上のカテーテル検査件数を目指す。			0.30	・救急運営員会に参加し、救急診療の拡充を図った。 ・H27年のカテーテル件数を205件達成し、施設認定を維持した。		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		渡嘉敷 崇(とかしき たかし)	所 属		医学研究科循環器・腎臓・神経内科学講座	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.30	学生:臨床講義内容の見直し(症例検討, 画像の活用), 臨床実習における指導(症例検討), 初期研修病院選択のアドバイス。 研修医:専門医教育プログラムの作成・実施。初期研修医の指導。 医員:後期研修医の指導・専門医資格所得に向けた指導の充実。 キャリアアップのための指導・アドバイス			0.25	・・・臨床講義の内容に症例提示を組み込むようにし, また臨床実習や研修医指導においても実際の症例の診察を通して症候を検討するようにした。複数の学会総会でも演題発表を行った。大学院生の研究および論文作成指導を行い投稿受理された。1名は学位審査も行い学位を授与された。		
研究	0.25	神経疾患における病態解明(認知症)を行う 平成23-25年度に学術研究助成基金助成金を受けた。平成26年度からも新規に学術研究助成基金助成金を獲得できた。これまでの研究の継続, 拡大し学会や論文で発表する			0.25	・・・認知症研究で厚生労働省科研費を平成23年度から2期連続(基盤(C)平成23年度-25年度および平成26-27年度)獲得し, 宜野湾市地域高齢者を対象に生活状況, 健康度, 栄養と認知機能に関する研究を行った。解析結果もまとめており, 国際学会を含めた複数の学会で発表を行い, 論文を作成中である。		
社会 貢献	0.15	神経疾患領域の家族会や市民公開講座への参加, 研究会活動, 地域医師会と協力した地域診療連携システムの構築			0.20	・・・南部保健医療圏における脳卒中地域連携システムの構築に参画し, 継続中である。地区医師会の勉強会・講演会などで認知症診療に関する講師を担当し, かかりつけ医の認知症診療能力向上に寄与した。		
管理 運営	0.05	診療科内における入退院管理, および研修医・担当医の健康管理			0.05	・・・本年度は入院患者数も昨年度を上回り高水準で維持した。研修医・担当医の負担軽減・健康管理に留意し, 担当患者の割り振りなどで偏重がないようにした。		
診療	0.25	神経グループカンファランスの充実、他科専門医師(脳神経外科, 精神科, 神経放射線科)との合同カンファランス 新患予約外来の充実, 病診連携の充実・地域連携システムの構築			0.25	・・・本年度は昨年に引き続き神経グループカンファランスの充実、他科専門医師(脳神経外科, 精神科, 神経放射線科)との合同カンファランス 新患予約外来の充実, 病診連携の充実・地域連携システムの構築を推進した。		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		白石 祐之	所 属		医学部第一外科	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生 支援	0.20	学生講義や各種試験問題を、最新の情報にて更新・施行していく。		0.20	講義内容を更新し、最新情報の提供に努めた。			
研究	0.20	臨床研究データを解析し、学会発表などに生かしていく。		0.20	臨床研究データの論文化、学会発表を行った。			
社会 貢献	0.10	各種、県内外の医学系会議の主催や参加、他病院での手術支援を行う。		0.10	県内病院の臨床支援を行った。			
管理 運営	0.10	院内の会議とうで職責を果たす。		0.10	院内の会議に定期的に出席、発言を行った。			
診療	0.40	肝胆膵領域の高難度手術を中心に、術者および指導者として職責を果たす。		0.40	高難度の手術を施行し、手術指導を行った。			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。				



(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		下地 英明	所 属		医学部医学科	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.25	①医学部の学生に対して: 1) 担当講義を行い、医学知識の向上を図る。2) 医行為を経験させる臨床的・クラークシップ型の外科臨床実習を行う。②医学部学生および研修医に進路指導を行う。③日本静脈経腸栄養学会教育認定施設の指導医として、琉球大学医学部附属病院NSTカリキュラムの作成、指導を行う。			0.25	① 1) 担当講義 1. 食道の外科的治療、2. 栄養法・NST、をおこなった。2) 1外科臨床実習に参加した学生に対して外科臨床実習を指導した。②日本静脈経腸栄養学会教育認定施設の指導医として、琉球大学医学部附属病院NST活動として、平成26年度栄養サポートチーム専門療法士研修カリキュラムを開催し、院内の受講生の指導と講義を行った。以上より、目標以上の内容が達成できた。		
研究	0.30	①消化器外科学領域、特に食道・胃外科領域での臨床研究成果を学会で発表する。②論文を作成し、発表する。③臨床研究成果を基に、科学研究補助金の申請を行い獲得を目指す。			0.30	①国内国外の学会・研究会で5件の発表を行った。②筆頭著者として、英文論文1編の発表を行った。以上より、目標は全て達成できた。		
社会 貢献	0.05	①沖縄県内視鏡会に参加し、地域医療に貢献する。②所属学会・研究会の委員会に参加して、我が国の外科学の進歩に貢献する。			0.05	①沖縄県内視鏡会の定例会、理事会に参加した。②評議員・幹事等に任命されている所属学会・研究会のほとんどに参加し、一定の貢献を行った。以上より、目標は全て達成できた。		
管理 運営	0.10	①担当の医学部附属病院委員会に参加し、運営に寄与する。②コアNSTの中心メンバーとして、病棟NSTの指導を行い栄養サポートチーム加算に協力し、運営に寄与する。			0.10	①任命された各種委員会に委員として出席し、運営に寄与した。②栄養サポートチーム加算の施設基準の担当医師として、栄養サポートチーム加算に協力し、加算可能ものとしている。以上より、目標は全て達成できた		
診療	0.30	医学部附属病院で、①消化器外科領域の食道・胃外科グループ長として、外来診療、病棟診療、手術を担当する。②内視鏡検査を担当する。③NSTのコアメンバーとして、NST活動を行う。①・②・③を通して、若手医師の指導と育成を行う。			0.30	①食道・胃外科のグループ長として、外来診療、病棟診療、手術を担当した。②内視鏡検査を担当した。③NSTのコアメンバーとして、毎週のNST症例検討、NST回診のほとんどに参加した。以上より目標の全てを達成した。		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	佐村 博範		所 属	医学部 医学科	
職 名	助教				
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定	業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.15	ポリクリ学生に対して(1)医療行為を経験させるクリニカル・クラークシップ型の外科臨床実習を行う。(2)臨床実習を通してのclinical questionあるいは興味あるテーマに関し英語論文を検索させ、論文リサーチスキルと適正な読解力および理論的思考法の指導を行う。(3)講義において疾患概念と特徴と問題点、および現在の専門医会でのコンセンサスを教授する。(4)ポリクリ学生および前期臨床研修医と積極的にコミュニケーションをとり、進路選択の一助となるよう相段に応じる。また、参考となる様、担当科(消化器一般外科)の実際を適宜説明する。	0.15	ポリクリ学生に対して(1)日常診療や手術を通して医療行為を経験させるクリニカル・クラークシップ型の外科臨床実習を行う事が出来た。(2)学生に論文検索・抄読させることは出来なかったが、医局員の文献抄読を通して読解の仕方を説明できた。(3)講義において疾患概念と特徴と問題点、および現在の専門医会でのコンセンサスを教授出来た。(4)ポリクリ学生および前期臨床研修医と積極的にコミュニケーションをとり、進路選択の一助となるよう相段に応じた。また、参考となる様、担当科(消化器一般外科)の実際を魅力的に適宜説明出来た。	
研究	0.15	(1)担当専門領域に属する他の教員と共同で、消化器外科領域の臨床医研究成果を学会で発表する。(2)同じく論文作成報告する。(3)九州地方での臨床研究区グループにプロトコール委員および推進委員として参加し、地域共同研究を学会報告および論文報告する。(4)全国規模の臨床試験に参加し、evidenceの構築に寄与出来る診療体系を構築する。	0.10	(1)担当専門領域に属する他の教員と共同で、消化器外科領域の臨床医研究成果を学会で発表した。(2)同じく論文作成報告準備中である。(3)九州地方での臨床研究区グループにプロトコール委員および推進委員として参加し、地域共同研究を学会報告および論文報告した。(4)全国規模の臨床試験に参加し、evidenceの構築に寄与出来る診療体系を構築する事は出来なかった。	
社会貢献	0.05	(1)地域病院で主に手術応援を通して消化器外科最先端の技術を実地指導する。(2)県医師会に参加し、地域医療に貢献する。(3)九州地域および全国規模の臨床研究グループに参加し臨床実績を公正に評価報告することで本邦における診療のエビデンスを確立する。	0.10	(1)地域病院で主に手術応援を通して複数の施設に消化器外科最先端の技術を実地指導出来た。(2)県医師会に参加し、地域医療に貢献できた。(3)九州地域および全国規模の臨床研究グループに参加し臨床実績を公正に評価報告することで本邦における診療のエビデンスを確立に関わっている。	
管理運営	0.15	(1)医学部教授会、病院運営委員会、などの医学部および病院委員会の資料から管理運営に貢献できる分野を確認し、適切な事務処理および医療資源の節減を通して管理運営に寄与する。(2)病院再整備準備室に参加し次期病院構想に参画する。(3)次期電子カルテの選定にコア委員として参加し、病院運営に協力している。(4)がん診療連携協議会において部会長・部会委員を務め管理運営に協力している。	0.10	(1)医学部教授会、病院運営委員会、などの医学部および病院委員会の資料から管理運営に貢献できる分野を確認し、適切な事務処理および医療資源の節減を通して管理運営に寄与した。(2)病院再整備準備室に参加し次期病院構想に参画した。(3)次期電子カルテの選定にコア委員として参加し、病院運営に協力した。(4)がん診療連携協議会において部会長・部会委員を務め管理運営に協力した。	
診療	0.50	(1)医学部附属病院では自科単独あるいは他科と共同で集学的医療を行うことで難易度の高い手術を行っている。特に他科との共同では機能温存手術、根治性の高める工夫をした手術を施行する。(2)高度進行大腸癌に対する集学的治療を施行する。(3)セカンドオピニオン外来を施行する。	0.55	(1)医学部附属病院では自科単独あるいは他科と共同で集学的医療を行うことで難易度の高い手術を施行できた。特に他科との共同では機能温存手術、根治性の高める工夫をした手術を施行出来た。(2)高度進行大腸癌に対する集学的治療を推進できた。(3)セカンドオピニオン外来を数多く請け負った。	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。			<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)								
名 前		青木 陽一	所 属		医学研究科 女性・生殖医学講座	職 名		教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生支援	0.25	<ul style="list-style-type: none"> <li>当科診療マニュアルによる医局員教育の実施</li> <li>チュートリアル授業の取り入れ</li> <li>研究業績の授業への反映</li> <li>産婦人科専攻医に対するセミナー講演</li> <li>医学研究科大学院生7人の研究指導</li> <li>研修病院選択への助言</li> <li>医学博士号取得の勧奨</li> <li>サブスペシャリティー専門医取得の勧奨</li> </ul>		0.25	<ul style="list-style-type: none"> <li>一昨年、当科診療マニュアルを発刊し、医局員教育を実施し、1名が日本産科婦人科学会専門医を取得した。</li> <li>チュートリアル授業を2回実施した。</li> <li>講義、BSTに当分野の研究業績を盛り込んだ。</li> <li>8回の定例研修セミナーを行った。</li> <li>7名の大学院生に対する研究立案、研究指導を行った。</li> <li>研修病院選択への助言を行った。</li> <li>1名が医学博士号を取得し、2名が新たに大学院へ進学する。</li> <li>1名が周産期・新生児学会の母体・胎児専門医を取得した。</li> </ul>			
研究	0.15	<ul style="list-style-type: none"> <li>治験、臨床試験の遂行</li> <li>子宮体癌、既往帝切、卵胞液に関する臨床研究の継続遂行</li> <li>子宮頸癌に関する新研究2件の立ち上げ</li> </ul>		0.15	<ul style="list-style-type: none"> <li>厚生労働省科学研究費による臨床試験で登録終了し、経過観察を実施した。</li> <li>現在、開発治験3件が進行中、臨床研究は多数件進行しており、今年、関連論文2本をpublishした。</li> </ul>			
社会 貢献	0.10	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本産科婦人科学会腫瘍委員会への委員としての参画</li> <li>各種学会・研究会での理事、評議員としての参画</li> <li>沖縄産科婦人科学会での学会・研修会企画開催</li> <li>子宮がん検診勧奨のための公開講座等への参画</li> </ul>		0.10	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本産科婦人科学会腫瘍委員会の委員として、全国婦人科悪性腫瘍登録事業で、2014年の患者年報、2008年までの治療年報を報告した。</li> <li>各種学会での理事会、評議員会への出席。</li> <li>沖縄産科婦人科学会として、年2回の沖縄産科婦人科学会の開催と胎児心エコーセミナーの遠隔地開催の支援を行った。</li> <li>6月21、22日に子宮体がん腹腔鏡下手術セミナーを開催した。</li> <li>9月27日、子宮がん検診啓発のための市民公開講座を開催した。</li> </ul>			
管理 運営	0.20	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療情報・臨床倫理担当病院長補佐としての貢献</li> <li>医療情報管理センター長としての貢献</li> <li>輸血療法委員長としての貢献</li> <li>医学研究科学務委員会での貢献</li> </ul>		0.20	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療情報・臨床倫理担当病院長補佐としての職務を遂行した。</li> <li>病院システム導入・運用推進委員会委員長、病院臨床倫理委員会委員長、医療情報管理センター長としての職務を遂行した。</li> <li>輸血療法委員長としての職務を遂行した。</li> <li>医学部、医学研究科(学務委員)、附属病院(治験倫理審査委員等)における各委員としての任務の遂行。</li> </ul>			
診療	0.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>手術件数の増加、特に腹腔鏡下手術</li> <li>子宮頸癌に対する広汎子宮頸部切断術(腔・子宮体部温存手術)の実施</li> <li>子宮体癌の腹腔鏡下手術の保険診療下実施の推進</li> <li>外来診療体制の再構築</li> </ul>		0.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>前年同時期に比較し、手術件数・腹腔鏡下手術の件数の増加を得ている。</li> <li>平成27年は広汎子宮頸部切断術を3例施行した。</li> <li>子宮体癌の腹腔鏡下手術を10例実施した。</li> <li>外来、病棟診療体制の再構築の計画・立案を行った。</li> </ul>			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	長井 裕		所 属	女性・生殖医学講座	
職 名	准教授				
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定	業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.20	<ul style="list-style-type: none"> <li>最新のエビデンスを反映した婦人科学系統講義/総合講義の実施</li> <li>チュートリアル担当・OSCE腹部担当</li> <li>学生病院実習での評価をフィードバック</li> <li>卒後臨床研修医運営委員会委員</li> <li>大学院生の指導・アドバイス</li> <li>医学部医学科34期生9班 指導教員</li> </ul>	0.20	<ul style="list-style-type: none"> <li>最新のエビデンスを反映した婦人科学系統講義/総合講義の実施:子宮頸癌、子宮体癌、絨毛性疾患に関する系統講義および婦人科悪性腫瘍に対する妊孕能温存治療に関する総合講義を行った。OSCE腹部担当として実習を行い、OSCE試験官として学生評価を行った。</li> <li>学生病院実習での評価をフィードバック:病院実習における学生の要望を医局会で検討し改善してきた。</li> </ul>	
研究	0.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際/国内学会での発表</li> <li>国際誌への投稿</li> <li>婦人科悪性腫瘍に関する臨床研究(GOG Japan, JCOG 婦人科グループ、JGOG等)への参加・実施</li> </ul>	0.20	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際/国内学会での発表: 国内全国学会で、シンポジウム1回、一般講演を1回を行った。</li> <li>関連学会誌への投稿:国際誌への掲載がなされた。</li> <li>多施設共同研究への継続参加:当科の実務担当である。積極的に他施設共同研究(治験を含む)に参加してきた(JCOG, JGOG, 米国GOG等)。</li> </ul>	
社会 貢献	0.10	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本婦人科腫瘍学会 代議員</li> <li>沖縄県産婦人科医会 がん関連対策部理事</li> <li>婦人科悪性腫瘍研究機構(JGOG) GOG-Japan委員会委員</li> <li>沖縄県がん診療連携協議会 普及啓発部会長</li> <li>沖縄県婦人科悪性腫瘍登録事務局長</li> <li>りゅうきゅう臨床研究ネットワーク・がん臨床研究部会委員</li> </ul>	0.20	<ul style="list-style-type: none"> <li>左記の委員活動を積極的に行ってきた。</li> <li>沖縄県婦人科悪性腫瘍登録事務局活動に関して:沖縄県内の婦人科悪性腫瘍患者の登録作業を行い沖縄産科婦人科学会誌に掲載、報告した。</li> <li>沖縄県がん診療連携協議会普及啓発部会 部会長としての活動に関して: 部会を年4回開催し、ラジオ番組への参加企画、癌検診に関する中高校性に対するポスターコンテストを企画、実施した。また教育関係者に対する講座等を行った。</li> <li>本年度から沖縄県産婦人科医会がん部会理事として、子宮頸癌検診についての市民公開講座の運営に携わった。講演も行った。</li> </ul>	
管理 運営	0.10	<ul style="list-style-type: none"> <li>産科婦人科病棟医長</li> <li>医学部附属病院がんセンター レジメン登録審査管理委員会 委員長</li> <li>がんセンター運営委員会 委員</li> <li>医学部医学科カリキュラム委員会 委員</li> </ul>	0.20	<ul style="list-style-type: none"> <li>病棟医長業務に関して、入院患者に関する診療の総括、看護スタッフとの病棟運営についての協議等を行い病棟運営に携わった。</li> <li>レジメン登録ワーキンググループ及びレジメン管理登録委員会を開催し、附属病院内の化学療法レジメン登録・審査を進めてきた(現在も継続中である)。</li> <li>がんセンター運営委員会にレジメン登録審査管理委員会委員長として参加し、種々の検討に加わった。</li> <li>医学部医学科カリキュラム委員会委員として、カリキュラムの作成に参加した。</li> </ul>	
診療	0.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>婦人科診療グループの統括</li> <li>新患外来、再診外来の担当</li> <li>セカンドオピニオン外来担当(婦人科領域)</li> </ul>	0.20	<ul style="list-style-type: none"> <li>婦人科診療グループの実地臨床の統括、及び臨床研究の指導を行ってきた。</li> <li>セカンドオピニオンの対応を必要時おこなった。</li> </ul>	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。			<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		金城忠嗣	所 属	産婦人科	職 名	助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.30	研修医の臨床指導、学生の講義、ベッドサイドティーチングを行い教育に貢献する		0.30	A 3年生を対象に周産期の講義を行った。クリニカルクラークシップで来る学生に指導を行った。	
研究	0.30	大学院に在籍し、周産期、特に超音波領域での研究テーマを見つけ数年後の論文作成を目指す		0.30	大学院に在籍し、帝王切開創のエコーでの評価と開腹での創の評価というテーマを挙げ、論文作成した。	
社会貢献	0.01	大学病院の医師の一員としてリスク管理、感染対策に取り組む。保険診療にのっとり、保険病名を記載する。		0.01	A 産科当直の依頼があった時に応援に行った。	
管理運営	0.09	大学病院の医師の一員としてリスク管理、感染対策に取り組む。保険診療にのっとり、保険病名を記載する。		0.09	A リスク管理、感染対策に取り組み、研修会にも出席した。保険診療にのっとり、保険病名を記載した。	
診療	0.30	日常診療、特に周産期分野において診療し、学会発表を重ねる		0.30	A 産科医として診療し、FIGO2015(バンクーバー)で発表した。	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		トーマ クラウディア	所 属		大学院医学研究科・細菌学講座
			職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生 支援	0.10	①授業評価等の指摘、自らの発意に基づく授業の改善 ②学生からの積極的な意見の聴取		0.10	最近の研究の知見等を学生へ伝えられるように資料を改善した。また、学生の理解度を確かめるために、講義終了後にミニテストを行い、説明不足の部分を把握し、次回の講義の改善を行った。
研究	0.80	①学会誌への投稿 ②学会での報告発表 ③外部資金の獲得 ④所属部外局以外との共同研究		0.80	①国際雑誌に1報掲載 ②3月に大阪で行われる第53回レプトスピラ・シンポジウムに発表を予定している。 ③科研費基盤研究(C)を継続、沖縄県委託事業を獲得 ④学外国内1カ所、海外1カ所との共同研究実地中
社会 貢献	0.10	地域貢献としての具体的取り組み		0.10	「沖縄感染症研究拠点形成促進事業」に参加し、琉球大学研究推進機構、沖縄県衛生環境研究所と連携している。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。			<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		仲宗根 昇	所 属	医学部 医学科	職 名	助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.30	最新医学の情報をわかりやすく、覚えやすいよう工夫して教える。講義に関する質問は常時受け付ける。		0.30	7月に教授が転任したため、受け持つ講義が大幅に増えたが、支障なく終えることができた。講義最後にプチテストを行うことにより、講義内容の確認と記憶の補助に大いに貢献した。講義も視覚、聴覚などを利用し、臨床事例をからませながら行い、講座独自のアンケートでも、よい評価を受けた。	
研究	0.50	沖縄県に生息する植物や海産物から病原菌の病原因子の働きを阻害する因子を探求する。これに関連する研究を募集している企業に積極的に応募している。		0.50	沖縄県に生息する植物抽出物による腸管出血性大腸菌O157のIII型分泌機構の阻害効果に関する研究は現在投稿中であり、またこれと異なる植物の抽出物による阻害効果については、細菌学会九州支部総会で発表した。今年度は、本研究テーマにあう企業の募集は見つからなかった。	
管理運営	0.20	学内教育連絡主任として、学生と教育間の共有をはかる。		0.20	次期主任の指名がないため、継続して業務を行った。学内のFDには、積極的に参加し、また新たな医療情報を得るため、学外の医療関連シンポジウムなどに積極的に参加した。	
計	1.00			1.00		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		高江洲 義一	所 属		大学院医学研究科細菌学講座	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果			
教育・ 学生支援	0.20	・学部および大学院の講義・実習等を担当する。		0.33	・M2『細菌学』講義:90分×5コマ、実習(10,11月)を担当した。 ・医学研究科大学院講義『亜熱帯医学概論』1コマ(8月)を担当した。 ・M4基礎配属実習2名(3週間)を担当した。			
研究	0.70	・科研費を獲得する。 ・積極的に民間の研究助成金に応募し獲得する。 ・研究成果を学会または論文で発表する。		0.60	・科研費(基盤C、H27~29)に新規採択された。 ・第44回日本免疫学会学術集会(札幌市)にて、研究成果を口頭およびポスター発表した。			
社会 貢献	0.05	・学会、研究会活動に積極的に参加する。 ・機会があれば原著論文の査読を引き受ける。		0.02	・原著論文の査読を行った。(Cancer Science誌、PLOS ONE誌 各1件)			
管理 運営	0.05	・入試関連業務に協力する。 ・各種の委員会活動に参画する。		0.05	・教育連絡主任(H27.4.1~H28.3.31) ・新カリキュラム編成委員(細菌学) ・学内共同教育研究施設等研究環境整備費、評価WGメンバー(8月) ・国立大学改革基盤強化促進費 セルソーター納品検査員(9月) ・M6総合試験Ⅱ試験監督(H27.9.4) ・センター試験監督者(H28.1.16)			
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。				



(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		岸本 英博	所 属	医学研究科・寄生虫・免疫病態学講座	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.25	学部学生に対しては、「寄生虫学」、「基礎研究」及び「医学外国語」を担当し、コア・カリキュラムの基準を満たす講義・実習を行う。博士課程の学生の研究を指導し、博士論文の書き方を指導する。基礎研究室配属された学生に対し、全員が英語の論文を読みこなせるように指導し、生命科学の研究に興味を持つよう指導する。琉球大学医学部の研究に関わる国内外の一流の研究者のセミナーを主催する。		0.25	学部学生には、「寄生虫学」、「基礎研究」及び「医学外国語」を担当し、コア・カリキュラムの基準を満たす講義・実習を行った。博士学生には、分子生物学学会で発表を行わせた。基礎研究室配属された学生1人に対し、分子生物学的手法を用いた実験を指導し、麻疹ウイルスに対する抗体を得た。また、英語の論文を読みこなせるように指導し、生命科学の研究に興味を持つよう指導した。沖縄感染免疫フォーラムを開催した。	
研究	0.30	講座スタッフ、学内、学外の研究者と協力して公的外部資金の獲得をめざす。財団法人等の研究助成金の獲得を目指す。国際学会での発表、国内学会での発表を各2回以上行う。国際紙への論文発表を1編以上行う。琉大内での共同研究のシーズを開発する。民間と協力してバイオ医療機器の開発を行う。CPC事業の基礎側のリーダーとして再生医療研究の基盤を整備する。		0.20	沖縄県科学技術振興財団からの研究費を1件獲得した(文科省の科研費継続1件)。そのほかにAMEDの外部資金に応募したが残念ながら採択されなかった。3社と共同研究契約を行った。国際学会では2回以上(共同研究者の発表も含む)、国内学会は3回以上(共同研究者の発表も含む)を行った。国際紙への論文発表は3編。再生医療研究に参加し、基礎や臨床の講座と共同研究を開始した。また、同じく近赤外光を利用した新規の腹腔鏡・内視鏡の開発に着手している。理科大、台北医学大学と琉大の共済の国際シンポジウムの企画立案をし、開催した。	
社会貢献	0.10	日本免疫学会評議員として日本免疫学会のアウトリーチ活動に積極的に参加し免疫学の一般への普及を進める。日本寄生虫学会評議員として寄生虫感染症に対する一般知識の浸透に勤める。医工連携の研究を推進するため、がん医療を支える新技術の研究開発を沖縄の地域の臨床医にも参加を促し、地域特異的な研究のシーズをさがす。		0.05	日本免疫学会の企画する会議に出席した。がん医療を支える新技術の研究開発を模索するワークショップを1回沖縄県で主催した。また、医工連携を模索する沖縄県の会議に参加している。地域特異的な研究のシーズの探索を積極的に行っている。世界ウチナーンチュ大会の委員会に出席し、琉大の企画に携わっている。	
管理運営	0.30	1)講座の責任者として管理・運営に努める。2)ホームページ・広報委員長として医学部のホームページの充実改善や広報活動に努める。3)学務委員長として大学院生の入学者数の増加につながる方法を模索する。4)機器センターの委員として機器センターの機器や使用法の改善を図る。5)研究戦略委員として医学部のみならず他分野との連携を模索し、琉大として大きな研究戦略プロジェクトの立案を試みる。6)動物運営委員として研究しやすい動物室の運営改善を図る。7)学長補佐として諸外国との交換学生システムを確立し実質化し、海外拠点形成を推進する。		0.45	1)国際交流担当の学長補佐として;①文科省世界展開力人材育成プロジェクト(南米)の責任者として応募書類をまとめた。②大学院改組タスクフォースメンバーとして報告書を作成した。③琉球大学の海外拠点形成の立案をした。2)広報・ホームページ委員会の委員長として医学部のホームページの充実改善に努めた。3)学務委員会の委員長として大学院生の入学者数の増加のため学内にて大学院紹介、沖縄工業高等専門学校と連絡をとり大学院紹介を行った。3)機器センターの委員として機器センターの機器の充実を行っている。4)研究戦略委員として医学部のみならず他分野との連携を模索し、琉大として大きな研究戦略プロジェクトの立案を試みる。5)琉大医学部内で沖縄県との共同CPCプロジェクトに協力している。6)動物室の運営改善を提案した。7)国際交流委員としてタイ国タマサット大学との連携を推進し、台北医学大学との連携も推進している。	
進路指導	0.05	1)医学科3年次の指導教員として、受持ち学生の修学面、生活面、精神面に対して指導する。2)医学研究科の学生の就職活動に対して出来る限りサポートする。		0.05	1)医学科3年次の指導教員として、受持ち学生の修学面、生活面、精神面に対して指導を行ったが、残念ながら1人の留年者を出してしまった。特に精神的に不安定な学生には、個人面談を行った。2)留学を希望する琉大の医学生に対して留学についての斡旋・助言を行った。	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。H27年度は、全学の管理運営でかなりの時間を割かれ、教育や研究に対して時間を十分に取ることができなかった。	

※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。

学外公表に同意しない。

学内公表に同意しない。

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		當 眞 弘	所 属	大学院医学研究科	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.35	学部学生に対しては、「寄生虫学」を担当し、コア・カリキュラムの基準を満たす講義・実習を行う。大学院医学研究科博士課程講義「免疫病因病態学特論Ⅰ,Ⅱ」では、研究者としての自立を行い得る高度の研究能力を身につけられるよう指導し、中期目標に挙げられている本学の強みとなる基礎研究推進の一端を担ってもらう。		0.35	学部・大学院教育に関しては目標を達成した。さらに内容を充実させ、問題があれば改善を行う。	
研究	0.30	講座スタッフおよび学内・学外共同研究者と共に研究論文2編の国内外学術雑誌への投稿・採択、及び関連ある国内外の学会での発表1回を行う。関連する分野の外部資金の獲得を目指す。		0.30	国内和文著書1編、国内英文誌論文1編が掲載された。植物由来の抗菌活性物質に関する研究については、投稿予定の論文1編を作成中である。国内学会での発表2回を行った。また、ジャパンローヤルゼリー(株)との「植物由来の抗菌活性物質に関して」の共同研究がスタートし、外部資金を獲得した。	
社会 貢献	0.10	名桜大学看護学科の非常勤講師として「原虫・医動物感染症」の講義を行う。		0.10	名桜大学看護学科の非常勤講師として「原虫・医動物感染症」の講義を行った。	
管理 運営	0.10	寄生虫・免疫病因病態学講座の一員として、管理・運営に努める。また、医学部医学科教育連絡主任として管理・運営に協力する。		0.10	講座の一員として、教室の管理・運営に努めた。	
学生 指導	0.15	医学科4年次の指導教員として、受持ち学生の修学面、生活面に対して、きめ細やかな指導を行う。また、ダイビングクラブの顧問として、学内・学外活動に対して、特に安全面に考慮した指導を行う。		0.15	受持ち学生と個々に面談を行い、修学面、生活面の指導を行った。ダイビングクラブは今年1年無事故で活動することができた。	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前	村上 明一	所 属	大学院医学研究科	職 名	助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.10	CPC事業関連の方々へ、幹細胞分取法、無菌的細胞培養法、さらに細胞培養後の品質を管理するための、分子生物学的手法や細胞染色による解析方法等を教育する。また、寄生虫・免疫病因病態学講座が行う医学部生への教育補助、さらに、博士課程学生への教育補助に積極的に参加する。		0.10	5月1日よりCPC事業の特命助教から、寄生虫・免疫病因病態学講座の助教に就任し、講座が行う医学部学生への教育補助、さらに、博士課程学生への教育を行った。
研究	0.70	再生医療に関する基礎研究を遂行し、日本再生医療学会総会や国際的な学会での発表を目指すとともに、国際紙への論文投稿用データを蓄積する。さらに、現行の抗体研究シーズを発展させ、科研費等の公的な研究費獲得のみならず、企業との共同研究を進めることで、多くの外部資金の調達を目指す。		0.70	新たな抗体作製技術を開発し、外部資金を、第一回JSTマッチングプランナープログラム、および、沖縄科学技術イノベーションシステム構築事業の研究責任者として獲得した。また、3社の企業との共同研究を進めた。
社会貢献	0.10	再生医療分野や抗体を用いた検査系・治療系発展のために、基礎的な実験データを集め、その成果を日本再生医療学会総会、日本免疫学会学術集会、日本分子生物学会年会、The Federation of Clinical Immunology Societies集会で発表する。また、国際紙で発信できるようにデータを蓄積する。		0.10	研究成果を、日本免疫学会学術集会、日本分子生物学会年会、また、国際学会であるThe Federation of Clinical Immunology Societies集会で発表した。また、国際紙で発信できるデータを蓄積した。
管理運営	0.10	CPC事業に関連する、幹細胞分取装置、安全キャビネット、クリーンベンチ、細胞培養用CO2インキュベーター、細胞凍結保存用超低温冷凍庫、培養細胞品質管理に用いるPCRやFACS等、使用機器の管理を行う。		0.10	寄生虫・免疫病因病態学講座の薬品管理および機器管理を行った。また、当講座の研究資金に関する運営を行った。
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠を広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		上里 博	所 属		大学院医学研究科・皮膚病態制御学	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.20	①臨床(外来・病棟)での皮膚科診療について教育を行う ②学部学生および大学院生への皮膚科分野の講義を行う ③研修医に皮膚科学の基礎知識、診断、治療の教育 ④後期研修医および医局員の学会発表、論文作製に対する教育、指導を行う。			0.20	目標に到達している。		
研究	0.20	①皮膚科学会、褥瘡学会、熱帯医学会などの各種学会への参加、発表を行う。 ②各学会雑誌への投稿、発表を行う。 ③本邦におけるリーシュマニア症遺伝子確定診断を行う。			0.20	目標に到達している。		
社会貢献	0.20	①地域での皮膚疾患の知識の啓蒙(市民公開講座の開催)を行う。 ②沖縄県医師会活動を支援し、皮膚疾患に関する講演などを行う。 ③他病院における診療支援(外来診療)を行う。			0.20	目標に到達している。		
管理運営	0.20	①医学部委員、附属病院委員として各種委員会に出席し、医学部および附属病院の運営に参加する。			0.20	目標に到達している。		
進路指導 診療	0.20	①医局員、大学院生の進路指導を行う。 ②専門医試験への準備、指導を行う。 ③琉球大学医学部附属病院での診療(外来および入院)を行う。			0.20	目標に到達している。		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		高橋 健造	所 属		大学院医学研究科 皮膚科
			職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生支援	0.25	皮膚科大学院生の研究指導、皮膚科修練医の学会発表指導、学部学生のポリクリにおける指導、皮膚科の学部系統講義、皮膚科の大学院生講義、医学部5年生の担当教官としての指導、生活指導など。		0.25	卒前教育としての講義、毎週のポリクリを続けている。 卒後教育として皮膚科専門医取得へ向けた国際学会、国内学会での臨床、研究の発表の指導と多数の症例報告論分の助言、作成を行った。27年度は6人の教室員が専門医を取得した。大学院生は3つの研究系国際学会で、計5回の発表を行っている。現在、1名が学位を取得し、2名の学位論文の作製と投稿を順次行っている。4名の大学院生の研究テーマを設定し、学位に向けての研究指導を行っている。 医学部5年生の担当教官としては、2回の面談を含め時々の連絡により、学習、生活指導を行い、学生達は脱落なく通学を続けている。
研究	0.35	大学院生の研究指導を含め、遺伝性皮膚角化症ダリエー病への創薬を塩野義との契約により継続する。悪性黒色腫における血管増生因子の解析、宮古島でのカポシ肉腫の高発症の原因解析、血管肉腫の原因病原体の究明、遺伝性弾性線維腫の原因遺伝子の解明などを進める。これらの課題は、既に科研費を獲得した研究課題である。今年度は皮膚の内因性老化因子の探索を開始し、この研究課題に関する科研費の獲得も成功した。		0.35	ダリエー病の治療薬の開発を継続し取得特許を基に、知財部と共同で2社目の国内製薬企業とMTAを締結し、治療薬としての検定を開始している。大学院生を指導し、沖縄県に多い皮膚科疾患の研究を継続している。血管肉腫の原因病原体の検索、皮膚のRNA編集現象の探索、数種の遺伝性皮膚症の原因遺伝子の探索を継続している。内因性の皮膚老化因子の研究に着手した。教室員の科研費申請、民間グラント申請を指導し、自身も新規に1つの文科省の科研費を獲得した。
社会 貢献	0.10	各地方の医師会などでの皮膚疾患の講演を数回、皮膚科学会総会での4つの教育講演を予定している。		0.10	皮膚科関連の学会での招聘講演、教育講演を数回行った。各地域の皮膚科医師会での教育講演を数回行った。沖縄県に特徴的な薬剤抵抗性アタマジラミ症の治療薬の導入へ向けて、国立感染研究所、東京理科大と共同の上、医師主導治験を行った。
管理 運営	0.10	西部支部皮膚科学会、研究皮膚科学会での評議員としての活動、オリリー協会での評議員としての活動、研究系皮膚科雑誌 JDSでのセクションエディター、臨床系皮膚科雑誌 JDEでのセクションエディター活動、および学内での各種の委員会への出席など。		0.10	西部支部皮膚科学会、研究皮膚科学会、褥瘡学会、オリリー協会での評議員としての活動、研究系皮膚科雑誌 JDSでのセクションエディター、臨床系皮膚科雑誌 JDEでのセクションエディターとして、1年間に今年は約50報ほどの論文の採否の決定を継続している。また10報ほどの皮膚科雑誌での査読を行った。活動学内では、教育担当、授業担当、共通機器購入選定の委員を継続した。
診療	0.20	外来診療・病棟診療での実際の患者診療と、回診・カンファレンスでの医局員への臨床指導		0.20	毎週の外来診療、病棟診療のほか、回診、カンファレンス時に診断、治療の助言を継続している。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		眞鳥 繁隆	所 属	医学部 医学科	職 名	助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.25	医学科学生の臨床系統講義、医学科臨床実習生の指導・教育、看護師の指導・教育、研修医・研究生・医員の指導・教育。 皮膚外科コースの指導。 医学部学生・研修医への進路指導。医学部学生への臨床系統講義。 皮膚外科コースの指導。		0.25	医学科学生の臨床系統講義、医学科臨床実習生の指導・教育、看護師の指導・教育、研修医・研究生・医員の指導・教育。 皮膚外科コースの指導。 上記を実施した。	
研究	0.10	沖縄県皮膚科学会・勉強会への参加・発表。日本形成外科学会・日本熱傷学会・日本皮膚悪性腫瘍学会等への参加・発表。皮膚科関連雑誌への論文投稿。依頼論文の投稿。アタマジラム薬剤の治験。		0.10	沖縄県皮膚科学会・勉強会への参加・発表。日本形成外科学会・日本熱傷学会・日本皮膚悪性腫瘍学会等への参加・発表。皮膚科関連雑誌への論文投稿を実施した。	
社会貢献	0.25	沖縄県他施設での外来診療・手術。離島での診療・手術。市民公開講座の開催、運営。		0.25	沖縄県他施設(本島、離島)での外来診療・手術。市民公開講座の開催、運営を実施した。	
管理運営	0.10	皮膚科外来医長としての運営管理。がんセンター運営・手術部運営・キャンサーボード委員。沖縄県皮膚科地方会の運営、沖縄県皮膚科勉強会の運営、在宅褥瘡セミナーの管理運営。		0.10	皮膚科外来医長としての運営管理。がんセンター運営・手術部運営・キャンサーボード委員。沖縄県皮膚科地方会の運営、沖縄県皮膚科勉強会の運営、在宅褥瘡セミナーの管理運営。	
診療	0.30	大学病院での外来・入院・手術診療。		0.30	大学病院での外来・入院・手術診療。	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		苅谷嘉之	所 属		大学院医学系研究科皮膚病態制御学講座
			職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果
教育・ 学生 支援	0.20	医学部臨床実習生、研修医・研究生・医員および看護師の指導・教育		0.20	医学部臨床実習生、研修医・研究生・医員・看護師への指導・教育を行った。
研究	0.10	皮膚科学会・勉強会および病理学会への参加・発表。		0.10	皮膚科学会総会・病理学会での参加・発表や皮膚科地方会で座長を務めた。
社会 貢献	0.20	沖縄県他施設での外来・病棟診療。		0.20	沖縄県内多施設での外来・病棟診療を行い地域医療に貢献した。
管理 運営	0.20	病棟医長としての病棟管理、リスクマネージャー会議への参加。		0.20	病棟の入退院調整やリスクマネージャー連絡会議へ参加した。
診療	0.30	大学病院での外来診療・手術・入院患者診療。		0.30	大学病院での外来・入院患者診療および生検・手術検体の病理診断を行った。
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)							
名 前		田中勇悦	所 属		大学院医学研究科	職 名	教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.20	学部学生および大学院学生の免疫学および感染免疫学について講義、セミナー、演習、実習を行い、免疫学の基礎知識の修得をさせ、さらに最先端の免疫学の紹介を通して免疫学に興味をもってもらえるような教育を行う。担当する大学院生の研究指導を行い、学術論文を完成させる。また、短期留学生に授業として躰道を教える。		0.40	設定目標を概ね達成できた。		
研究	0.60	外部から調達した研究資金を基盤として、HIVとHTLV感染症克服を目的とした基礎研究を積極的に行う。国内外の研究者との交流を図り、共同研究を進める。		0.40	本年度はHTLV-I研究に重点をおいて、基礎研究と共同研究を進めた。概ね設定目標を達成できた。		
社会 貢献	0.05	HTLV-1診断および研究用キットの開発に努め、広く社会に貢献できるようにする。		0.05	新たな方法にもとづくHTLV-I感染診断法をさらに改良し、学会で発表できたので、概ね設定目標を達成できた。		
管理 運営	0.05	免疫学講座の長として、講座の進展に心がける。また学内各種委員会の役目を果たす。		0.05	概ね設定目標を達成できた。		
進路 指導	0.05	担当する懇話会学生が3年生なので、学生生活や将来の進路の相談にのる。大学院生の進路についてサポートを図る。		0.05	概ね設定目標を達成できた。		
その他	0.05	琉球大学躰道部の顧問および監督として躰道の指導を責任をもっておこなう。		0.05	100%設定目標を達成できた。		
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			



(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名 前		藤猪 英樹	所 属	医学研究科 免疫学講座	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.25	<ul style="list-style-type: none"> <li>・M2免疫学講義6コマ、および実習16コマを担当(自習態度の涵養を目指す)</li> <li>・感染・免疫関連講座との授業内容の改善を行い、講座間の調整を行う。</li> <li>・M2医学外国語(英語)を担当(文献の読み方を指導する予定)</li> <li>・免疫学講座に所属する大学院生に対し論文抄読会を行う。</li> <li>・2年次学生の指導教員として学生のサポートを行う。</li> <li>・免疫学講座に所属する大学院生の日常の指導を行う。</li> <li>・免疫学原著教科書の勉強会を行い、学部学生の参加を呼びかける。</li> <li>・FDセミナーへの参加</li> </ul>		0.25	<ul style="list-style-type: none"> <li>・M2免疫学講義、および実習を担当し、自習への導入を強調した</li> <li>・感染・免疫関連講座との授業内容の改善を行い、講座間の調整を行った。</li> <li>・M2医学外国語(英語)を3名受け持った。</li> <li>・免疫学講座の大学院生2名と論文抄読会を寄生虫学講座と合同で行った。</li> <li>・2年次学生の指導教員として学生のサポートを行った。</li> <li>・免疫学講座に所属する大学院生の日常の指導を行った。</li> <li>・免疫学原著教科書の勉強会を熱生研と合同で行い、大学院生、学部生の参加を得た。</li> <li>・国試対策FDセミナーへ参加した</li> </ul>	
研究	0.55	<ul style="list-style-type: none"> <li>・下記研究を遂行し来年度の科学研究費補助金応募の基礎データを得る「ハムスター母子感染モデル」を構築し、HTLV-1初期感染細胞の同定、およびHTLV-1ワクチン開発研究を行う。</li> <li>・上記研究内容の学会報告(ウイルス学会、免疫学会)を行う。</li> <li>・外部資金獲得により大阪大学産業科学研究所とプロジェクト開始する。</li> <li>・外部資金獲得により富山大学和漢医薬学総合研究所と共同研究を開始する。</li> <li>・慶應義塾大学医学部皮膚科学教室と共同研究に関する感染実験指導を行う。</li> </ul>		0.55	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ハムスター母子感染モデル」を構築した。ウイルス学会、免疫学会で報告を行った。</li> <li>・更にVirusesに論文を投稿受理された</li> <li>・大阪大学産業科学研究所とプロジェクトの打ち合わせを開始した。</li> <li>・外部資金を獲得し富山大学和漢医薬学総合研究所と共同研究を開始した。</li> <li>・3月に報告会参加済み</li> <li>・慶應義塾大学医学部皮膚科学教室と共同研究に関する感染実験指導を行った。</li> </ul>	
管理運営	0.20	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医学部国際認証WGに参画</li> <li>・カリキュラム委員会に参画</li> <li>・医学部図書館分館運営委員会に参画</li> <li>・図書資料選定委員会に参画</li> <li>・発明審査委員会に参画</li> </ul>		0.20	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医学部国際認証WGに参画</li> <li>・カリキュラム委員会に参画</li> <li>・医学部図書館分館運営委員会に参画</li> <li>・図書資料選定委員会に参画</li> <li>・発明審査委員会に参画</li> <li>・大学院改組構想タスクフォースメンバーとなる</li> </ul>	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前	高橋 良明		所 属	大学院医学研究科 免疫学講座		職 名	助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.40	研究指導(大学院生)、免疫学講義(医学部2年次生)、免疫学実習(医学部2年次生)、基礎配属(医学部4年次生)、学内の試験監督(期末試験など)に当たる。		0.40	(1) 研究指導(大学院生)、(2) 免疫学講義(医学部2年次生)、(3) 免疫学実習(医学部2年次生)、(4) 基礎配属(医学部4年次生)、(5) チューター(医学部4年次生)、(6) 学内の試験監督(期末試験)、(7) CBT試験監督を担当した。		
研究	0.50	HTLV-1感染症の病態解明と治療法確立のための基盤研究を行う。また、平成28年度科学研究費補助金の獲得に向け努力する。		0.50	HTLV-1感染症に関する研究を行い、共同で論文を2報発表した。		
社会 貢献	0.01	学外の試験監督への参加(センター試験など)。		0.00			
管理 運営	0.09	講座内設備の保全に務める(停電対策・自然災害対策・その他の緊急問題に対応)。		0.10	(1) 平日および休日に、交代で研究室内設備の保全に務めた。(2) 台風が接近した際に、研究室施設内の停電対策を行った。(3) 休日、学内工事停電の際に、研究室施設内に待機して、緊急事態に備えた。(4) 大学の2次試験にスタッフとして参加した。		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名前	藤田次郎		所属	琉球大学大学院 感染症・呼吸器・消化器内科学	
職名	教授				
領域	業務ウエイト比(予定)	平成27年度 年度目標設定	業務ウエイト比(実績)	平成27年度 年度末自己点検結果	
教育・学生支援	0.05	講義(カラープリントを使用し、かつパワーポイント電子ファイルを配布)、および臨床実習をより充実(より視覚的な回診、スモールグループでの講義など)させる。	0.10	講義(カラープリントを使用し、かつパワーポイントの全てをプリントで配布した)、および臨床実習をより充実(より視覚的な回診での症例呈示を実施)させることができた。	
研究	0.25	自身が第1著者の英文論文を1編以上まとめる。今年度中に感染症関連の教科書、あるいは自身が編集した雑誌を5冊以上出版する。感染症関連の臨床研究「沖縄県における感染症防御を目的とした次世代ゲノム解析技術を用いた迅速診断方法の開発並びに対策拠点の形成(7000万円×3年間、昨年度で終了)」を新たなprojectとして継続する。抗菌薬の治験を積極的に実施する。学会でシンポジスト、教育講演、および特別講演などの演者、座長を務める。	0.20	自身がcorresponding authorの英文論文を多数出版することができた。感染症・呼吸器関連の教科書、あるいは自身が編集した雑誌を5冊以上出版できた。感染症関連の臨床研究「沖縄県における感染症防御を目的とした次世代ゲノム解析技術を用いた迅速診断方法の開発並びに対策拠点の形成(7000万円×3年間)」を新たなprojectとしてさらに3年間継続できた。抗菌薬(レスピラトリーキノロン)の治験を全国調整医師として実施した。学会でシンポジスト、教育講演、および特別講演などの演者、座長を多数務めることができた。結果的に3年連続で研究・教育業績評価優秀者表彰(教授部門)を受けた。	
社会貢献	0.10	沖縄の感染症診療のスタンダードを世界に発信する。肺炎球菌ワクチンの公費助成に尽力するとともに講演会を企画する。沖縄県におけるインフルエンザ対策を充実させるとともに、市民を対象として感染症、または喘息関連の講演を企画する。新聞、マスコミなどを通し、感染症に関する知識を啓蒙する。同時に附属病院長としての渉外活動を実施する。	0.20	沖縄の感染症診療のスタンダードを世界に発信するために英文論文を多数作成した。肺炎球菌ワクチンの公費助成を実現し、かつ全国レベルの多数の講演会を企画した。沖縄県におけるインフルエンザ対策を充実させるとともに、multiplex PCRによる起炎菌診断の手法を確立し、他院からの検体を積極的に受け入れた。また市民を対象として感染症関連の公開講座を企画した。新聞、マスコミなどを通し、感染症に関する知識を啓蒙した。呼吸器学会理事、感染症学会理事として、学会活動に貢献した。また同時に附属病院長としての病院移転に向けての渉外活動を実施した。	
管理運営	0.60	第一内科科長、感染対策室長、および病院長としての責務を果たす。第一内科科長としては、論文数を年間50編確保する。第1種感染症病室2床、第二種感染症病室4床、および結核病床4室を活用する。エイズ拠点病院、肝疾患診療拠点病院、がん診療拠点病院としての役割を担う。附属病院長として、病院の管理をするのみならず医学部・附属病院の移転に関して役割を果たす。	0.50	第一内科科長、感染対策室長、および病院長としての責務を果たした。第一内科科長としては、論文数を年間50編以上を作成した。第1種感染症病室2床、第二種感染症病室4床、および結核病床4室を活用した。エイズ拠点病院、肝疾患診療拠点病院、がん診療拠点病院としての役割を担った。附属病院長として、病院の管理をするのみならず医学部・附属病院の移転に関して役割を果たした。	
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。			<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	健山正男		所 属	大学院 感染症・呼吸器・消化器内科学	
職 名	准教授				
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果
教育	0.10	1. 授業 a)目標:80%以上の出席をし、予習を行って臨んだ学生に対しては国試合格水準はもとより研修医レベルの基本的知識を取得させる。a)内容:診療と直結した双方向とリアリティを感じさせる講義を行う。b)評価:授業における質問と定期試験の成績、出席率により評価を行う。		0.10	学生授業においては、感染症系統講義世話人として、シラバス、カリキュラム作成にあたった。本学の特徴である、熱帯医学、国際保健のカリキュラムを専門家を招聘し充実させた。近年問題となっている感染症アウトブレイクに関して、医療行政の講師に依頼し医学部生の将来研修に役立てた。大学院学生の指導を行い、研究、発表、論文指導にあたった。
研究	0.30	1. 学会誌への投稿 邦文1編、1編(英文誌)。2. 著書 2編(分担) 3. 総説 2編。2. 研究関連領域の学会発表、総会レベルでのシンポジウム1題、6題(共同演者含)。3. 所属学会での役割 理事、評議員としての活動。4. 外部資金獲得 総額300万以上の獲得(分担研究含む)5. HIV関連神経認知障害の定量的評価の研究		0.30	学会誌への投稿(筆頭著者)は0。著書は7編、総説5編であった。科学研究費獲得は2件(200万)。学会活動は全国総会のシンポジウム、教育講演の司会を努めた。
社会貢献	0.05	1. HIV/AIDS予防啓発のための講演。2. 沖縄県におけるHIV/AIDS予防啓発のための組織作り。3. 勤務医、開業医むけの講演会の開催。4. 沖縄県HIV協議会委員としての活動。		0.05	本県におけるHIV感染者の透析医療体制構築を行った。また、HIV/AIDS患者の歯科診療体制構築にも努めた。勤務医、開業医むけのHIV/AIDS講演会を5回実施した。4. 沖縄県HIV協議会委員として中心的活動を行った。
管理運営	0.20	1. 院内貢献:a)院内感染対策室実務の責任者としての活動、b)職員血液曝露対策の実務責任者としての活動。2. エイズ中核拠点病院における貢献:委任された事項(県内診療体制の構築、研修会、広報誌の発行)の遂行。		0.20	1. 院内貢献:エボラ診療体制構築の責任者として体制構築を行った。感染対策関連で外部監査に対応。2. 職員血液曝露対策の実務責任者としての活動。3. エイズ中核拠点病院における貢献:委任された事項(県内診療体制の構築、研修会、広報誌の発行)の遂行をおこなった。その他感染対策委員、薬事委員、ME選定委員、臨床研修プログラム委員。臨床倫理症例発表
進路指導	0.05	指導教官担当学生(11名)の留年、退学の予防。成績不振者に対する助言 2. 専門領域を含む進路指導。具体的には指導教官との交流会を6月末までに開催		0.05	前任の担当教官の学外移動により、代理指導教官に任命された。担当した指導教官担当学生(11名)の該年度の留年者は0であった
診療	0.30	1. HIV/AIDS診療:当院の実務責任者としての役割を担う。2. 輸入感染症の治療環境整備(厚労省研究班指定薬剤保管者)。3. 院内・院外の難治性感染症のコンサルテーションおよび医師の指導		0.30	1. 県内のHIV/AIDSの85%の診療に能っている。重症AIDS患者の救命率95%を達成。2. 輸入感染症では、責任者として院内の一種感染症受け入れ体制を構築した。
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		古堅 誠	所 属		琉球大学 大学院 医学研究科 感染症・呼吸器・消化器内科学講座(第一内科)	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.25	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カンファレンス、勉強会、抄読会などを通して、学生や研修医に対して、肺がん診療についての新しい情報提供を行う。</li> <li>・学生の理解度や関心を高めるため、授業内容の改善に努める。</li> </ul>			0.25	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カンファレンスを実施することで、学生や研修医の肺がん診療への理解が深められるよう努めた。</li> <li>・勉強会や抄読会で肺がん診療についての新しい情報提供をおこなった。</li> </ul>		
研究	0.25	<ul style="list-style-type: none"> <li>・九州肺癌研究機構(LOGiK)や沖縄県の肺癌診療グループ内での臨床研究に積極的に参加する。</li> <li>・貴重な症例の症例報告を中心とした学会誌への投稿。</li> <li>・呼吸器/肺腫瘍領域の学会での発表。</li> </ul>			0.25	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特異な診療経過を呈した症例につき、学会発表や英文での論文報告(Case Report)をおこなった。</li> </ul>		
社会貢献	0.05	<ul style="list-style-type: none"> <li>・九州肺癌研究機構(LOGiK)プロトコール委員会への参加。</li> <li>・沖縄県の肺癌診療向上のため、県内の肺癌診療グループ内で勉強会を企画する。</li> </ul>			0.05	<ul style="list-style-type: none"> <li>・九州肺癌研究機構(LOGiK)プロトコール委員会に参加し、プロトコール治療作成にかかわった。</li> <li>・県内の肺癌診療医の間で勉強会を行い、県内の肺がん診療の向上に努めた。</li> </ul>		
管理運営	0.05	<ul style="list-style-type: none"> <li>・院内レジメン委員会への出席(肺腫瘍レジメンに関する発表の際の出席)。</li> <li>・外来医長として、外来診療で生じた諸問題に対応する。</li> </ul>			0.05	<ul style="list-style-type: none"> <li>外来医長として、外来スタッフからの要望に対応し、円滑な診療が継続できるよう努めた。</li> </ul>		
診療	0.40	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肺腫瘍外来や肺腫瘍セカンドオピニオン外来を担当し、受け持ち患者の適正な診療に従事する。</li> <li>・肺腫瘍患者カンファレンスを定期的に行い、診療上の問題点の解決や今後の方針決定、部所内での患者情報の共有に努める。</li> </ul>			0.40	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肺腫瘍外来や肺腫瘍セカンドオピニオン外来を担当し、受け持ち患者の適正な診療に従事した。</li> <li>・放射線治療医と肺腫瘍患者カンファレンスを定期的におこない、院内の肺癌診療向上に努めた。</li> </ul>		
計	1.00				1.00			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名 前		金城 徹	所 属		第一内科(感染症・呼吸器・消化器内科学)	
職 名				助教		
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.25	医学部学生への臨床講義を1コマ担当する。医学科実習生や研修医には消化器病学の一般臨床を中心に教育し、当医局に入局した後期研修医や消化器病・消化器内視鏡専門医をめざす医師に対しては消化器病学以外に内視鏡の知識や技術を含め全般的に指導を行う。また、前記対象者(実習生以外)に消化器病関連学会における発表の指導を行う。		0.25	医学部学生への臨床講義を1コマ担当した。医学科実習生や研修医には消化器病学の一般臨床を中心に教育し、当医局に入局した後期研修医や消化器病・消化器内視鏡専門医をめざす医師に対しては消化器病学以外に内視鏡の知識や技術を含め全般的に指導を行った。また、前記対象者(実習生以外)に消化器病関連学会における発表の指導を行い、内視鏡学会のハンズオンセミナーを2016年3月に行った。	
研究	0.25	難病に該当する炎症性腸疾患患者が多く通院する当院において、沖縄県における炎症性腸疾患の疫学的背景や臨床所見(消化器内視鏡所見)をまとめ、治療方針決定における消化器内視鏡の役割を明確にする。		0.25	難病に該当する炎症性腸疾患患者が多く通院する当院において、沖縄県における炎症性腸疾患の疫学的背景や臨床所見(消化器内視鏡所見)をまとめ、治療方針決定における消化器内視鏡の役割について検討した。	
社会 貢献	0.10	班会議における臨床研究に積極的に参加し、臨床消化器病における概念や治療方針決定などに貢献できるようにする。		0.10	班会議における臨床研究に積極的に参加し、臨床消化器病における概念や治療方針決定などに貢献できるように協力している。	
管理 運営	0.10	日々の内視鏡業務が円滑に行えるように、検査前日や当日に担当医師や看護師と密に連携し、内視鏡業務運営を行っている。また、月1回の光学医療部小委員会にも参加している。		0.10	日々の内視鏡業務が円滑に行えるように、検査前日や当日に担当医師や看護師と密に連携し、内視鏡業務運営を行っている。また、月1回の光学医療部小委員会にも参加している。	
診療	0.30	外来業務を週1コマを周年で行っている。特に炎症性腸疾患の治療(生物学的製剤の導入など)や早期消化器癌の内視鏡治療(早期食道癌・胃癌・大腸癌の内視鏡的粘膜下層剥離術)を中心に診療を行っている。内視鏡治療においては年間20例以上を目標としている。		0.30	外来業務を週1コマを周年で行っている。特に炎症性腸疾患の治療(生物学的製剤の導入など)や早期消化器癌の内視鏡治療(早期食道癌・胃癌・大腸癌の内視鏡的粘膜下層剥離術)を中心に診療を行っている。内視鏡治療においては年間20例以上を目標とし、達成した。	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		金城 武士	所 属	医学研究科 感染症・呼吸器・消化器内科学	職 名	助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.20	系統講義では、学生の興味を引き付ける理解しやすいスライド作成に努め、呼吸器、感染症診療の面白さを伝える。病棟においては、胸部単純写真の読影レクチャーを定期的に行う。卒業後の進路に悩む学生がいれば、積極的に相談にのるようにする。		0.20	主にM5学生を対象とした定期的な胸部レントゲン読影のレクチャー(1時間)を2週間毎に行い、基本的事項から実際の症例を交えた応用編まで幅広く教えることができた。学生がどの程度理解しているのか把握し、スライドは必要に応じて何度か修正を加え、より学生の理解が深まるように努力した。またM3学生を対象とした系統講義も複数担当した。	
研究	0.40	呼吸器・感染症グループのみでなく、消化器グループとも連携を取り、臨床上の疑問を、研究を通して明らかにする。		0.40	大学院生数名と定期的にディスカッションを行い、研究計画の立案や結果の解析方法、そして論文の執筆に関する指導を行った。	
社会貢献	0.20	貴重な症例や研究成果を積極的に国内外の学会で発表し、論文化することで、広く情報を発信する。		0.20	貴重な症例や研究成果は国内外の学会で発表し、情報を広く発信することができた。	
管理運営	0.10	当科における研究活動が円滑に進むよう、実験室の管理、運営を行う。		0.10	実験室の管理に関する様々な書類は迅速に対応し、提出した。実験室の管理、運営は問題なく行うことができた。	
診療	0.10	各々の患者に最適な医療を提供できるよう、常に最新の医学情報を学ぶ姿勢で取り組む。また、患者やその家族との対話をしっかりと行い、納得した上で医療を受けてもらうよう努力する。		0.10	学会に積極的に参加し、最新の医学情報を入手することができた。また、患者やその家族との対話も十分に行った上で診療することができた。	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	上述のように、総じて目標を達成することができた。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		只野昌之	所 属		医学研究科ウイルス学講座	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.50	ウイルス学、医学外国語、微生物学・腫瘍学特論(Ⅰ)、微生物学・腫瘍学演習および実習を担当する。これらの講義では学生の発表等を積極的に促し、教官からの一方的な授業形態にならないようにする。また、医学概論Aでは受講生に専門教科に興味を持たせ、今後の専門教育課程に入り易いような講義を目指す。指導教官としての職務を遂行する。			0.50	担当した講義および実習は目標通り遂行した。また、指導教官としての職務も遂行した。		
研究	0.40	新しいワクチン候補の研究開発とともに、それら候補ワクチンの評価を行う。本研究はジェクタスノベーターズ及び他大学研究機関との共同研究で行われており、既に動物実験を伴う評価実験には相当な研究費(含外部資金)がつかぎ込まれているが、研究を継続・発展させ、実用化の可能性を模索することで、今後とも外部資金獲得が継続できるように努力する。			0.40	本学熱生研、ジェクタスノベーターズ及び他大学研究機関と共同で行われた「新規ワクチン開発および評価研究」は目標通り遂行した。更に、H27沖縄県感染症拠点形成事業において採択された研究プロジェクト「ウイルスワクチンを安心安全に生産するための先端遺伝子工学技術の開発」の中で「日本脳炎ワクチン候補の免疫応答の機能解析」を担当した。		
社会貢献	0.05	名桜大学・看護課程、沖縄看護専門学校の微生物学の講義を担当する。日本脳炎ウイルス生態学研究会の事務局運営を担当する。沖縄県と農林水産省の取り組みで行われている「再生水(下水処理水)利用による沖縄型水循環システム導入」におけるリスクコミュニケーション検討部会への専門家としての参加。			0.05	設定した目標通りに遂行した。		
管理運営	0.05	琉球大学医学部医学科教育連絡主任の職務を遂行する。			0.05	設定した目標通り遂行した。		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>			1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			



(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		齊藤 美加	所 属	医学研究科	職 名	助教
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生支援	0.30	ウイルス学実習の準備・実施・指導・評価を行なう。実習を通して基礎的なウイルスの取扱、細胞との相互作用、抗体反応に関して興味を持たせ、深い理解を促す。基礎配属の学生指導、評価を行う。具体的にウイルス疫学研究の古典的アプローチから分子疫学に至る一連の流れからウイルス学の学び方、考え方的一端を習得してもらうことを目標とする。		0.10	ウイルス学実習準備実施指導評価を行い、学生の理解を促す工夫を行い、好評を得た。基礎配属の学生指導のため、フィールド調査と実験室の両方を経験させ、身近な病原体の問題と先端研究をつなげる試みをし、一部結果を学会発表した。琉球大学農学部、農学研究科、連合農学から3人の学生を技術補佐員として、農学研究科から1名を研究支援員として雇用し、研究の指導をした。	
研究	0.50	沖縄県での日本脳炎ウイルスの分子疫学、血清疫学研究の継続遂行、まとめ、学会発表、論文発表。沖縄県のアルボウイルスに関する疫学調査に関して、外部資金獲得および共同研究(酪農学園大学)を目指す。		0.70	沖縄県感染症研究拠点形成促進事業獲得し立ち上げに深く関わった。沖縄県蚊媒介性病原体探索の班の班長として、また事業を酪農学園大学との共同研究で推進している。沖縄県の新たな日本脳炎ウイルスの系統出現とその病原性に関する研究を行った。学会発表2演題発表(日本脳炎ウイルス生態学研究会、日本ウイルス学会)、論文第一著者2報出版(日本野生動物医学会誌、JJID)	
社会貢献	0.10	沖縄県の感染症の疫学研究を通じリスク評価を行ない、発表を通じ成果を還元する。沖縄県へ食肉衛生に関して学識経験者として貢献する。		0.10	上記事業での県内ネットワーク形成強化、日本脳炎確定診断、沖縄県食肉衛生研究会学識経験者、ジカ熱専門家コメント(サイエンスメディアセンター)	
管理運営	0.10	新設講座(ウイルス学)の運営補助、感染症法に関連した特定病原体の取り扱い管理補助		0.10	新設講座の機材器具の調達、調整。特定病原体管理取扱い及び施設使用に関する調整及び補助。ジェンダー協働推進室研究支援員獲得。	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		大城 絢子	所 属		大学院医学研究科 臨床研究教育管理学講座	職 名		特命助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.35	臨床研究マネジメント人材育成のために、「臨床研究教育管理センター利用者・臨床研究インテンスティブフェローシップ受講生・臨床研究教育管理学講座院生」の臨床研究力向上のためのコーディネート(勉強会やワークショップ・カンファレンスの企画・解析ソフトの導入に向けた、学外の講師や企業との交渉)を実施する。			0.30	当初の予定通り、臨床研究マネジメント人材育成のために、学外の講師や企業との交渉を実施した。その結果「臨床研究教育管理センター利用者・臨床研究インテンスティブフェローシップ受講生・臨床研究教育管理学講座院生」の臨床研究力向上のための勉強会やワークショップ・カンファレンスの企画・解析ソフトの導入を効率的におこなった。		
研究	0.02	臨床研究マネジメント人材育成プロジェクトに関わる研究者からの評価内容により、プロジェクトのマネージメント法や教育の質を追求する。具体的にはアンケート集計の分析結果を参考にする。			0.10	当初の予定通り、臨床研究マネジメント人材育成プロジェクトに関わる研究者からのアンケート集計の分析結果を参考にし、プロジェクトのマネージメント法や教育の質の改善を図った。さらに、一般的な教育モデルの応用の仮説を立案できた。		
社会 貢献	0.30	琉球大学医学部・附属病院・沖縄県立病院をはじめとした県内外の臨床研究関連のワークショップ運営により、臨床研究推進能力の向上に貢献する。またその成果をホームページや関連学会にて報告する			0.30	当初の予定通り、県内外の臨床研究関連のワークショップ運営により、臨床研究推進能力の向上に貢献できた(アンケート集計結果より)。またその成果をホームページや関連学会に加え、県内の病院事業局や文部科学省高騰教育局医学教育課大学病院支援室へも報告した。		
管理 運営	0.33	「臨床研究マネジメント人材育成プロジェクト」の予算や進捗管理、ワークショップのプログラムや大学院講座のシラバス・カリキュラム設定や成果報告事項の整理をする。また臨床研究教育管理センターの各部門における規程規約作成・委員会設置等の基盤整備を実施する。			0.30	当初の予定通り、「臨床研究マネジメント人材育成プロジェクト」の予算や進捗管理、ワークショップのプログラムや大学院講座のシラバス・カリキュラム設定や成果報告事項の整理をし、学外へ発信をした。また臨床研究教育管理センターの各部門における規程規約作成・手順書作成・委員会設置等の基盤整備を実施した。		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成28年5月以降に学内外へ公表されます。

平成27年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		池原 由美	所 属		医学部附属病院 臨床研究教育管理センター	職 名		特命助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成27年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成27年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.10	<ul style="list-style-type: none"> <li>臨床研究人材育成プログラムのワークショップおよびフェロシップコースの実施及び運営の支援</li> </ul>			0.05	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークショップ及びフェロシップコースの準備、運営支援を行った</li> <li>部署内の定例勉強会の開催及び参加</li> <li>日本臨床試験学会認定GCPエキスパート取得</li> <li>日本人類遺伝学会認定ゲノムメディカルリサーチコーディネーター取得</li> </ul>		
研究	0.20	<ul style="list-style-type: none"> <li>モニタリング手法についての検証を行い学会発表する</li> <li>科研費の申請を行う</li> </ul>			0.20	<ul style="list-style-type: none"> <li>臨床薬理学会において臨床研究のモニタリングとデータマネジメントに関する2つの演題を共著者として発表</li> <li>臨床試験の監査について著書執筆</li> <li>モニタリング及び監査について学会誌からの依頼寄稿</li> <li>臨床試験の品質管理に関連する研究案を科研費申請実施</li> </ul>		
社会貢献	0.10	<ul style="list-style-type: none"> <li>県内医療機関合同の臨床試験コーディネーター勉強会の継続</li> </ul>			0.05	<ul style="list-style-type: none"> <li>第15回CRCと臨床試験のあり方を考える会議 ポスター座長</li> <li>第16回CRCと臨床試験を考える会議 プログラム委員</li> <li>県内医療機関合同の臨床試験コーディネーターの勉強会開催</li> <li>治験、臨床研究の全国規模の有志の会「モニタリング2.0検討会」幹事として、組織を超えた臨床試験の品質向上および効率化推進活動</li> </ul>		
管理運営	0.60	<ul style="list-style-type: none"> <li>新設センターの業務に関して、関連部門と調整し体制を整備する</li> <li>モニタリング及び監査の実施体制整備</li> <li>新指針に沿った研究管理体制の整備</li> </ul>			0.70	<ul style="list-style-type: none"> <li>新設された臨床研究教育管理センターの業務について、関連部門との調整を行い、業務体制の整備を行うとともに業務要項を整備した</li> <li>モニタリングおよび監査の実施体制の整備および手順書の作成</li> <li>モニタリングおよび監査の外部受け入れに伴う手順の確率</li> <li>新指針に対応した研究体制を整備するため、倫理審査委員会事務局の支援およびの見直し等を実施した</li> </ul>		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>			1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			